

# 2022 年度 授業評価アンケート

## 1. 授業評価アンケート(学部)

### 1-2. アンケート実施率

2022年度に実施した授業評価アンケートに基づき、授業評価の結果とその分析をまとめたものである。

#### 【実施率】

以下は科目分類・教員別の授業評価アンケートの実施率である。

〈科目分類・教員別〉

科目分類 <sup>※1</sup>	実施 件数	依頼 件数	実施率 ※2	構成比 ／全学	専任／ 非専任別	実施 件数	依頼 件数	実施率 ※2	構成比 ／全学
総合科目	97	100	97.0%	4.3%	専任	47	49	95.9%	2.1%
					非専任	50	51	98.0%	2.2%
外国語・ 国際関連科目	651	729	89.3%	31.5%	専任	172	189	91.0%	8.2%
					非専任	479	540	88.7%	23.3%
経済学部科目	330	340	97.1%	14.7%	専任	228	237	96.2%	10.2%
					非専任	102	103	99.0%	4.5%
人文学部科目	607	710	85.5%	30.7%	専任	293	379	77.3%	16.4%
					非専任	314	331	94.9%	14.3%
社会学部科目	277	294	94.2%	12.7%	専任	159	175	90.9%	7.6%
					非専任	118	119	99.2%	5.1%
国際教養学部 科目	55	76	72.4%	3.3%	専任	48	67	71.6%	2.9%
					非専任	7	9	77.8%	0.4%
教職・ 学芸員科目	59	64	92.2%	2.8%	専任	23	23	100.0%	1.0%
					非専任	36	41	87.8%	1.8%
合計 (全学)	2,076	2,313	89.8%	100.0%	専任	970	1,119	86.7%	48.4%
					非専任	1,106	1,194	92.6%	51.6%

※1 科目分類は、科目の種別により分類した。

※2 実施率は、実施件数／依頼件数とした。

#### 【実施率】

以下は授業形態・教員別の授業評価アンケートの実施率である。

〈授業形態・教員別〉

授業形態 <sup>※1</sup>	実施 件数	依頼 件数	実施率 ※2	構成比 ／全学	専任／ 非専任別	実施 件数	依頼 件数	実施率 ※2	構成比 ／全学
演習	667	785	85.0%	33.9%	専任	475	584	81.3%	25.2%
					非専任	192	201	95.5%	8.7%
講義	661	715	92.4%	30.9%	専任	303	331	91.5%	14.3%
					非専任	358	384	93.2%	16.6%
実習 (外国語含む)	748	813	92.0%	35.1%	専任	192	204	94.1%	8.8%
					非専任	556	609	91.3%	26.3%
合計 (全学)	2,076	2,313	89.8%	100.0%	専任	970	1,119	86.7%	48.4%
					非専任	1,106	1,194	92.6%	51.6%

※1 授業形態は、授業の種別により分類した。

※2 実施率は、実施件数／依頼件数とした。

### 1-3. アンケート回答率

#### 【回答率】

以下は授業評価アンケートの科目分類・教員別回答率である。

〈科目分類・教員別〉

科目分類※1	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2	専任/ 非専任別	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2
総合科目	100	12,635	4,153	32.9%	専任	49	4,604	1,459	31.7%
					非専任	51	8,031	2,694	33.5%
外国語・ 国際関連科目	729	12,434	6,187	49.8%	専任	189	2,894	1,399	48.3%
					非専任	540	9,540	4,788	50.2%
経済学部科目	340	21,858	5,041	23.1%	専任	237	14,117	3,051	21.6%
					非専任	103	7,741	1,990	25.7%
人文学部科目	710	17,194	6,532	38.0%	専任	379	7,656	2,763	36.1%
					非専任	331	9,538	3,769	39.5%
社会学部科目	294	14,463	4,667	32.3%	専任	175	7,070	2,115	29.9%
					非専任	119	7,393	2,552	34.5%
国際教養学部 科目	76	1,148	356	31.0%	専任	67	1,041	320	30.7%
					非専任	9	107	36	33.6%
教職・ 学芸員科目	64	2,000	957	47.9%	専任	23	909	512	56.3%
					非専任	41	1,091	445	40.8%
合計 (全学)	2,313	81,732	27,893	34.1%	専任	1,119	38,291	11,619	30.3%
					非専任	1,194	43,441	16,274	37.5%

※1 科目分類は、科目の種別により分類した。

※2 回答率は、回答者数／履修者数とした。

2022年度の回答率を科目分類別に見ると、外国語・国際関連科目が最も高く49.8%であり、教職・学芸員科目(47.9%)と続く。また、科目分類・教員別では、専任教員では教職・学芸員科目、非専任教員は外国語・国際関連科目が最も高く、共に50%を超える。

## 【回答率】

以下は授業評価アンケートの授業形態・教員別の回答率である。

〈授業形態・教員別〉

授業形態※1	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2	専任/ 非専任別	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2
演習	785	11,645	4,577	39.3%	専任	584	8,340	2,906	34.8%
					非専任	201	3,305	1,671	50.6%
講義	715	56,203	16,255	28.9%	専任	331	26,779	7,126	26.6%
					非専任	384	29,424	9,129	31.0%
実習 (外国語含む)	813	13,884	7,061	50.9%	専任	204	3,172	1,587	50.0%
					非専任	609	10,712	5,474	51.1%
合計 (全学)	2,313	81,732	27,893	34.1%	専任	1,119	38,291	11,619	30.3%
					非専任	1,194	43,441	16,274	37.5%

※1 授業形態は、授業の種別により分類した。

※2 回答率は、回答者数／履修者数とした。

授業形態別では、実習が50.9%と最も高い。授業形態・教員別においても、専任教員・非専任教員共に実習が最も高い。

また、いずれの授業形態においても、非専任教員の方が専任教員よりも回答率が高い。

## 1-4. アンケート結果の考察

### 【Ⅰ. 授業への取組状況】

授業の履修理由としては、総合科目、外国語・国際関連科目、専門科目の講義では「授業内容にひかれた」、外国語・国際関連科目の実習形式、専門科目の演習では「必修だから」が高く、結果が分かれる。教職・学芸員科目では講義で「資格取得に必要だから」が高い。専門科目の講義・演習における「授業内容にひかれた」が2020年度よりも上昇し、演習における「必修だから」が低下している。

予習・復習など授業外における1週間の取り組みに関しては、全体として「2時間未満～1時間以上」「1時間未満」の回答が高い結果となった。演習では取組時間が長い傾向があり、一方で、講義では取組時間が短い傾向が見られる。全体として、昨年度より「2時間以上」の回答が低下している。

出席に関しては、「ほぼ毎回出席した」の回答が80%前後を占める結果となっているが、全体として昨年度より低下している。

### 【Ⅱ・Ⅲ. 授業評価】

昨年度と同じく、総合的にみた授業の満足度は全体的に高く、「強くそう思う」「そう思う」の回答が、いずれの科目分類・授業形態においても8割を超える結果となった。特に外国語・国際関連科目の講義、専門科目(全体)の演習において「強くそう思う」が50%を超える。専門科目(全体)としては演習の方が講義・実習よりも満足度が高い一方で、国際教養学部は実習において「強くそう思う」が約60%と他よりも高い。専門科目(全体)の講義では、わずかではあるが昨年度よりやや低下している。

この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい(Ⅱ-6)においても、昨年度と同様に全体的に「強くそう思う」「そう思う」が高い結果となった。科目分類別で見ると、教職・学芸員科目において、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が他と比べ高くなっている。また、全体としては演習の方が講義・実習よりも「強くそう思う」が高い傾向が見られ、満足度と同じような結果が得られている。一方で、専門科目(全体)の演習を除いて「強くそう思う」「そう思う」の回答は昨年度よりやや低下傾向が見られる。

授業内容に関する設問は、いずれの設問でも科目・学部に関わらず全体的に評価が高いが、専門科目の演習を除き昨年度より低下している設問も多い。また、「教科書・配布資料の効果的な使用」「配布資料の読みやすさ」において、他の科目分類と比べ教職・学芸員科目の評価が低い傾向が見られる。引き続き学生の理解促進・興味喚起に繋がる授業を続けると共に、評価が伸び悩んでいる科目の改善が望まれる。

教員に関連する設問では、「問い合わせへの対応」「報告や討論の仕方についての指導」といった、教員と学生間のコミュニケーションの設問において、「質問や問い合わせをしなかった」「対象外」の回答率がやや高く、昨年度より上昇傾向がある。該当者の回答に限定すると、科目分類・授業形態に関わらず「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は5%前後に留まるため、評価は高いと考えられる。

※

#### ■授業内容に関する設問

Ⅱ-2. 授業内容を理解できた

Ⅱ-3. 授業内容に興味を持てた

Ⅱ-4. 授業の進行速度は適切だった

Ⅲ-1. 教科書・配布資料などは効果的に使われていた

Ⅲ-2. 配布資料などの文字は読みやすく書かれていた

Ⅲ-4. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽になった

#### ■教員に関連する設問

Ⅱ-5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた

Ⅲ-3. 教員は報告や討論の仕方について指導してくれた

#### **【IV. 身についた知識・能力・態度】**

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」が高くなっている項目が多い結果となった。授業形態別で見ると、演習の方が講義・実習より「強くそう思う」の割合が高い傾向が多くの項目で見られる。

科目分類・授業形態問わず、「幅広い教養が身についた」「専門的知識が身についた」「主体的に学ぶ力が身についた」「学びを社会のなかで活用する力が身についた」において、全体的に「強くそう思う」「まあそう思う」が高く、「授業内容が該当しない」が低い。また、総合科目のみの聴取だが、「多様な視点で現代社会を捉える力が身についた」も「強くそう思う」「そう思う」が高い結果となった。一方で、「多様性を理解する力が身についた」「他者と協働する力が身についた」「グローバルに思考する力が身についた」「外国語を運用する力が身についた」において、「授業内容が該当しない」がやや高く、「強くそう思う」「そう思う」の割合が低く結果が分かれている。

「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は、いずれの設問においても高くなく、10%前後に留まる。「主体的に学ぶ力が身についた」における人文学部の講義のみ、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が15%を超えており、注意が必要かもしれない。

## 1-5. 集計結果

授業評価アンケートの集計結果を設問ごとに示す。分類は以下の通り。

- ・【総合科目】講義／演習
- ・【外国語科目】講義／演習／実習
- ・【教職・学芸員科目】講義／演習
- ・【専門科目(全体)】講義／演習／実習
- ・【専門科目(経済学部)】講義／演習
- ・【専門科目(人文学部)】講義／演習／実習
- ・【専門科目(社会学部)】講義／演習
- ・【専門科目(国際教養学部)】講義／演習／実習

※経済学部・社会学部の実習は回答がなかったため、分類をしていない。

### **【I. 授業への取組状況】**

#### I-1. この授業を履修した理由は何ですか？

全体として「授業内容にひかれた」「必修だから」が高い結果となった。

総合科目を授業形態別で見ると、「授業内容にひかれた」の次に、講義では「時間割上都合がよかった」、演習では「必修だから」が高い。また、昨年度と比べ講義では「授業内容にひかれた」が低くなっている一方で、2020年度から「単位がとりやすそうだった」が高くなっている。演習では2020年度以降「授業内容にひかれた」が低くなり、「時間割上都合がよかった」が高くなっている。

外国語・国際関連科目は講義では「授業内容にひかれた」が高く、実習では3年連続「必修だから」が最も高い結果となった。

教職・学芸員科目は、「資格取得に必要だから」が最も高く、「必修だから」が続く。

専門科目を学部・授業形態別で見ると、昨年度と同様に学部別での違いはそれほど大きくはなく、「授業内容にひかれた」が比較的高い傾向がみられる。また、講義では「時間割上都合がよかった」、演習・実習では「必修だから」も比較的高い。

国際教養学部では、いずれにおいても「必修だから」が最も高い。また、人文学部・社会学部の演習では、2020年度以降「授業内容にひかれた」が上昇し、「必修だから」が低下している。

#### I-2. この授業はシラバスに沿って行われていたか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。また、昨年度と比べ、全体的に「強くそう思う」が上昇している。科目分類・授業形態別での違いはそれほど大きくないが、総合科目・人文学部の演習において、「強くそう思う」が比較的高く、50%を超える。なお、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれにおいても5%前後に留まる。

国際教養学部では、他の授業形態よりも実習において「強くそう思う」が高い。

#### I-3. この授業に関して、予習・復習など授業外での取組みを1週間でどのくらい行ったか

昨年度と同様、全体として「2時間未満～1時間以上」「1時間未満」の回答が高い結果となるが、取組時間は全体として昨年度から低下傾向が見られる。科目分類・授業形態別で見ると、演習において他の授業形態と比べ「2時間以上」の回答が比較的高い傾向が見られる。一方で、「全くしなかった」は講義において比較的高く、外国語・国際関連科目を除き20%を超えている。なお、「2時間以上」の回答が最も高いのは国際教養学部の講義となる。

#### I-4. この授業にどの程度出席していたか

昨年度より低下したものの、全体として「ほぼ毎回出席した」の回答が80%前後を占める結果となった。科目分類・授業形態別での違いもほとんど見られない。

## **【Ⅱ・Ⅲ. 授業評価】**

### Ⅱ-1. 総合的にみて、この授業は満足できたか

昨年度と同様に、全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。科目分類・授業形態別での違いはそれほど大きくないが、外国語・国際関連科目の講義、専門科目(全体)の演習において「強くそう思う」が50%を超えている。また、外国語・国際関連科目の実習、社会学部の講義・演習では「強くそう思う」が2020年度から上昇し続けている。授業形態別で見ると、演習の方が講義よりも満足度が高い。一方で、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は昨年度より大きな変化はないが、総合科目で僅かに上昇している。

### Ⅱ-2. 授業内容を理解できた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。授業形態別での違いはそれほど大きくないが、全体として演習・実習の方が講義形式よりも「強くそう思う」の結果が高い傾向が見られる。

一方で、総合科目の演習では、「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が2020年度より低下傾向にある。

科目分類・授業形態別で見ると、国際教養学部の実習において「強くそう思う」が高い。また、経済学部・人文学部において「強くそう思う」が維持または低下している一方で、社会学部では講義・演習共に「強くそう思う」が昨年度より上昇している。

### Ⅱ-3. 授業内容に興味を持てた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。外国語・国際関連科目の講義、人文学部の演習において特に「強くそう思う」が高く、50%を超える。

科目分類別での違いはそれほど大きくないが、総合科目において、昨年度より「強くそう思う」「まあそう思う」の回答がやや低下している。授業形態別で見ると、全体として演習の方が講義よりも「強くそう思う」の結果が高い。特に専門科目(全体)では「強くそう思う」が2020年度より上昇している。専門科目を学部別に見ると、経済学部の演習、社会学部では昨年度より上昇している一方で、人文学部ではやや低下傾向が見られる。

### Ⅱ-4. 授業の進行速度は適切だった

昨年度と比べ大きな変化はなく、全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。授業形態別での違いはそれほど大きくないが、演習の方が講義よりも「強くそう思う」が高い傾向が見られる。科目分類別に見ると、全体として「強くそう思う」が昨年度より上昇している一方で、経済学部・人文学部の講義ではやや低下している。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれの科目分類・授業形態においても高くはないが、国際教養学部の講義のみ10%を超え、その他よりも僅かに高い。

### Ⅱ-5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。授業形態別で見ると、講義において2020年度以降「質問や問い合わせをしなかった」が上昇しており、講義よりも演習の方が「強くそう思う」が高い傾向が見られる。科目分類・授業形態別で見ると「強くそう思う」が、2020年度以降人文学部の実習では上昇し、社会学部の講義では低下している。また、他の科目分類と比べ、国際教養学部は「強くそう思う」が高く、演習・実習において65%を超える。

### Ⅱ-6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

昨年度と比べ大きな変化はなく、全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。科目分類別で見ると、教職・学芸員科目において「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が他と比べ高くなっている。また、全体として演習の方が講義よりも「強くそう思う」が高い傾向が見られる。科目分類・授業形態別で見ると、経済学部の講義、人文学部では、「強くそう思う」が昨年度よりやや低下している。一方で、経済学部の演習、社会学部では「強くそう思う」が昨年度より上昇している。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれの科目分類においても高くはないが、国際教養学部の講義・演習では10%を超え、その他と比べ僅かに高い。



### Ⅲ-1. 教科書・配布資料等は効果的に使われていた

※「講義」または「実習(外国語)」のみ集計対象

昨年度と比べ大きな変化はなく、全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。外国語・国際関連科目において、昨年度より僅かに低下したが「強くそう思う」が最も高く、50%を超える。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は教職・学芸員科目を除いて僅かとなる。

### Ⅲ-2. 配布資料などの文字は読みやすく書かれていた

※「講義」または「実習(外国語)」のみ集計対象

昨年度と比べ大きな変化はなく、全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。科目分類・授業形態別で見ると、「強くそう思う」「まあそう思う」は、外国語・国際関連科目では昨年度よりやや上昇している一方で、経済学部・社会学部では昨年度よりやや低下している。また、ほとんどの科目分類・授業形態で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は僅かだが、教職・学芸員科目において「全くそう思わない」が10%を超え、高い結果となっている。

### Ⅲ-3. 教員は報告や討論の仕方について指導してくれた

※「演習」または「実習」のみ集計対象

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。科目分類・授業形態別で見ると、人文学部の演習・実習共に、「強くそう思う」「まあそう思う」が昨年度より低下している。一方で、社会学部の演習では「強くそう思う」が昨年度より上昇している。

### Ⅲ-4. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽になった

※「演習」または「実習」のみ集計対象

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。科目分類・授業形態別での違いはあまりなく、全体として演習の方が実習よりも「強くそう思う」が高い傾向にあり、経済学部、人文学部の演習では40%を超える。「強くそう思う」は、社会学部の演習では昨年度より上昇している一方で、総合科目の演習、人文学部の実習では昨年度より低下している。

## **【IV. 身についた知識・能力・態度】 ※教職・学芸員科目には聴取していない**

### IV-1. 幅広い教養が身についた

※総合科目には聴取していない

科目分類・授業形態別に見ると、外国語・国際関連科目の講義、経済学部・人文学部・国際教養学部の演習では「強くそう思う」が他より高く、35%を超える。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれも10%前後であり、「授業内容が該当しない」は20%前後だが、国際教養学部の実習のみ33%と高い。

### IV-2. 専門的知識が身についた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」が多数を占める結果となった。演習の方が、講義・実習より「強くそう思う」が高い傾向が見られるが、国際教養学部のみ実習の方が演習よりも「強くそう思う」が高い。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれの科目分類・授業形態においても10%前後となる。また、実習は他よりも「授業内容が該当しない」の割合がやや高く、20%以上を占め、国際教養学部の実習では特に高く、25%を超える。

### IV-3. 主体的に学ぶ力が身についた

※経済学部には聴取していない

全体として演習の方が講義・実習よりも「強くそう思う」が高い傾向が見られる。特に人文学部・国際教養学部の演習では、「強くそう思う」が40%を超える。科目分類・授業形態別に見ると、人文学部の講義では「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が15%を超えており、最も高い結果となっている。「授業内容が該

当しない」は、国際教養学部の実習において、25%を超える結果となる。

#### IV-4. 主体的な課題設定力が身についた

※経済学部のみ聴取

演習の方が講義よりも「強くそう思う」「そう思う」が高い結果となる。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は授業形態別で大きな差は見られないが、「授業内容が該当しない」は講義の方が高い。

#### IV-5. 批判的に学ぶ力が身についた

※総合科目、外国語・国際関連科目のみ聴取

「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。総合科目では演習の方が講義より「強くそう思う」がやや高く、「授業内容が該当しない」がやや低い。

一方で、外国語・国際関連科目の実習は他の科目分類・授業形態よりも「強くそう思う」「まあそう思う」がやや低く、「授業内容が該当しない」が50%を超えている。

#### IV-6. 批判的に分析する力が身についた

※社会学部、国際教養学部のみ聴取

いずれの授業形態においても、演習の方が講義・実習と比べ「強くそう思う」「まあそう思う」が高く、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は10%前後に留まる。科目分類別で見ると、国際教養学部の実習において「授業内容が該当しない」が高く、55%を超える結果となる。

#### IV-7. 論理的に表現・批評する力が身についた

※人文学部のみ聴取

演習の方が講義・実習と比べ「強くそう思う」「まあそう思う」が高い結果となる。講義・実習では「授業内容が該当しない」が40%前後となる。

#### IV-8. 多様性を理解する力が身についた

※人文学部には聴取していない

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。科目分類・授業形態別に見ると、演習の方が講義よりも「強くそう思う」が高い傾向が見られる。一方で、特に経済学部の講義と国際教養学部の実習において「授業内容が該当しない」が高く、50%を超えている。

#### IV-9. 多様な文化を理解する力が身についた

※人文学部のみ聴取

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」が高い結果となっている。あまり大きな差は見られないが、実習では「強くそう思う」が他と比べ僅かに低い。

#### IV-10. 他者と協働する力が身についた

※人文学部には聴取していない

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。いずれの科目分類においても、演習の方が講義・実習よりも「強くそう思う」の割合が高い傾向が見られる。一方で、総合科目、経済学部、社会学部の講義において「授業内容が該当しない」が高く、60%を超えている。

#### IV-11. 他者を受け入れる力が身についた

※人文学部のみ聴取

あまり大きな差は見られないが、演習の方が講義・実習よりも「強くそう思う」「そう思う」が高い結果となっている。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれの授業形態においても10%未満に留まる。

#### IV-12. グローバルに思考する力が身についた

※経済学部には聴取していない

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。外国語・国際関連科目、国際教養学部の講義・演習においては比較的「強くそう思う」「まあそう思う」が高く、特に外国語・国際関連科目の講義において「強くそう思う」が60%を超える。一方で、総合科目、社会学部の講義・演習、国際教養学部の実習においては「授業内容が該当しない」が高い傾向が見られる。

#### IV-13. 外国語を運用する力が身についた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。外国語・国際関連科目、人文学部の実習、国際教養学部では「強くそう思う」「まあそう思う」が高い。

一方で、総合科目、経済学部・人文学部・社会学部の講義・演習では「授業内容が該当しない」が高く、特に総合科目の講義、社会学部の講義・演習では80%を超える。

#### IV-14. 学びを社会のなかで活用する力が身についた

いずれの学部でも「強くそう思う」「まあそう思う」が多数を占める結果となった。科目分類に大きな違いはないが、授業形態別で見ると、演習の方が講義より「強くそう思う」の割合が高い傾向が見られる。また、特に外国語・国際関連科目の講義において「強くそう思う」が50%と高い結果となる。

#### IV-15. 情報の調査収集・処理能力が身についた

※経済学部、国際教養学部のみ聴取

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高く、国際教養学部の実習のみ「授業内容が該当しない」が高い結果となった。授業形態別に見ると、演習の方が講義・実習よりも「強くそう思う」がやや高く、特に経済学部の演習では「強くそう思う」が45%を超える。

#### IV-16. 調査・制作リテラシーが身についた

※社会学部のみ聴取

社会学部では演習の方が講義よりも「強くそう思う」「まあそう思う」が高く、講義形式では「授業内容が該当しない」が44%とやや高い結果となる。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれも5%程度に留まる。

#### IV-17. 情報化社会で学ぶ力が身についた

※総合科目のみ聴取

演習の方が講義と比べ「強くそう思う」が10%程度高い。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」にはあまり差が見られない。

#### IV-18. 人類の歩みを広い視野で捉える力が身についた

※総合科目のみ聴取

選択肢「強くそう思う」において、講義・演習共に20%程度でありあまり差は見られないが、「まあそう思う」を含めると、講義の方が演習よりもやや高くなる。一方で、演習は講義よりも「授業内容が該当しない」が高く、40%を超える。

#### IV-19. 多様な視点で現代社会を捉える力が身についた

※総合科目のみ聴取

演習の方が講義よりも「強くそう思う」が高く、38%を占めている。大きな差ではないが、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は講義の方が演習よりも僅かに高くなっている。

#### IV-20. 自然と人間の共生を考える力が身についた

※総合科目のみ聴取

講義、演習に大きな差はなく、「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。演習の方が講義よりも「授業内容が該当しない」が僅かに高い。

#### IV-21. 心と体をトータルに捉える力が身についた

※総合科目のみ聴取

講義、演習に大きな差はなく、「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。「授業内容が該当しない」がどちら授業形態においても50%を超える。

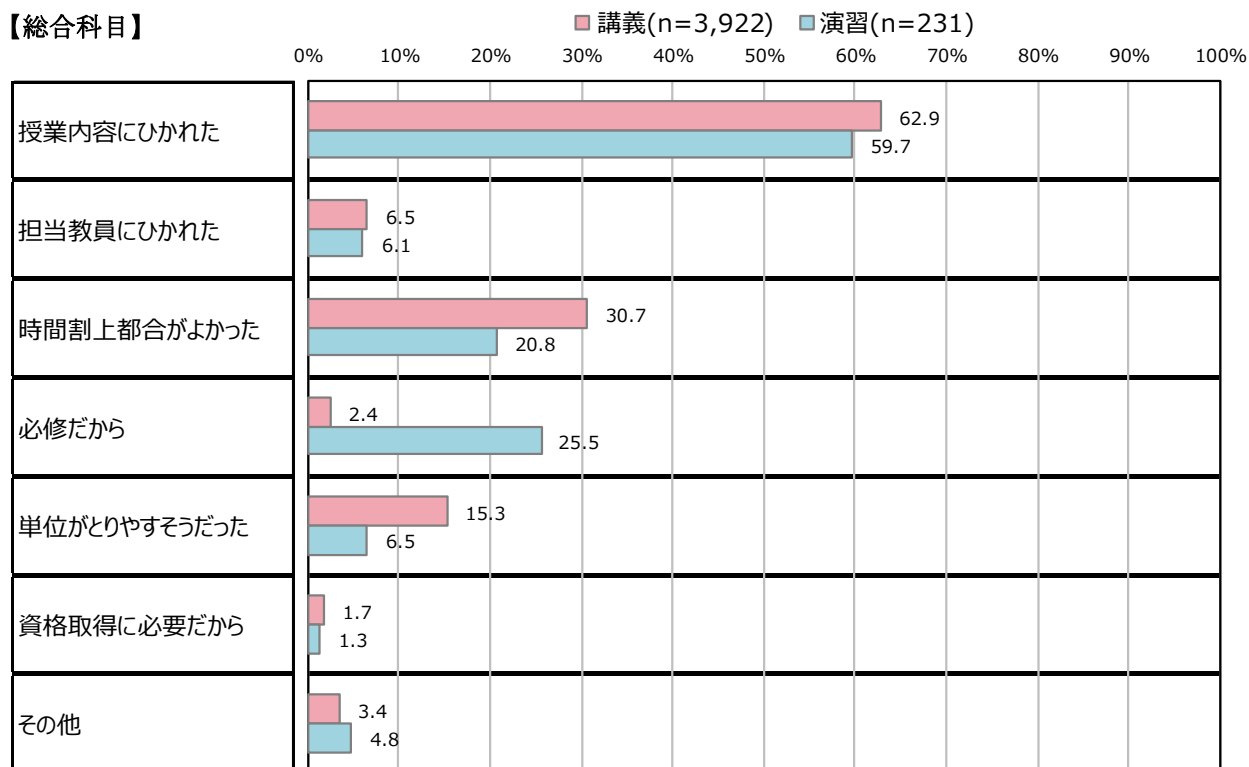
#### IV-22. 自分の人生を構想する力が身についた

※総合科目のみ聴取

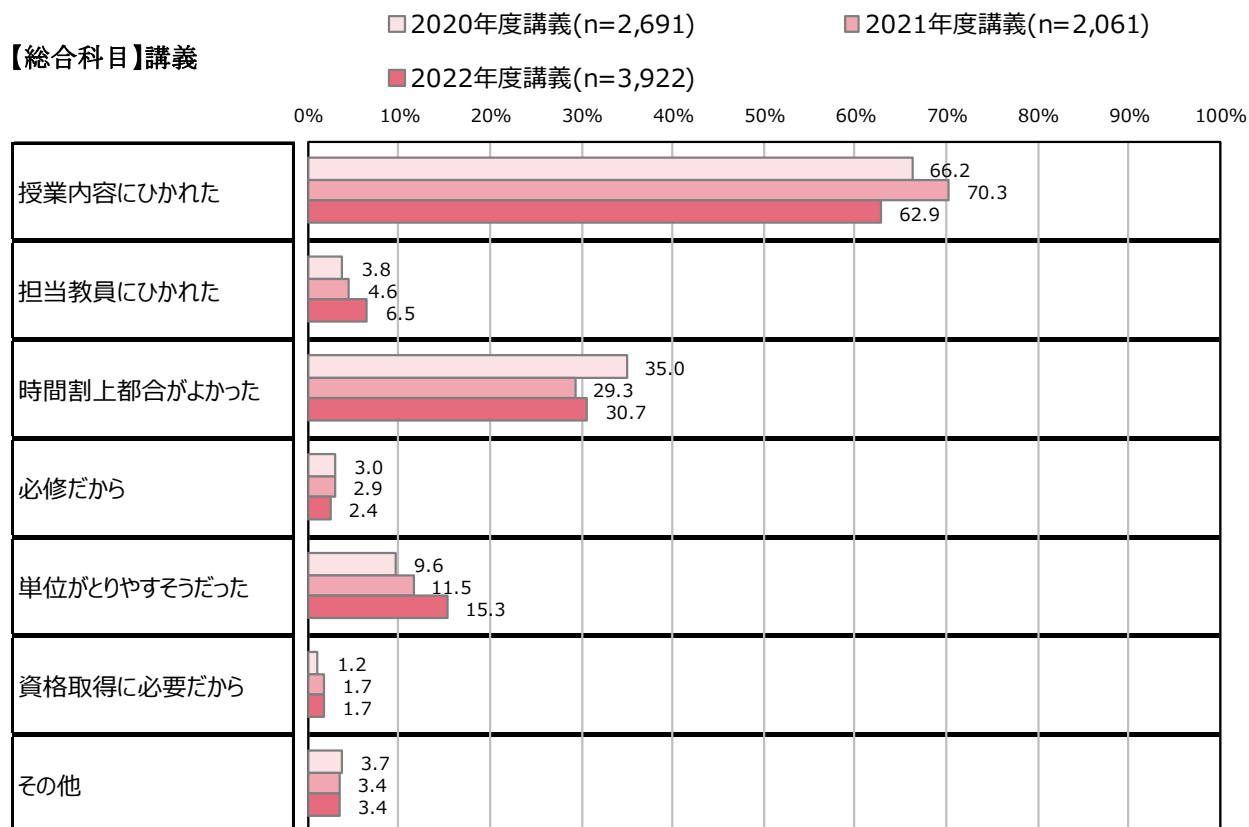
講義、演習に大きな差はなく、「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。演習の方が講義よりも「強くそう思う」「まあそう思う」が僅かに高い。

# I-1. この授業を履修した理由は何ですか？(複数回答可)

## 【総合科目】

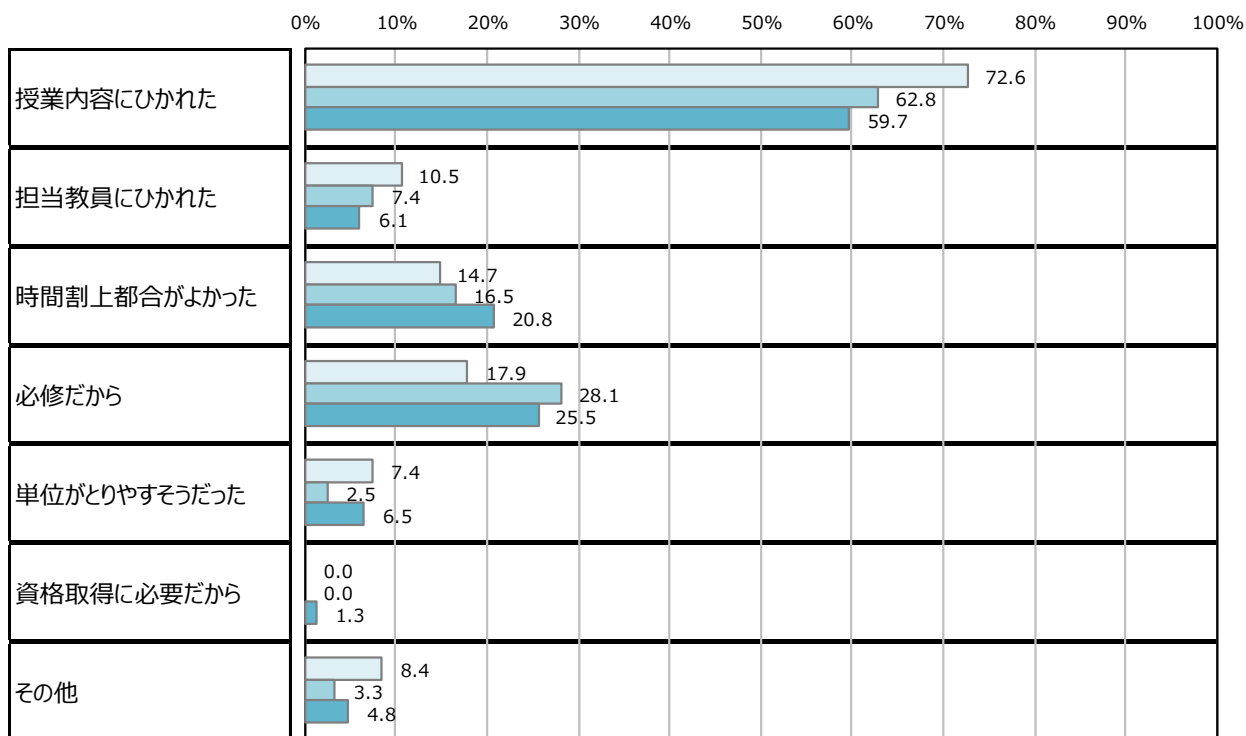


## 【総合科目】講義



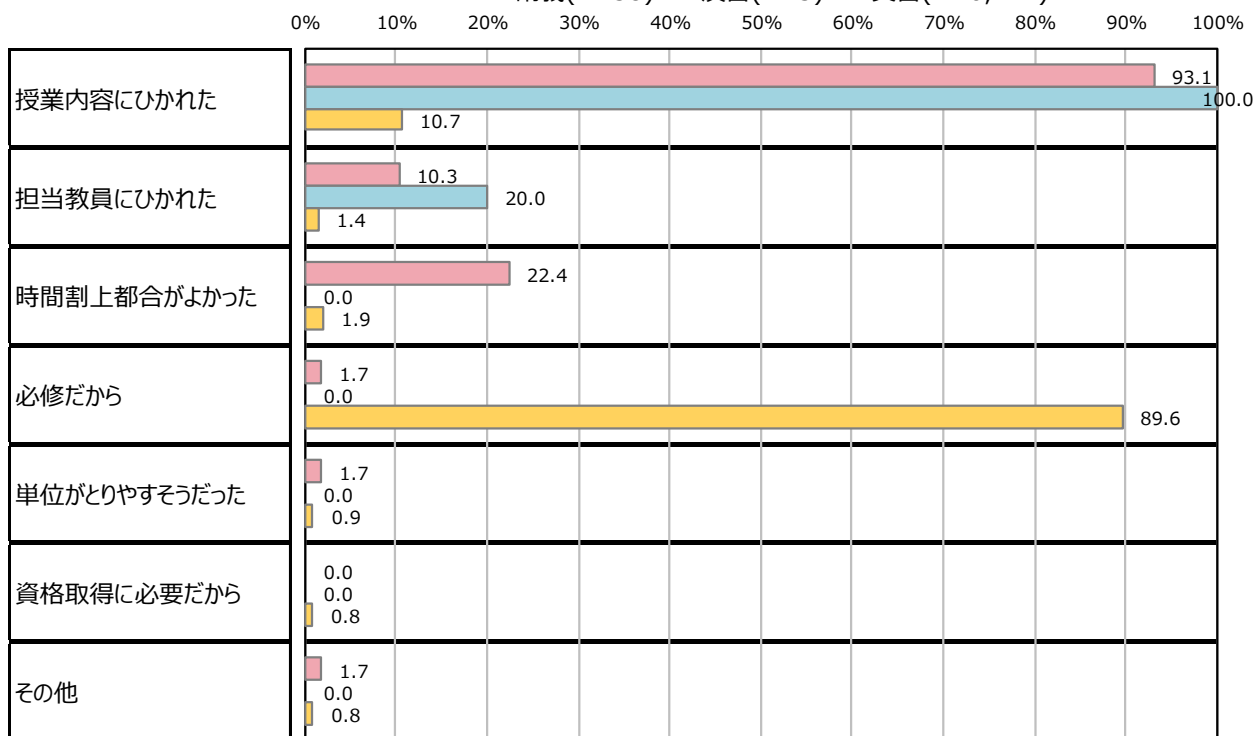
【総合科目】演習

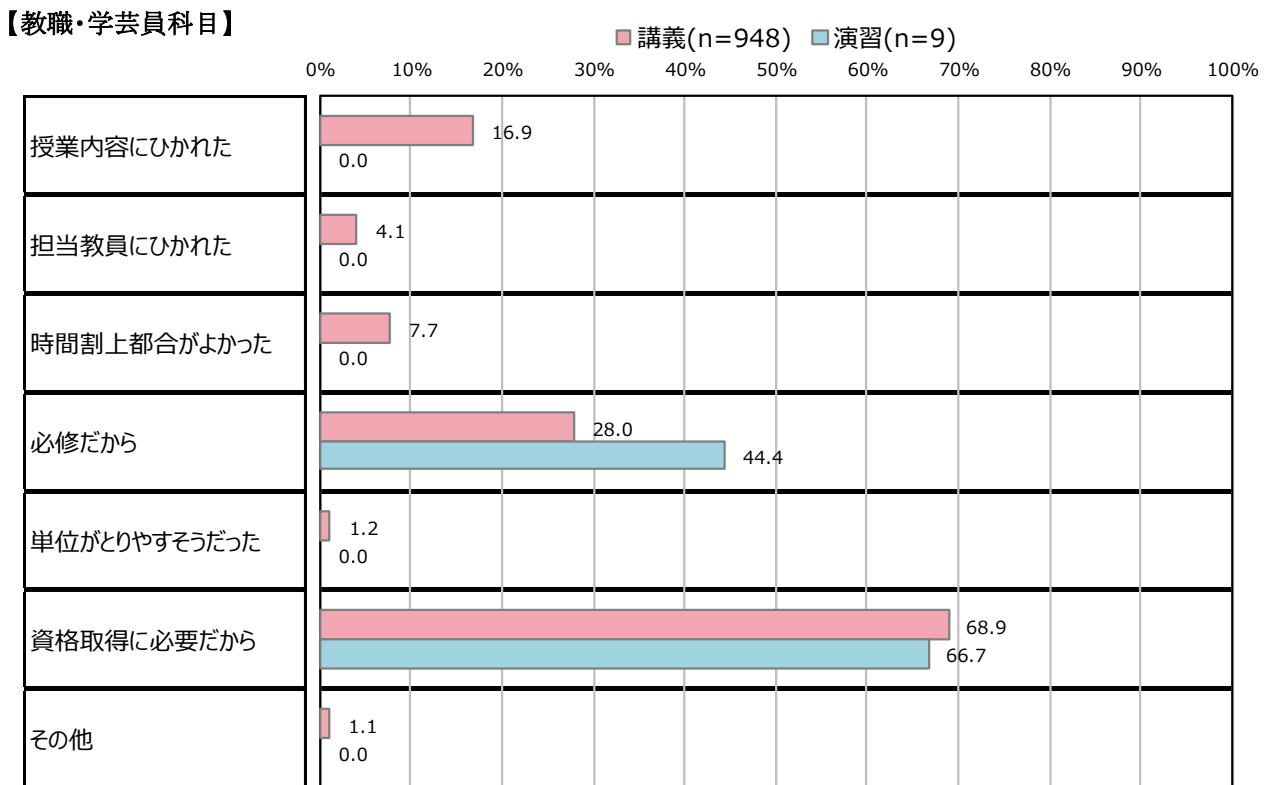
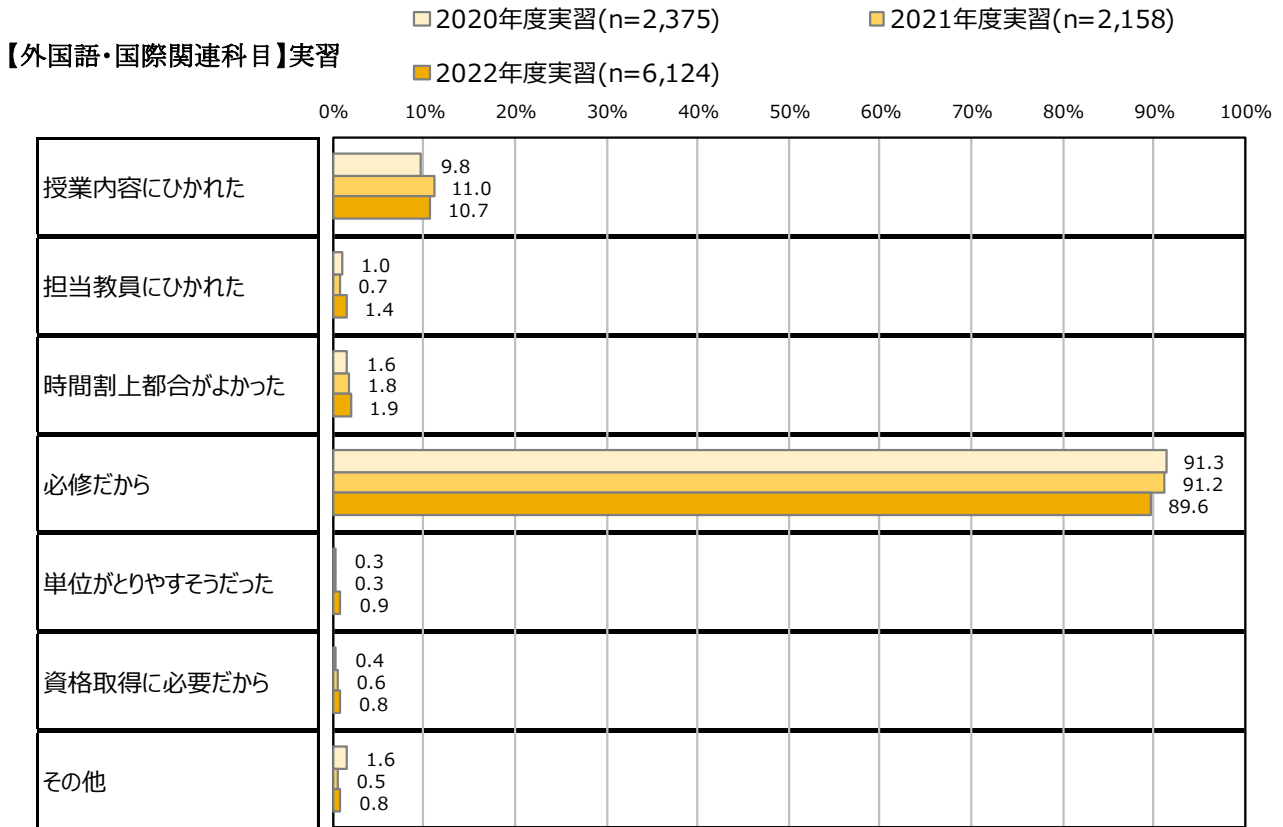
□ 2020年度演習(n=95) □ 2021年度演習(n=121) ■ 2022年度演習(n=231)



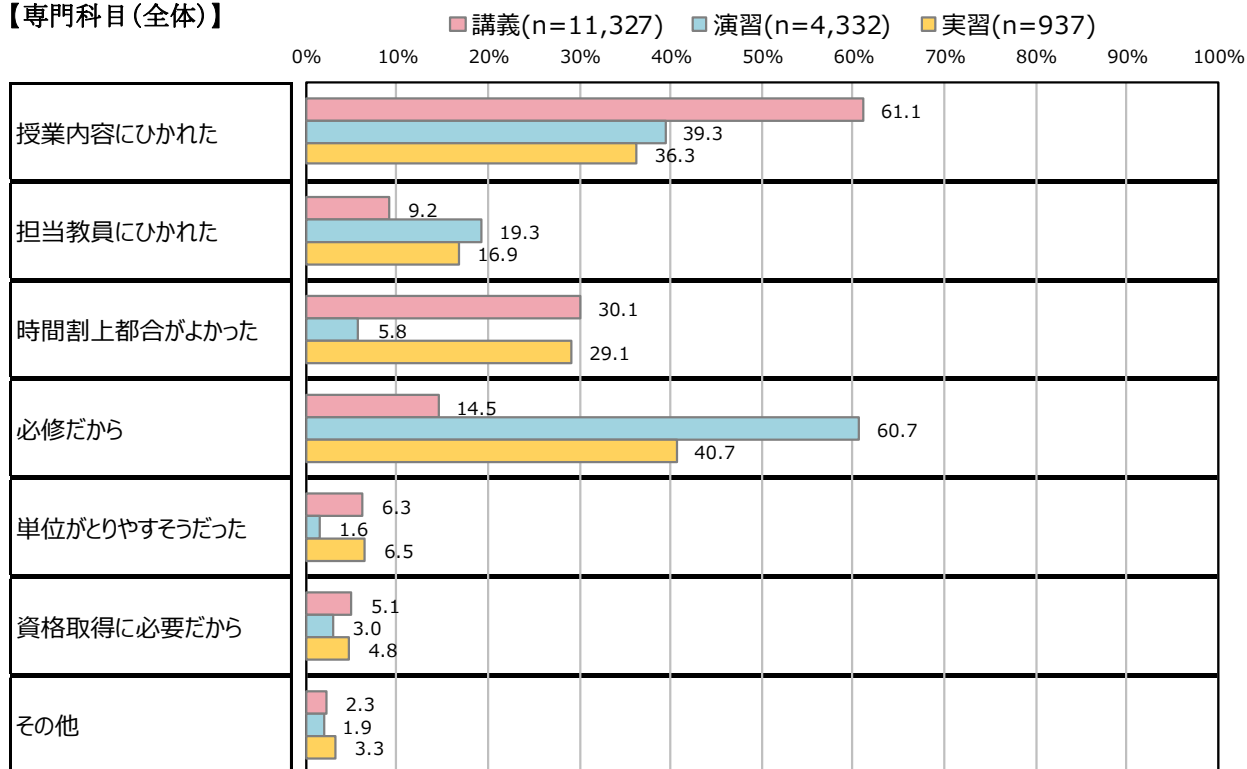
【外国語・国際関連科目】

■ 講義(n=58) □ 演習(n=5) ■ 実習(n=6,124)

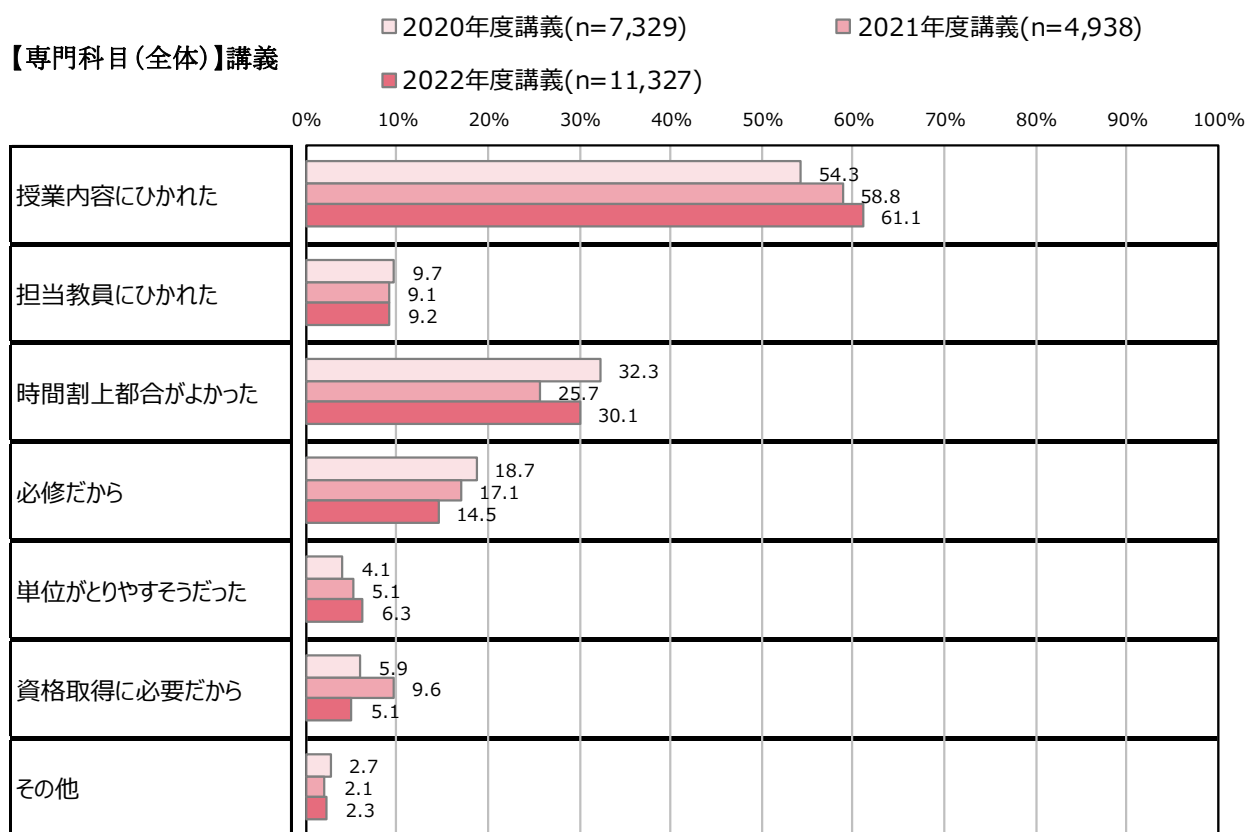




【専門科目(全体)】

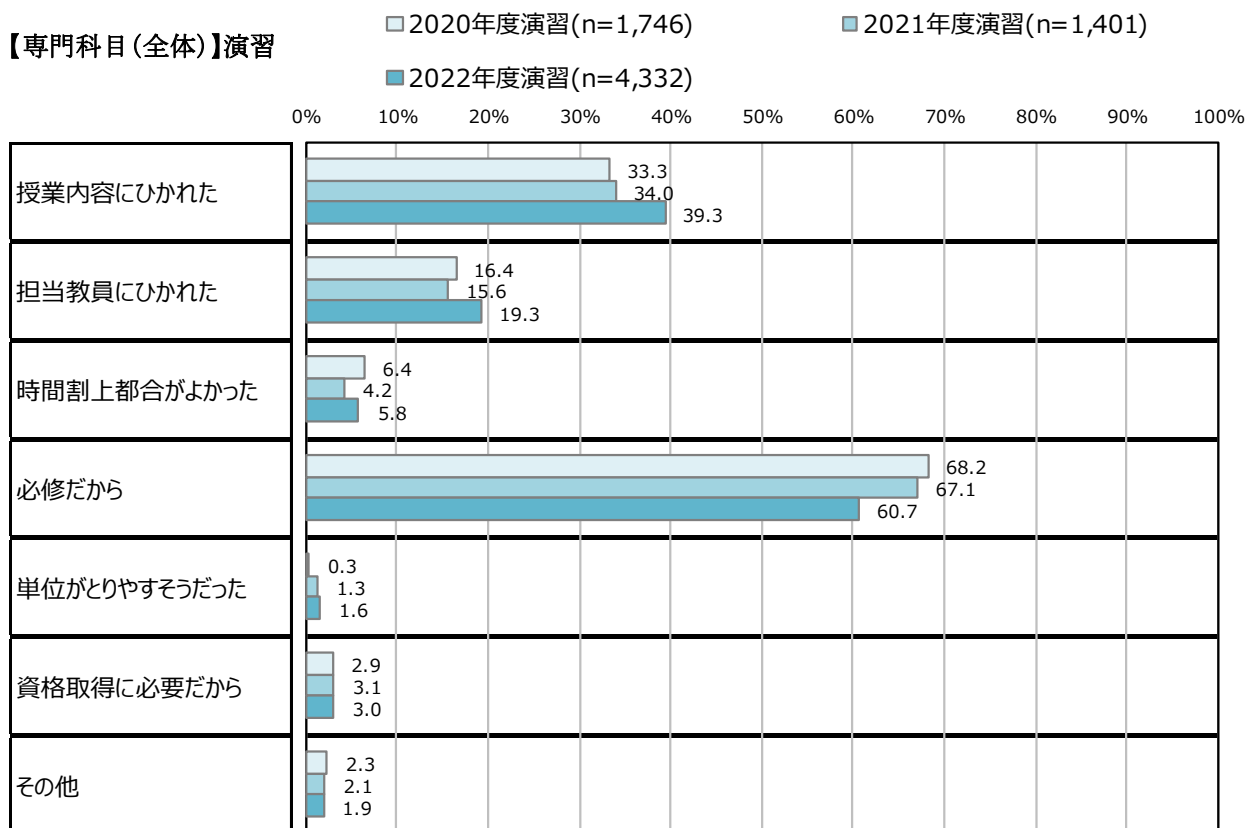


【専門科目(全体)】講義

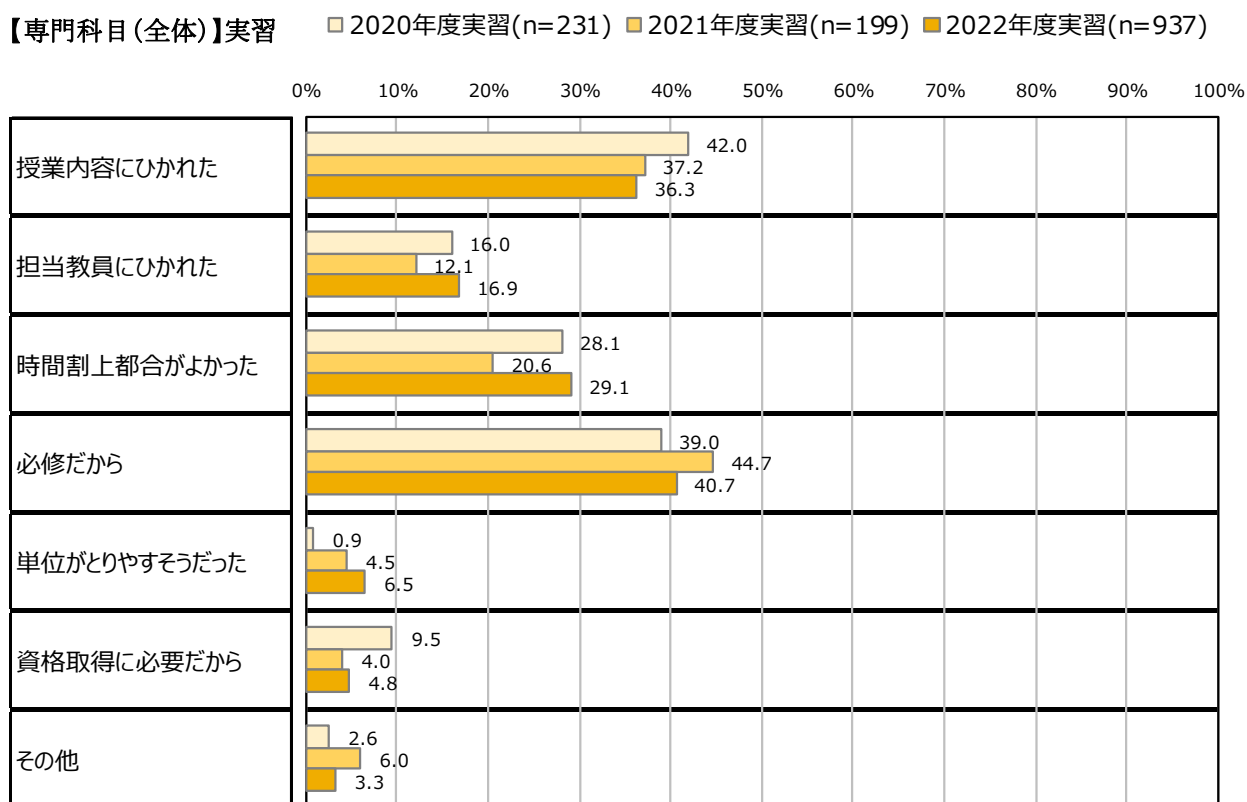




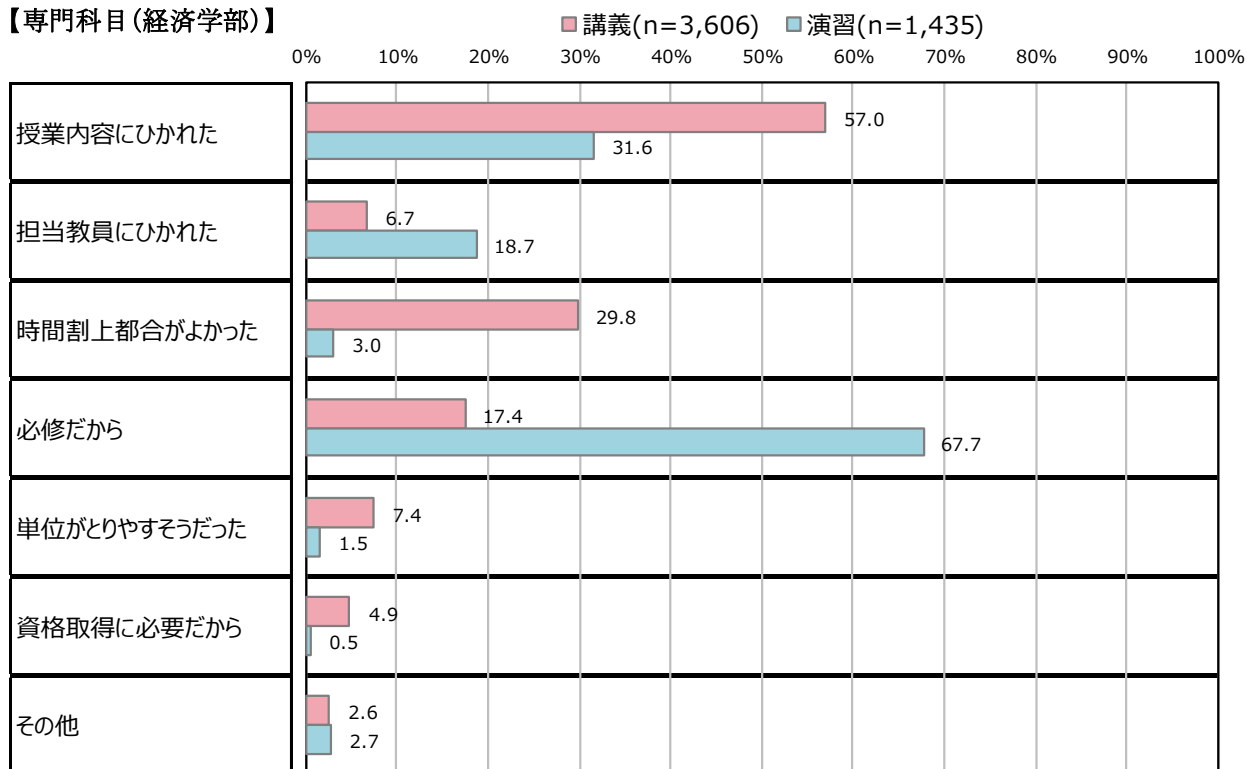
【専門科目(全体)】演習



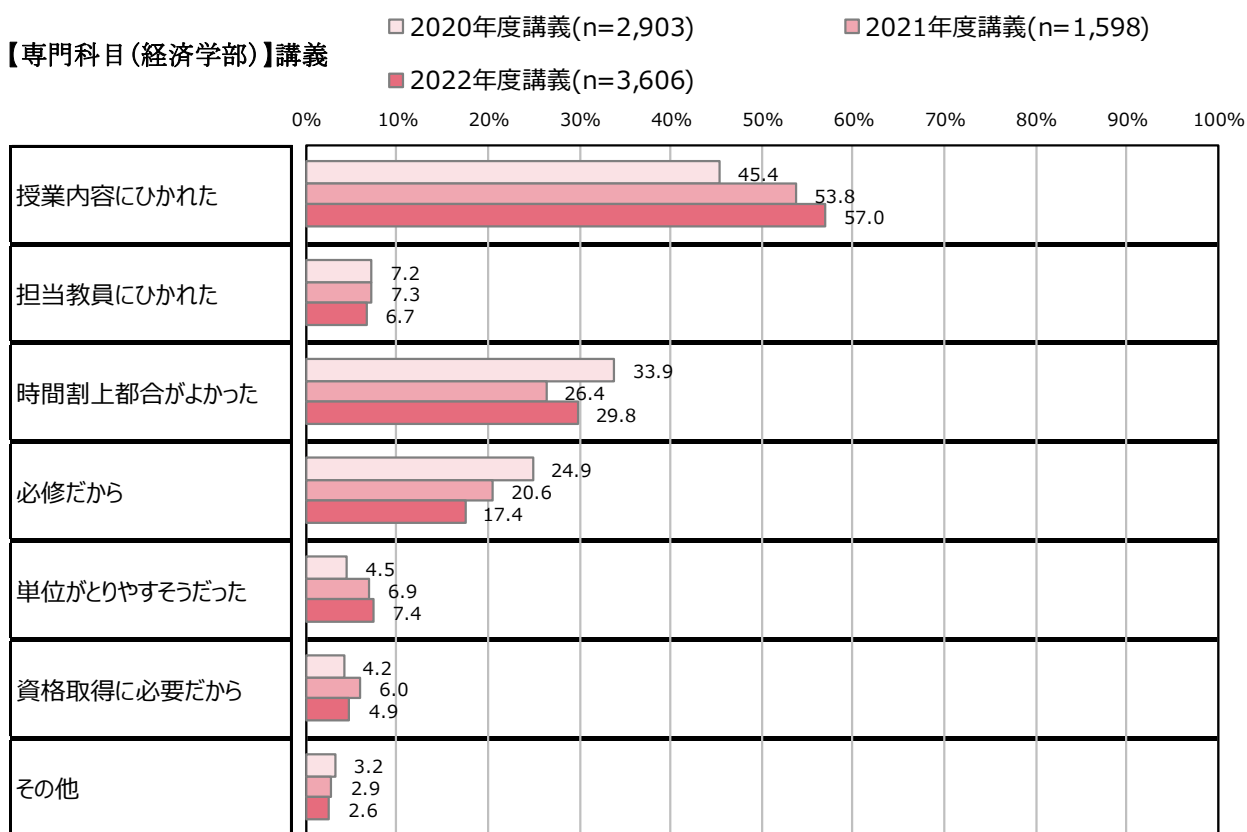
【専門科目(全体)】実習



【専門科目(経済学部)】



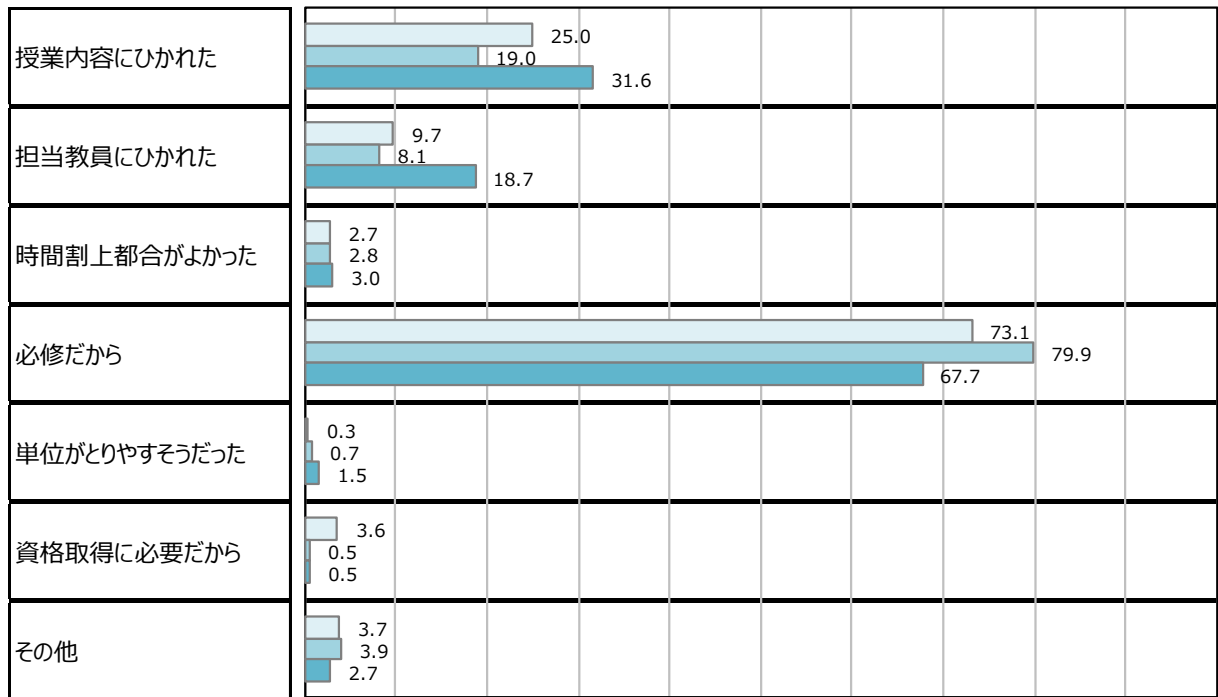
【専門科目(経済学部)】講義



【専門科目(経済学部)】演習

□ 2020年度演習(n=588) □ 2021年度演習(n=432) ■ 2022年度演習(n=1,435)

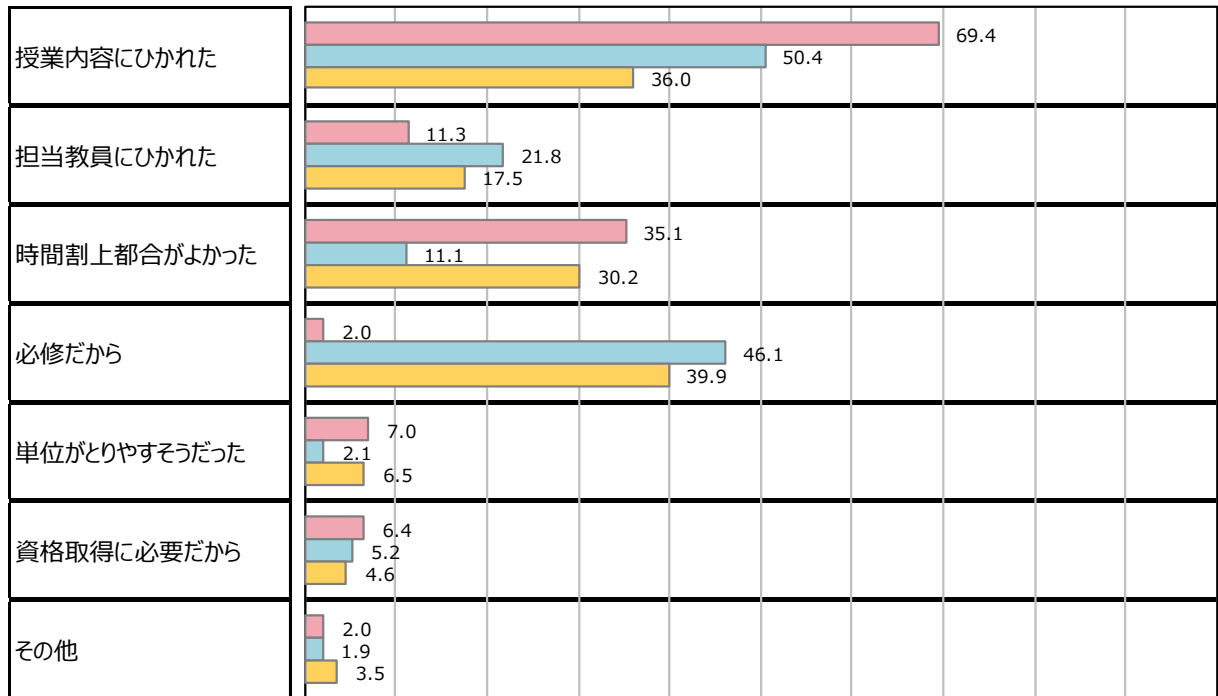
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

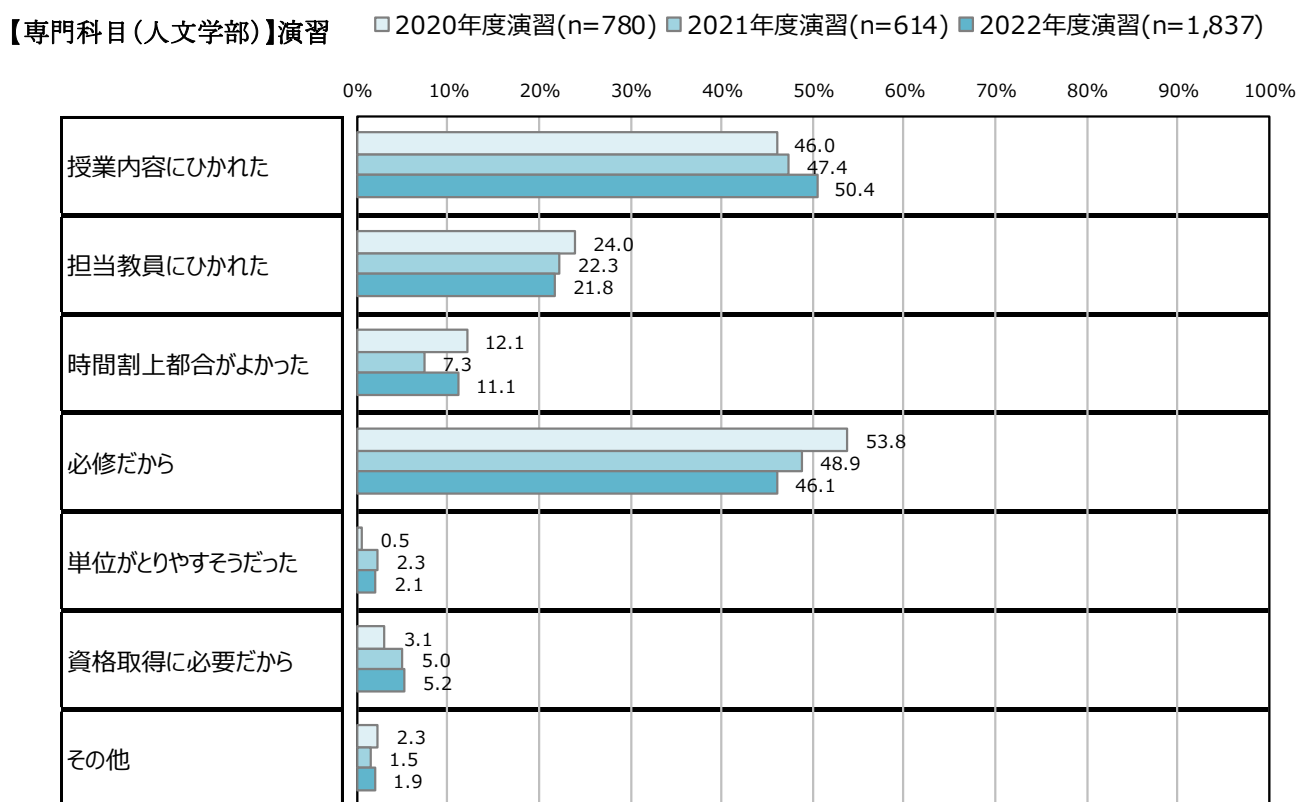
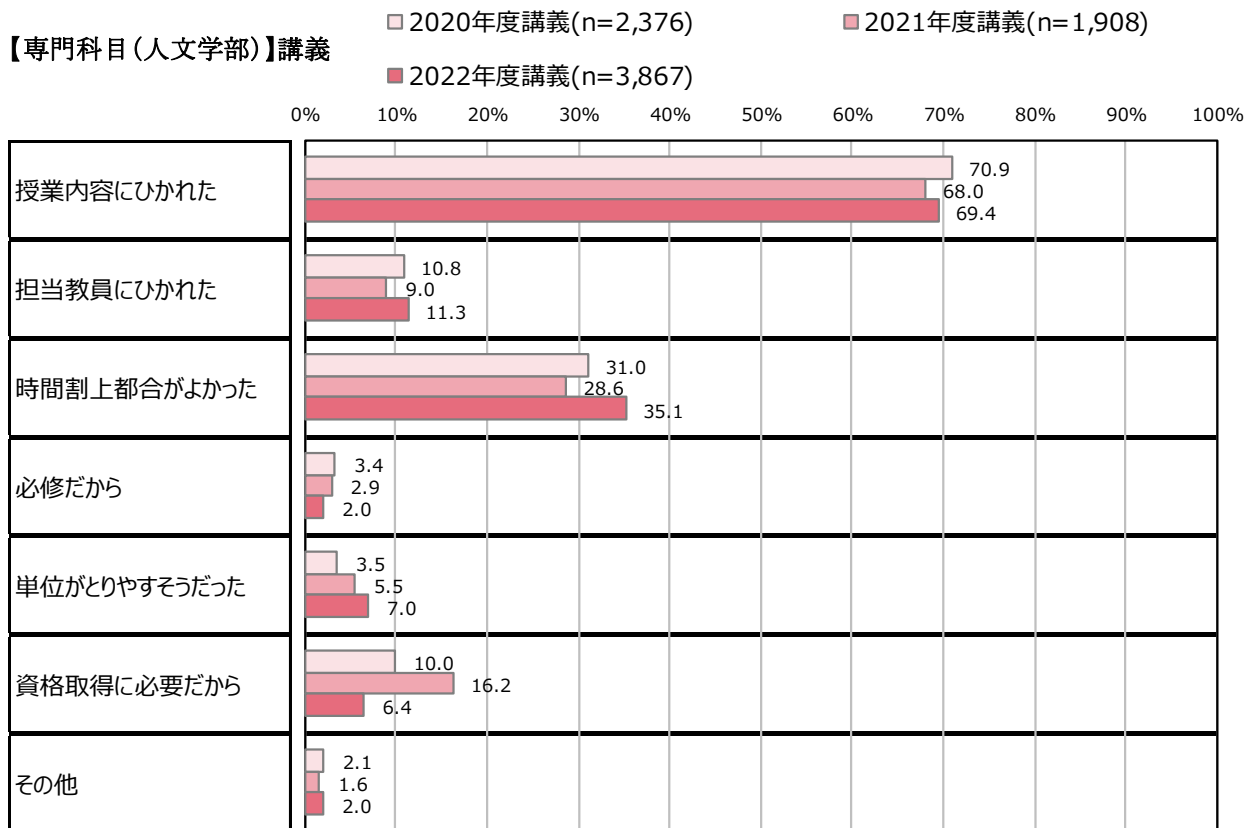


【専門科目(人文学部)】

■ 講義(n=3,867) □ 演習(n=1,837) ■ 実習(n=828)

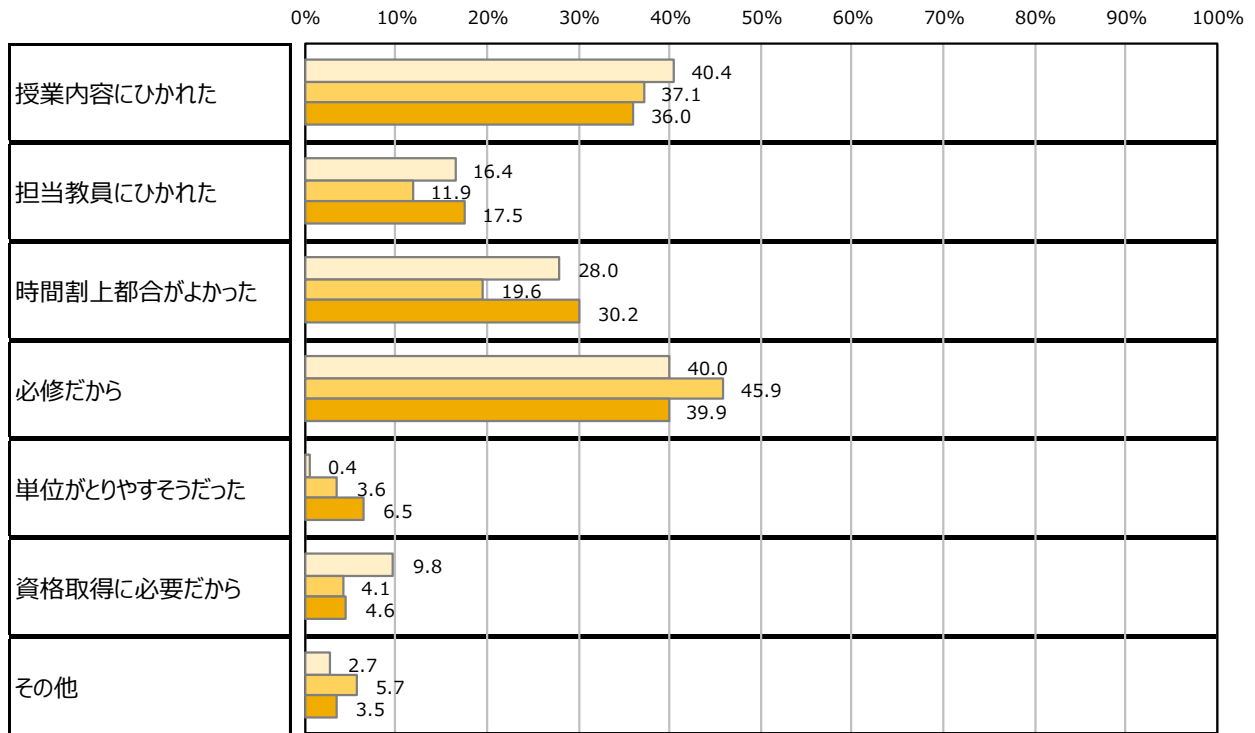
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%





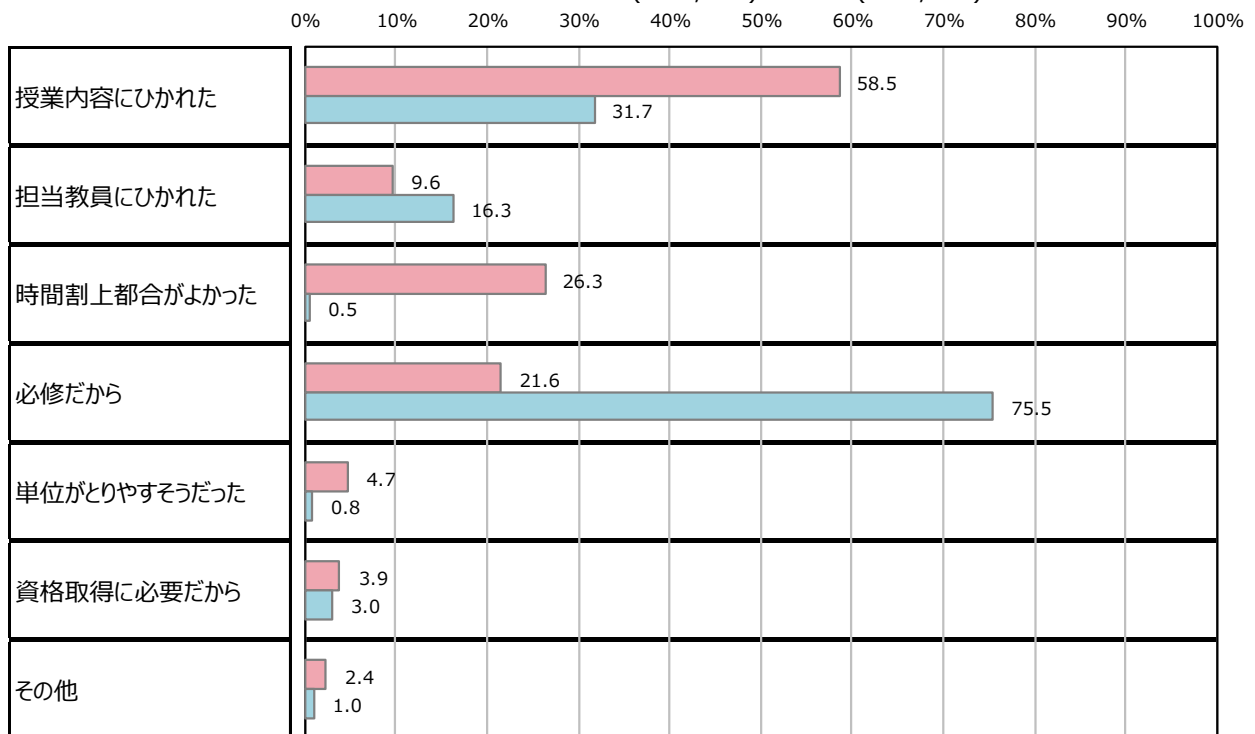
【専門科目(人文学部)】実習

2020年度実習(n=225) 2021年度実習(n=194) 2022年度実習(n=828)



【専門科目(社会学部)】

講義(n=3,655) 演習(n=1,012)



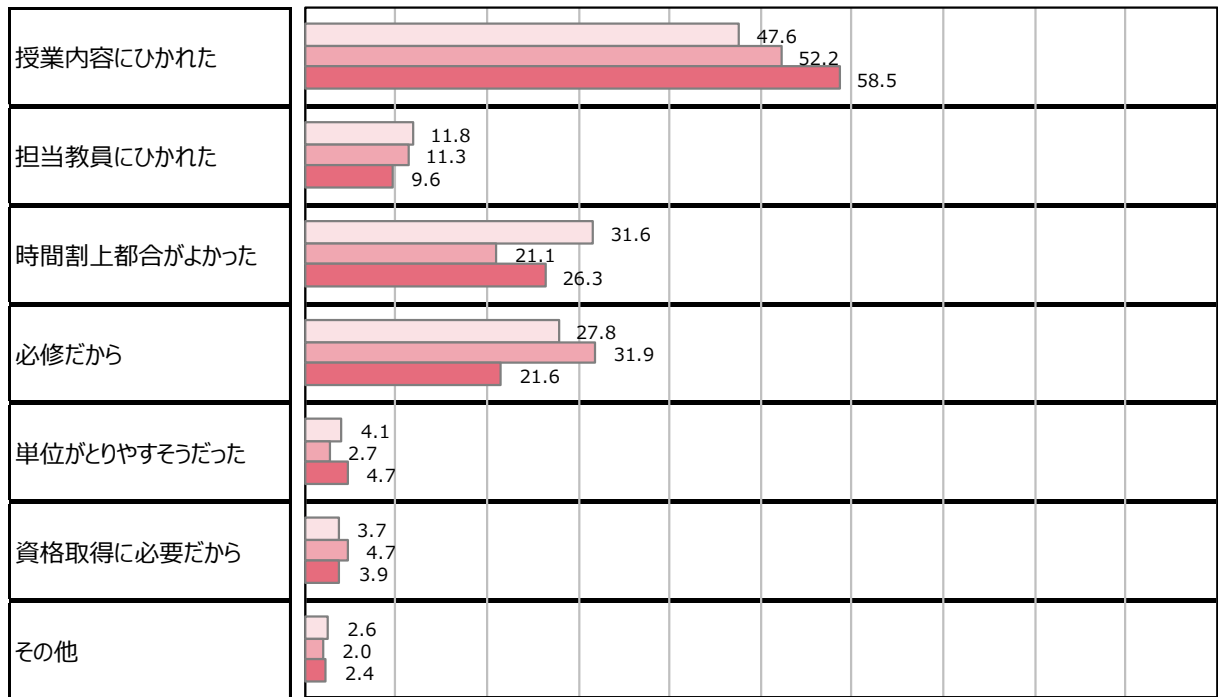
【専門科目(社会学部)】講義

2020年度講義(n=2,050)

2021年度講義(n=1,432)

2022年度講義(n=3,655)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



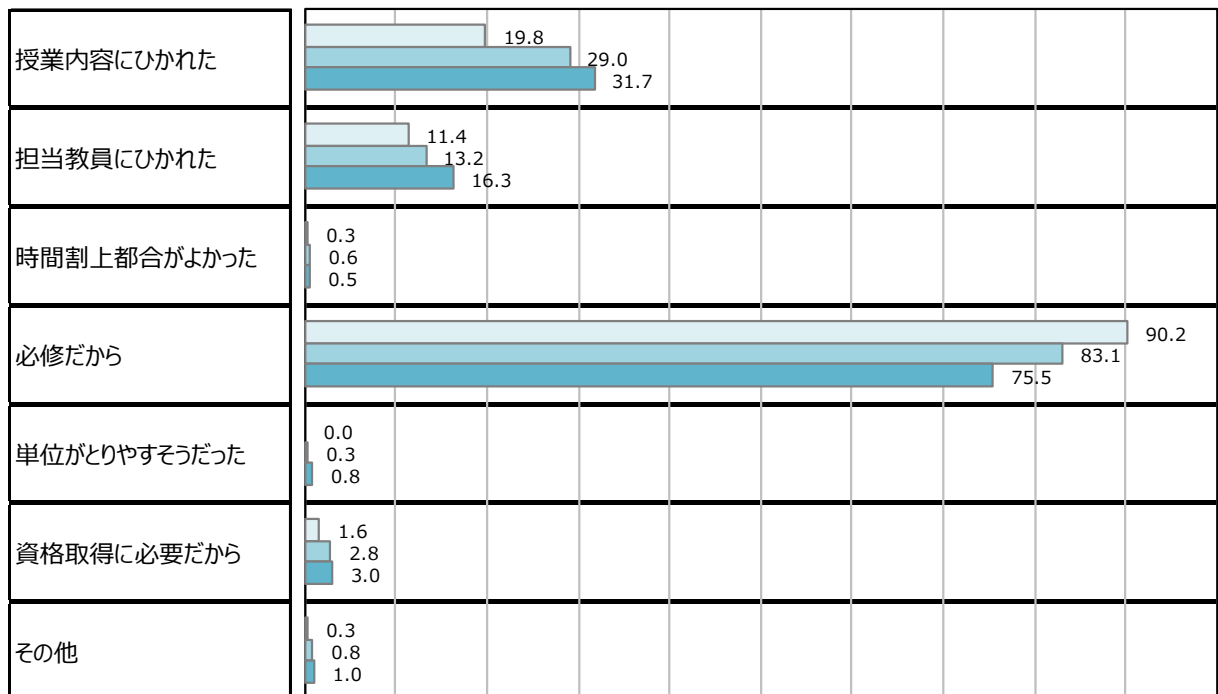
【専門科目(社会学部)】演習

2020年度演習(n=378)

2021年度演習(n=355)

2022年度演習(n=1,012)

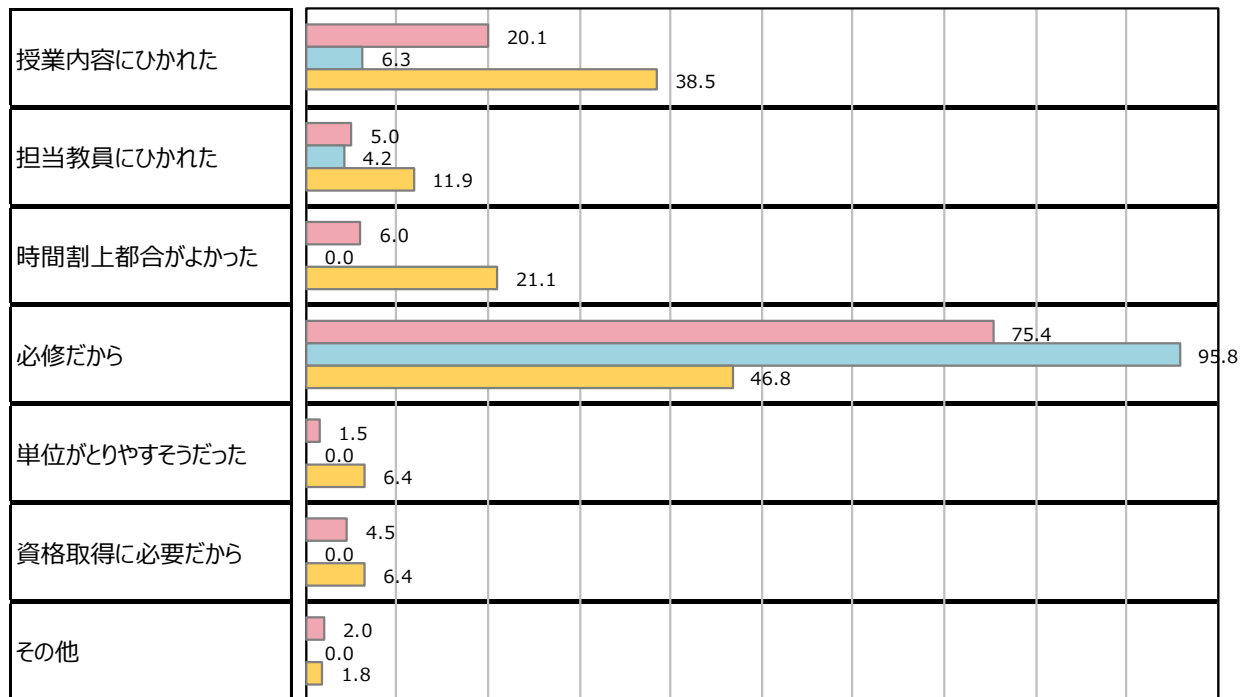
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



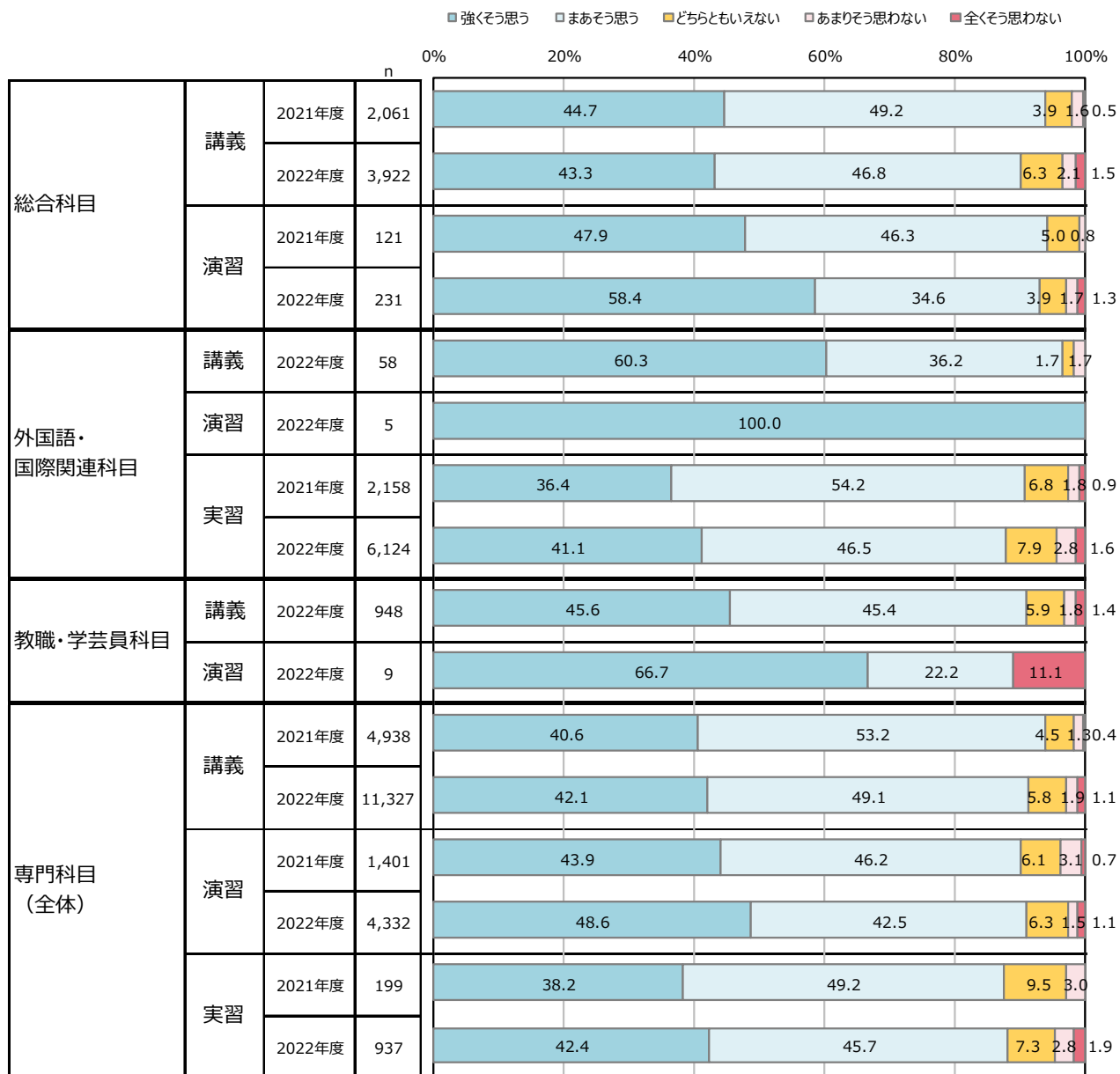
【専門科目(国際教養学部)】

■ 講義(n=199) ■ 演習(n=48) ■ 実習(n=109)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



## I-2. この授業はシラバスに沿って行われていたか

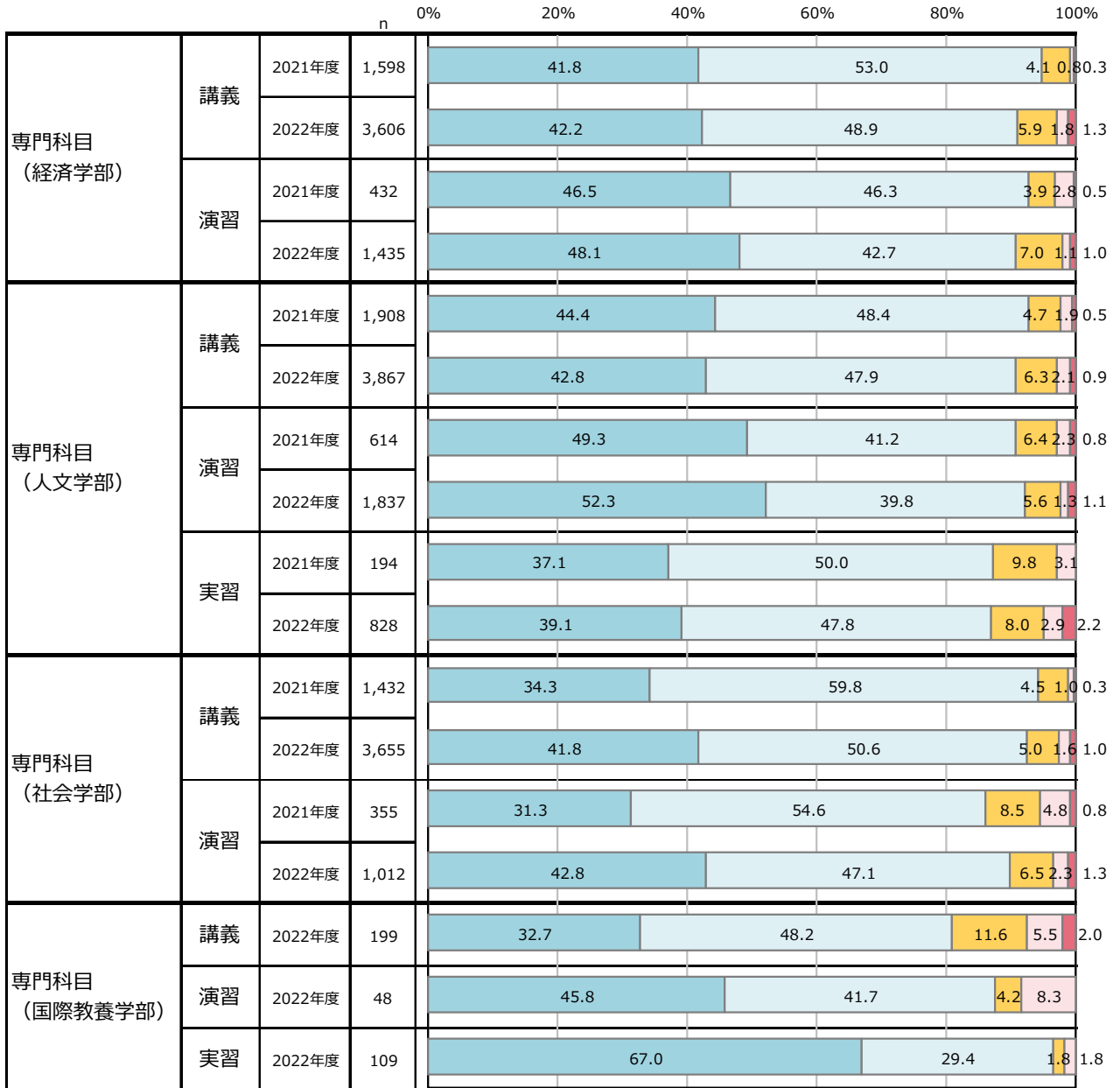


※0%は値ラベルの表示を省略

※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

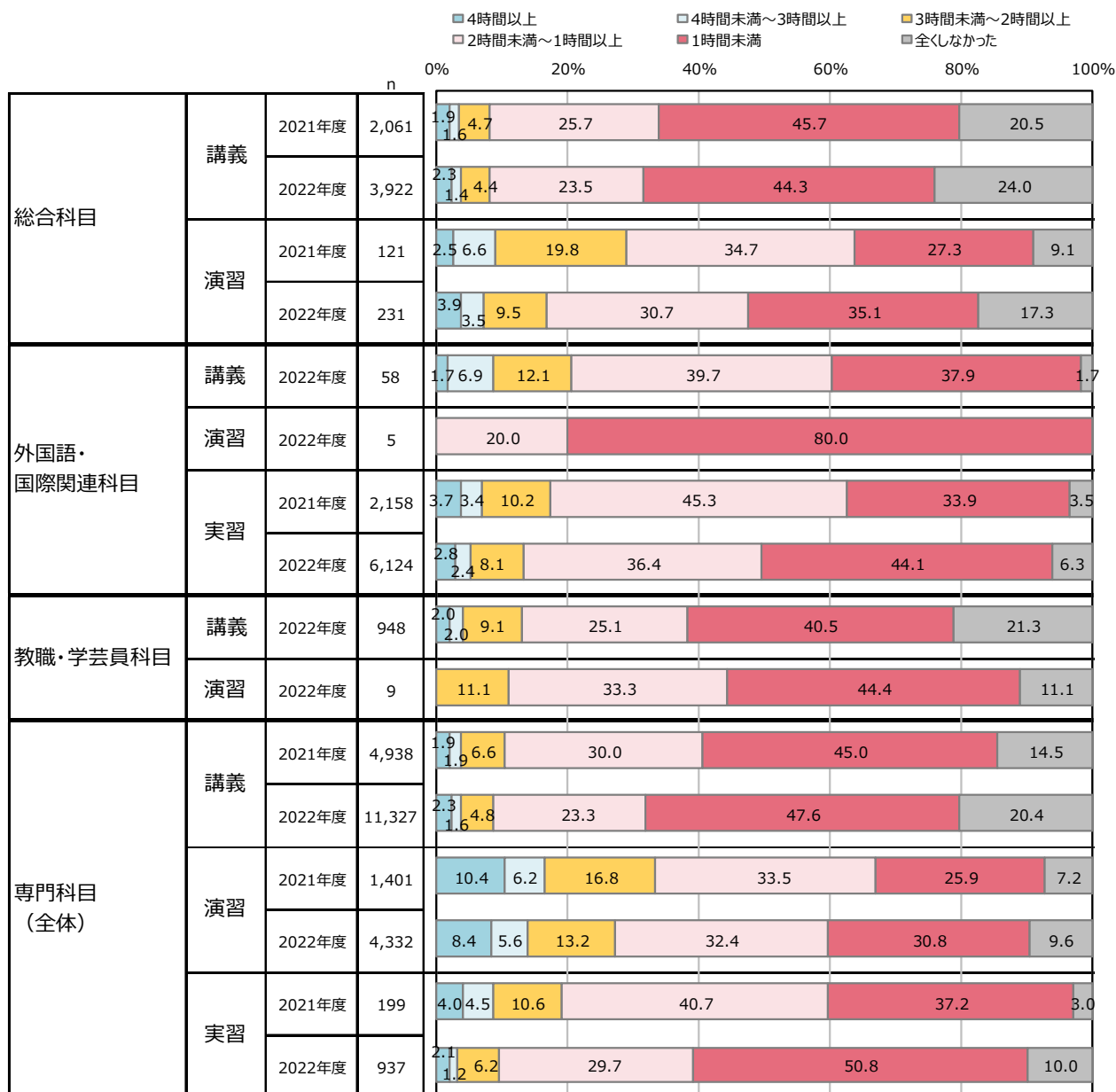


■ 強く思う □ まあ思う ■ どちらともいえない □ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



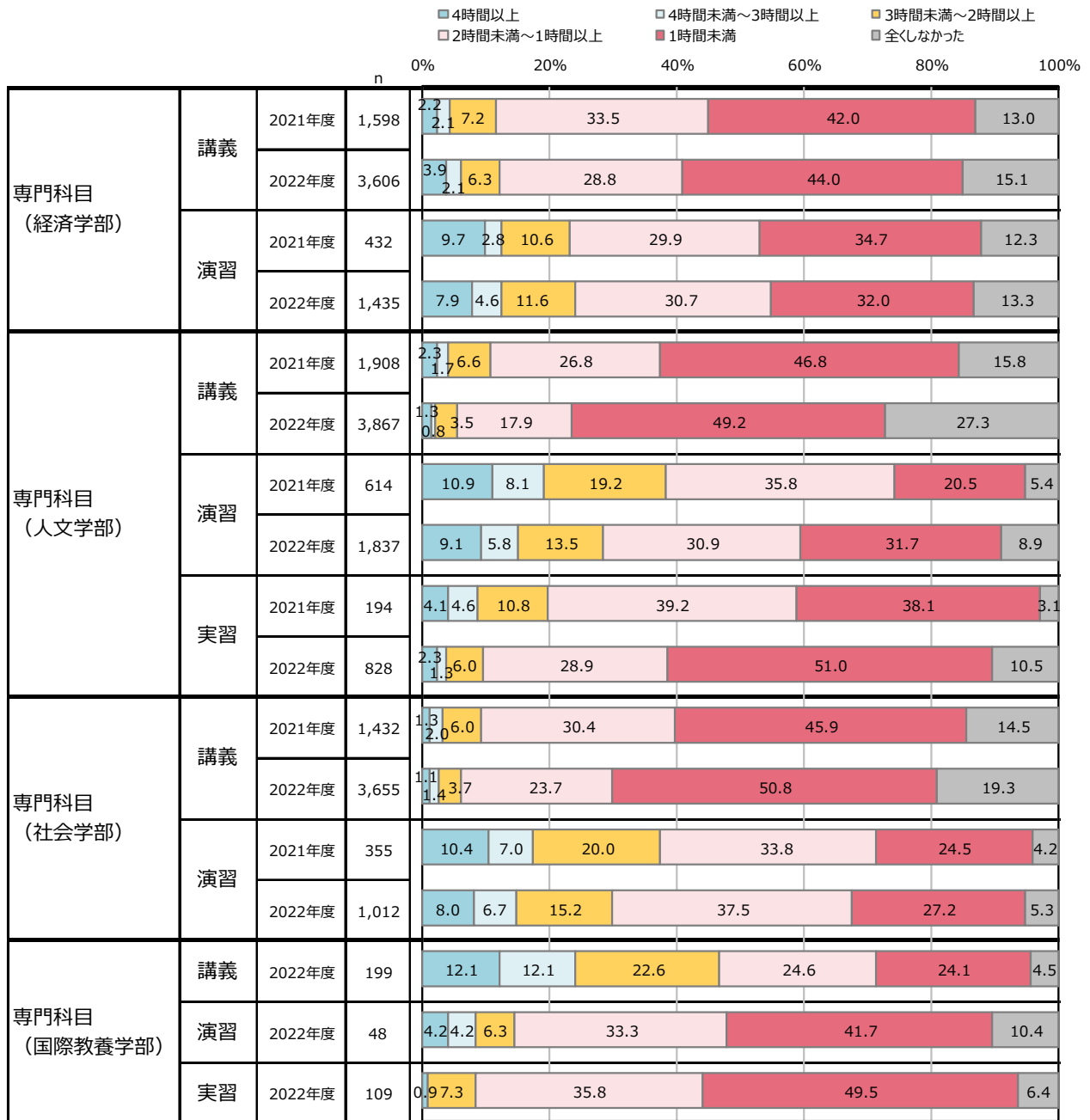
※0%は値ラベルの表示を省略

### I-3. この授業に関して、予習・復習など授業外での取組みを1週間でのどのくらい行ったか



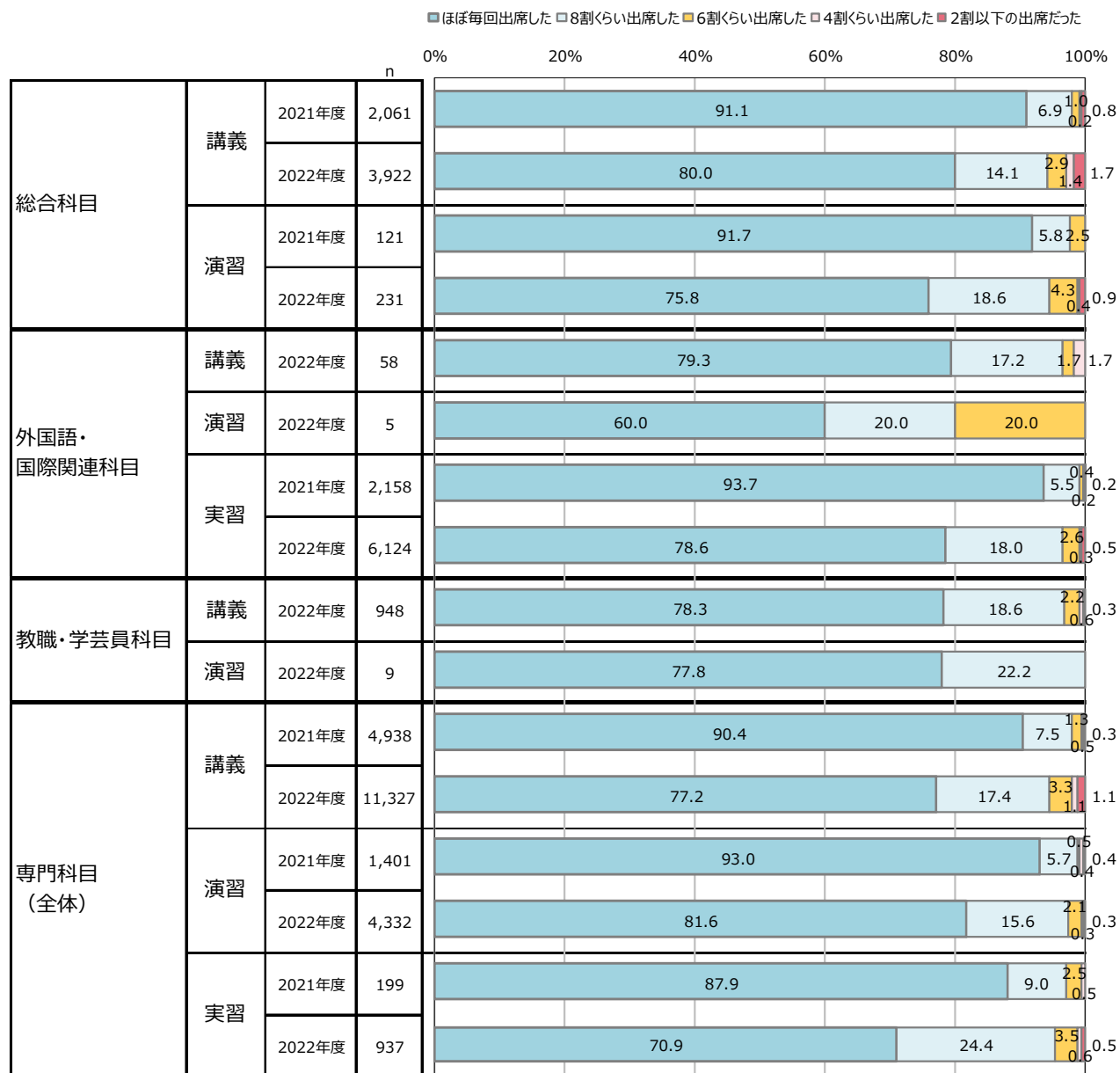
※0%は値ラベルの表示を省略

※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更



※0%は値ラベルの表示を省略

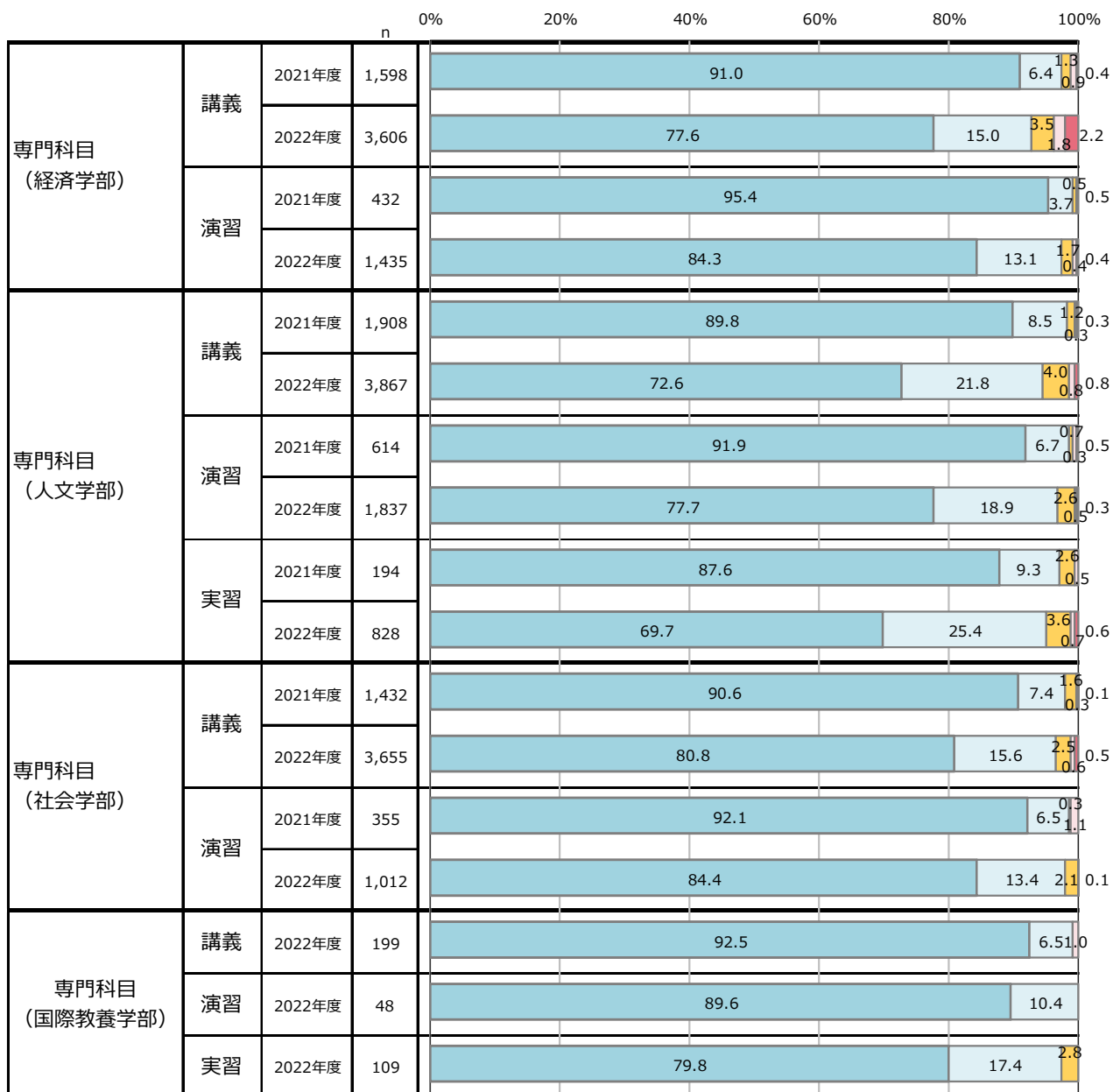
# I-4. この授業にどの程度出席していたか



※0%は値ラベルの表示を省略

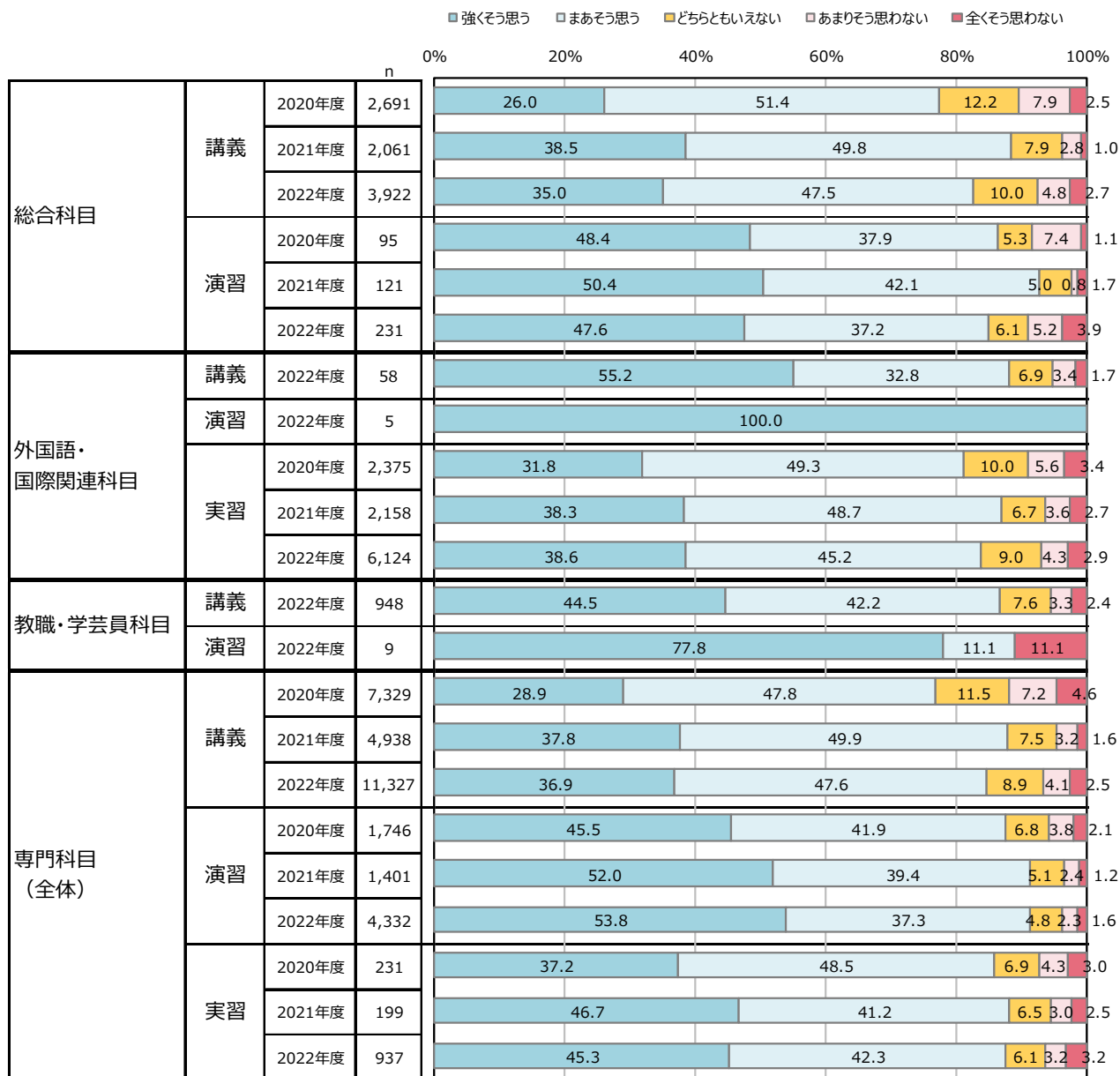
※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

■ほぼ毎回出席した □8割くらい出席した ■6割くらい出席した □4割くらい出席した ■2割以下の出席だった



※0%は値ラベルの表示を省略

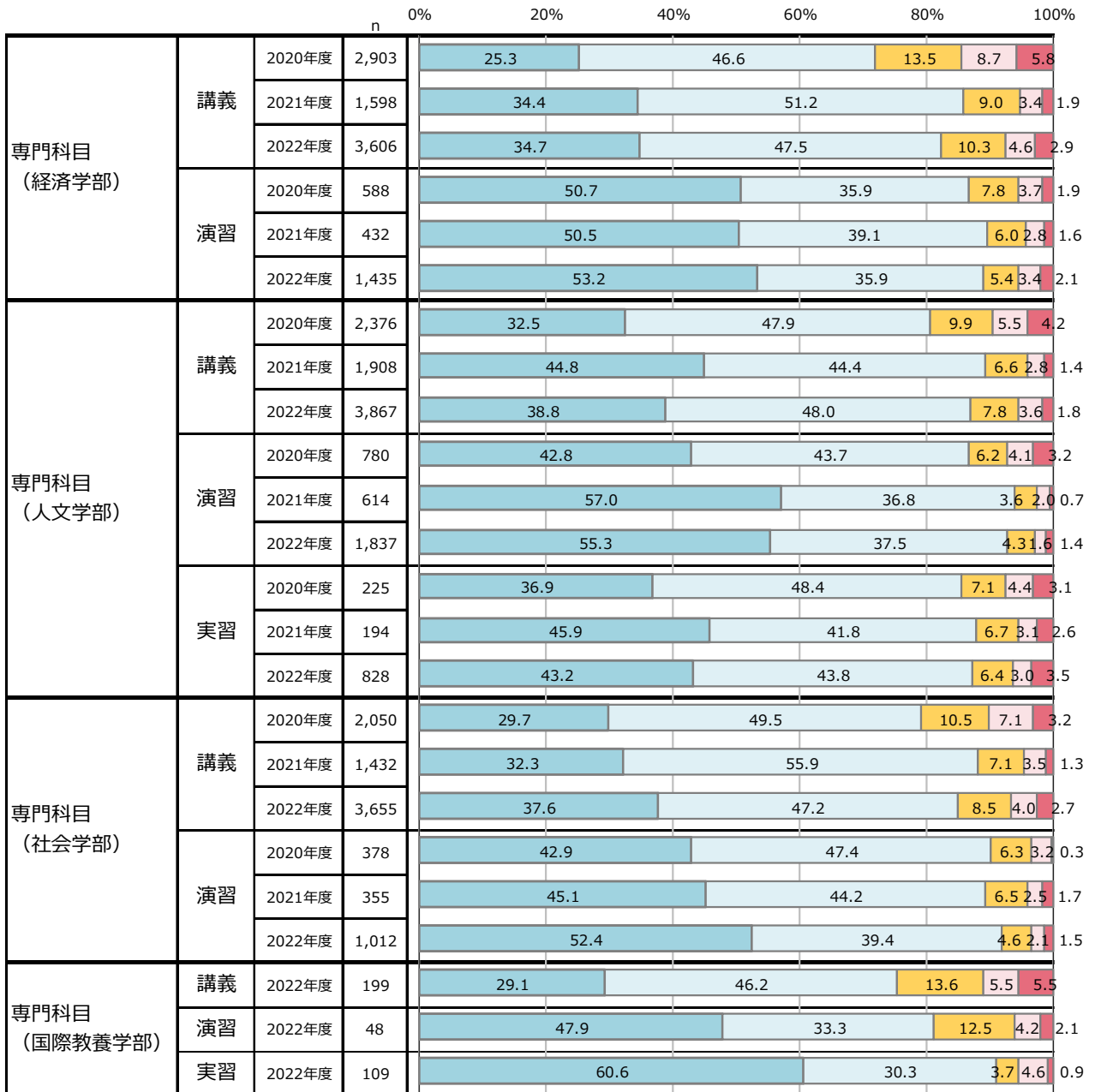
## II-1. 総合的にみて、この授業は満足できたか



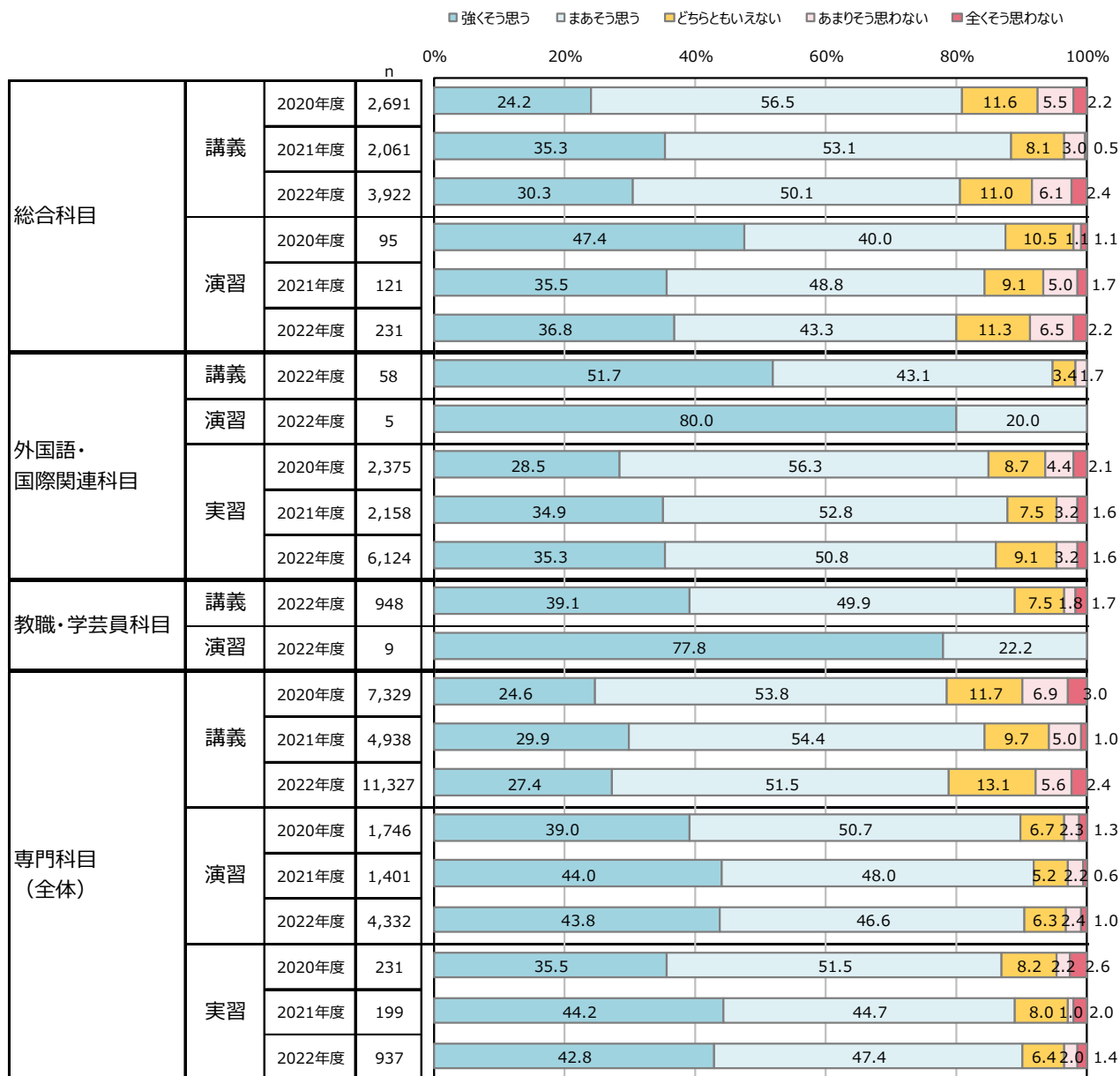
※0%は値ラベルの表示を省略

※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

■ 強く思う □ まあ思う ■ どちらともいえない □ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



## II-2. 授業内容を理解できた

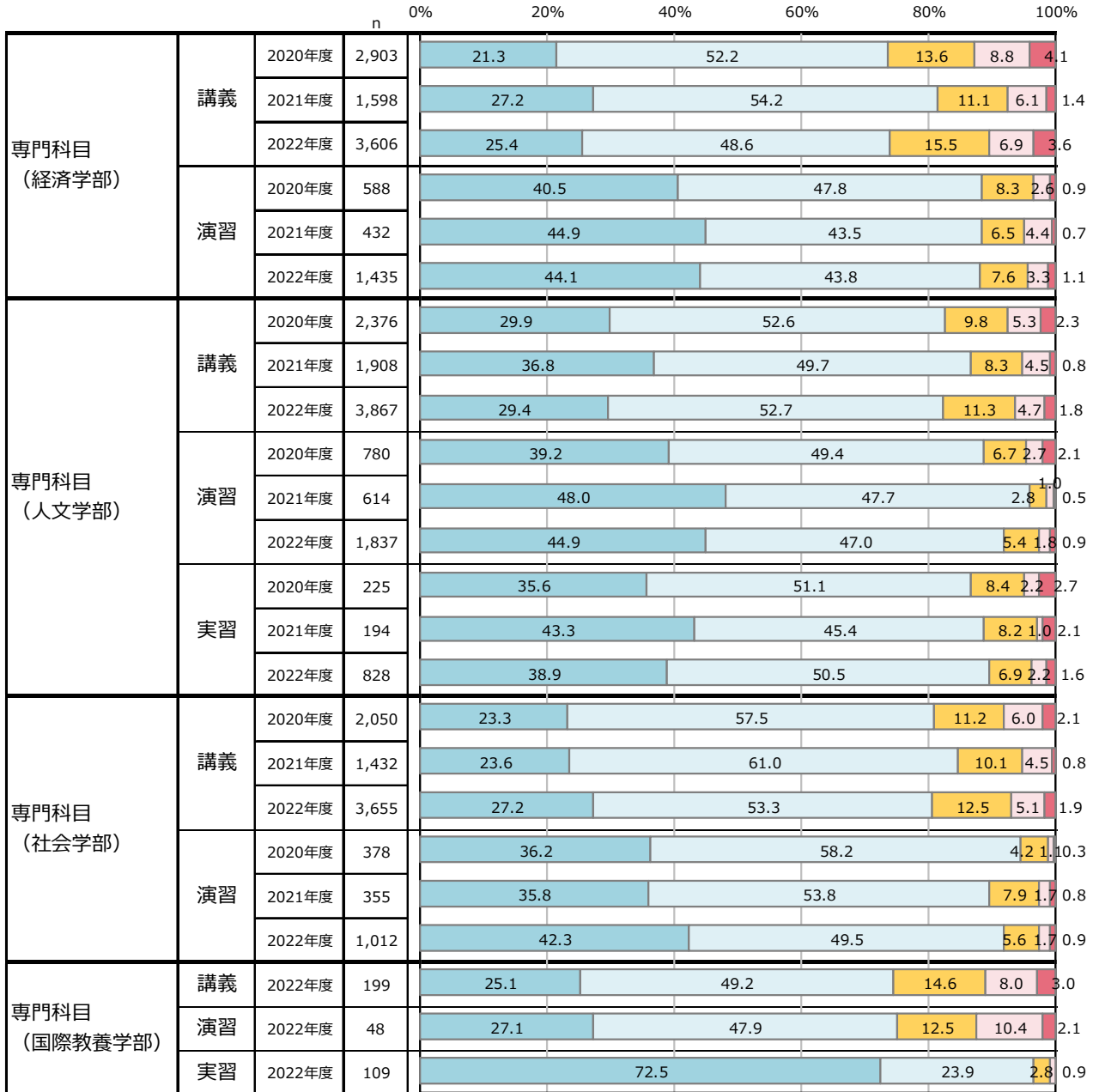


※0%は値ラベルの表示を省略

※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

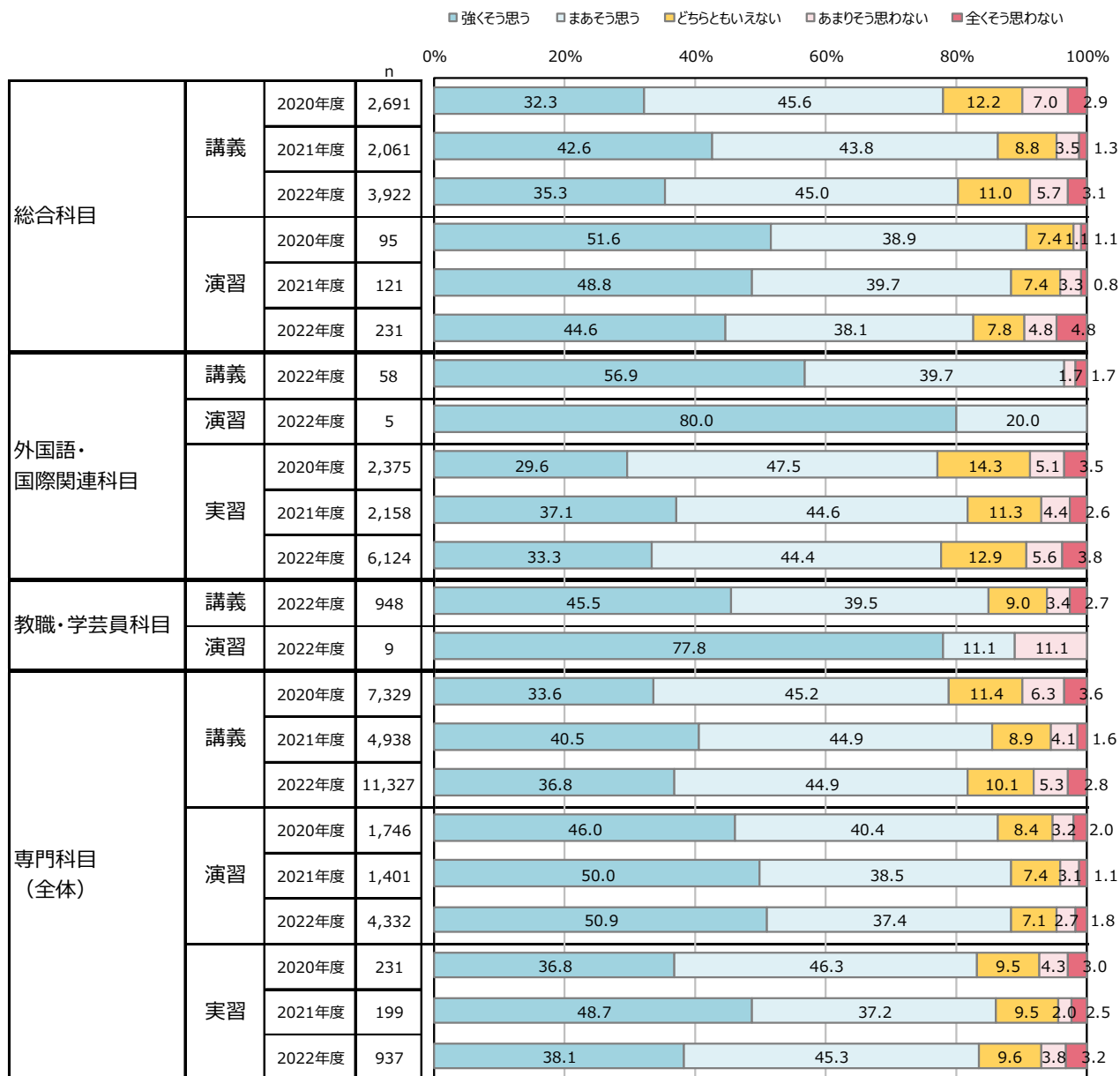


■ 強く思う □ まあ思う ■ どちらともいえない □ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



※0%は値ラベルの表示を省略

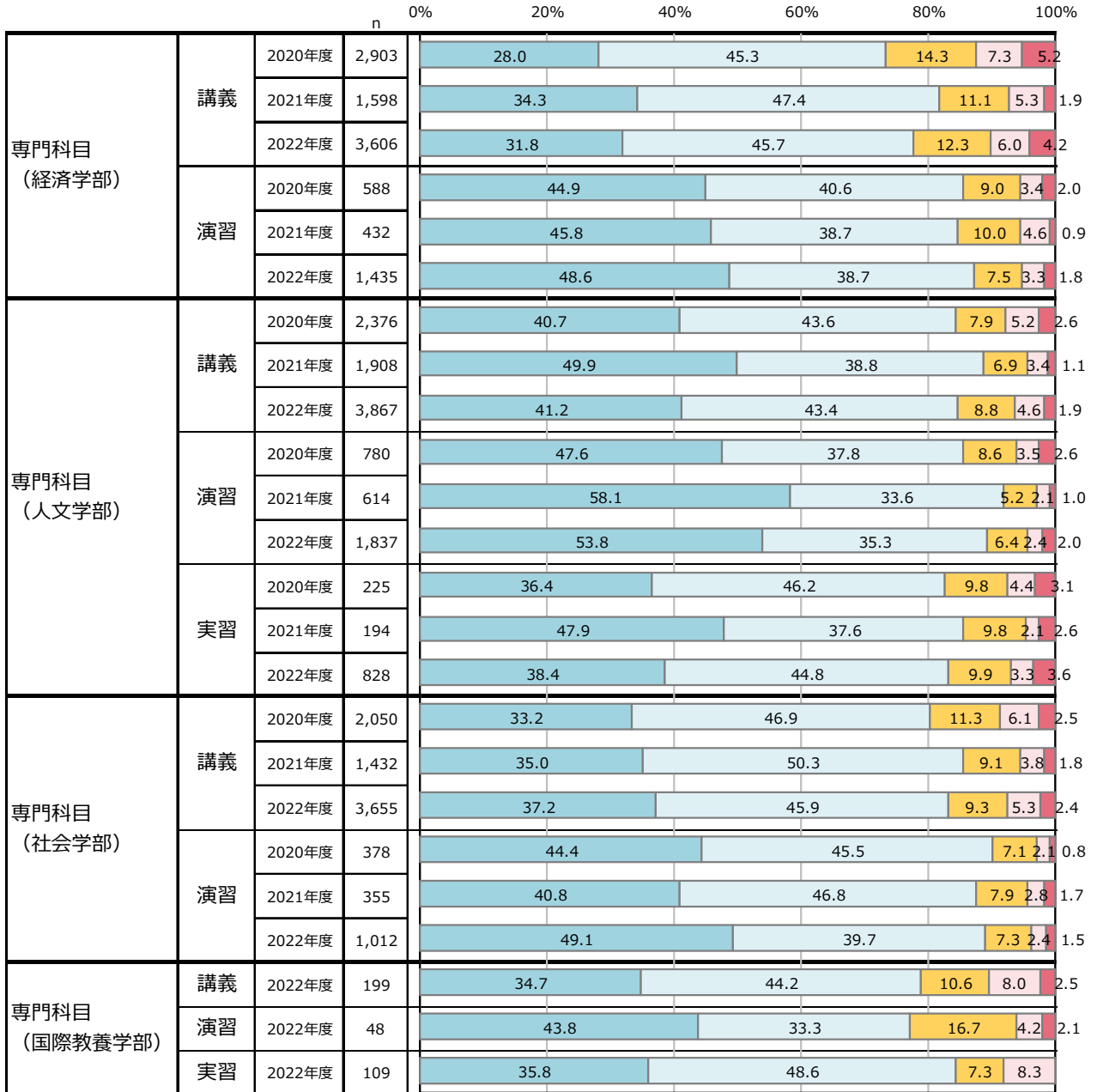
## II-3. 授業内容に興味を持てた



※0%は値ラベルの表示を省略

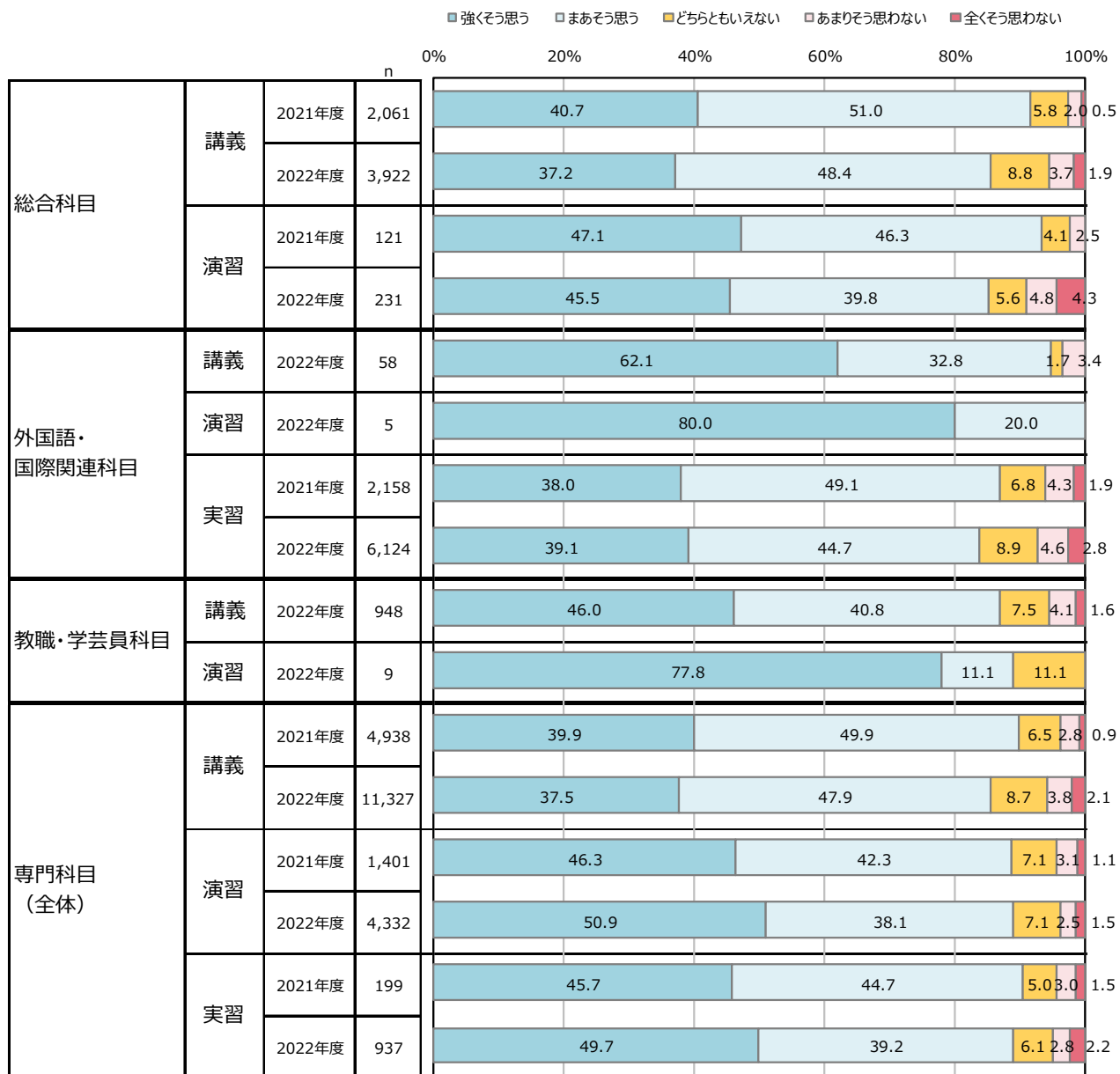
※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

■ 強く思う □ まあ思う ■ どちらともいえない □ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



※0%は値ラベルの表示を省略

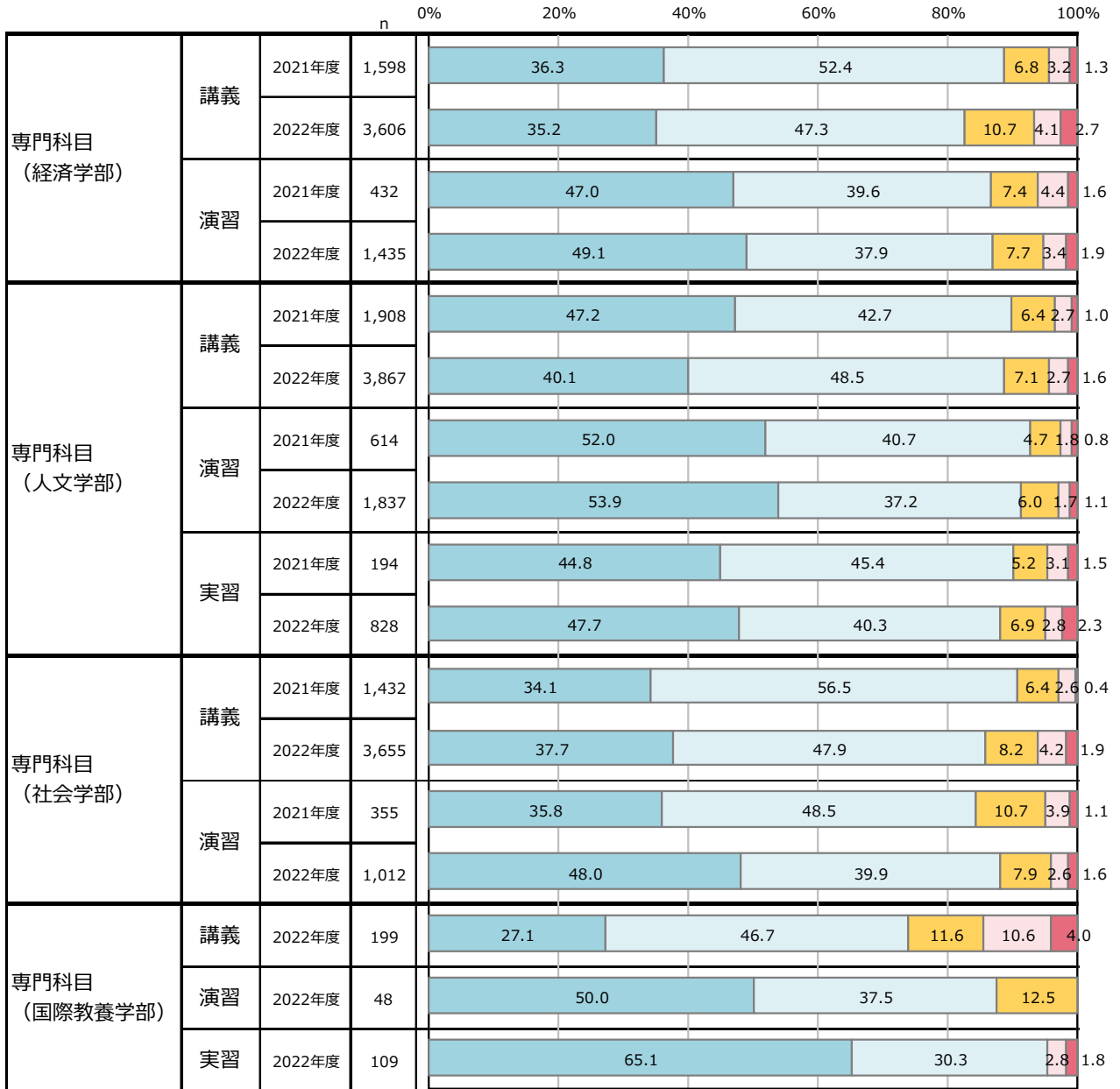
## II-4. 授業の進行速度は適切だった



※0%は値ラベルの表示を省略

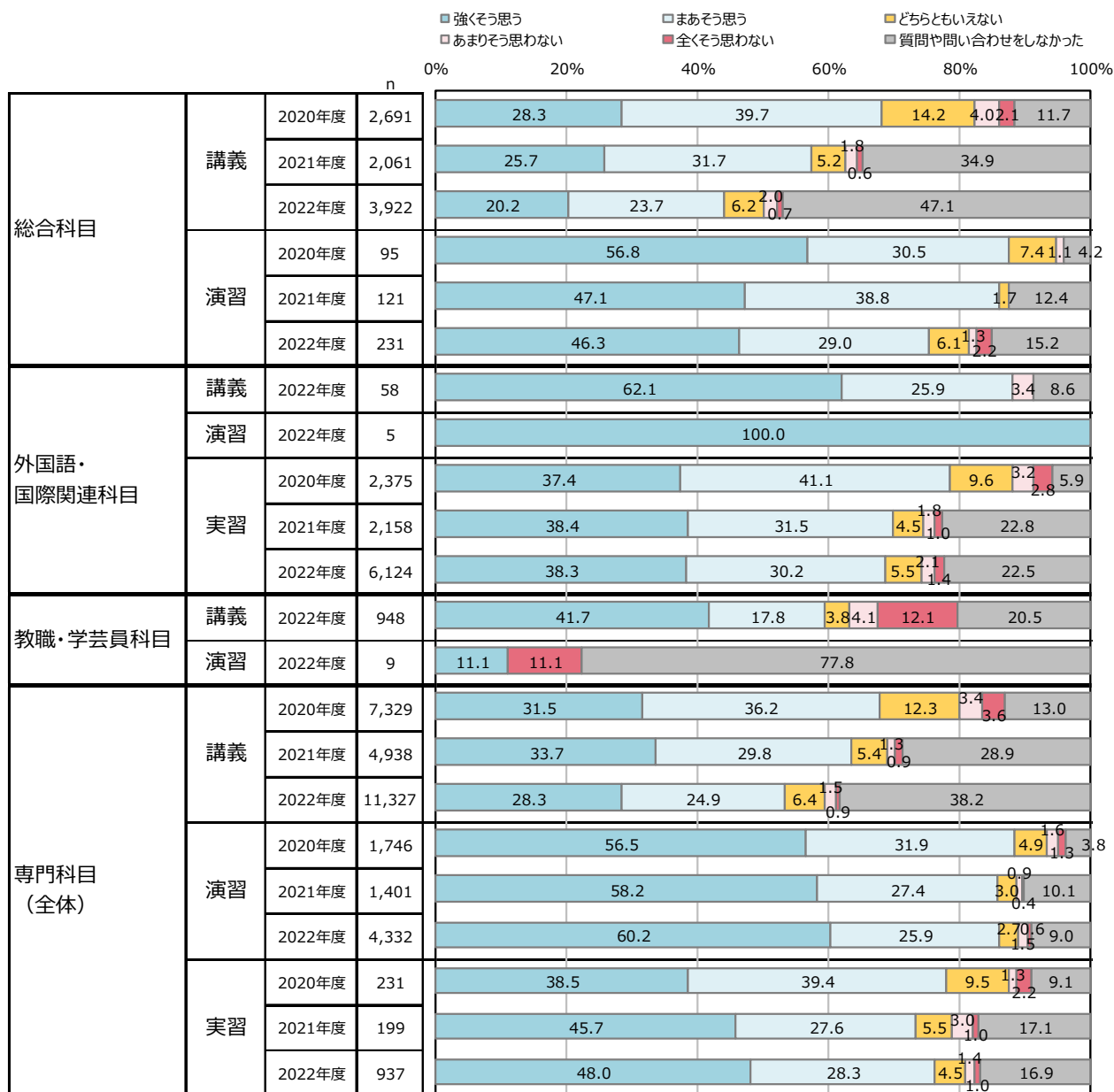
※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

■ 強く思う □ まあ思う ■ どちらともいえない □ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



※0%は値ラベルの表示を省略

## II-5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた



※0%は値ラベルの表示を省略

※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

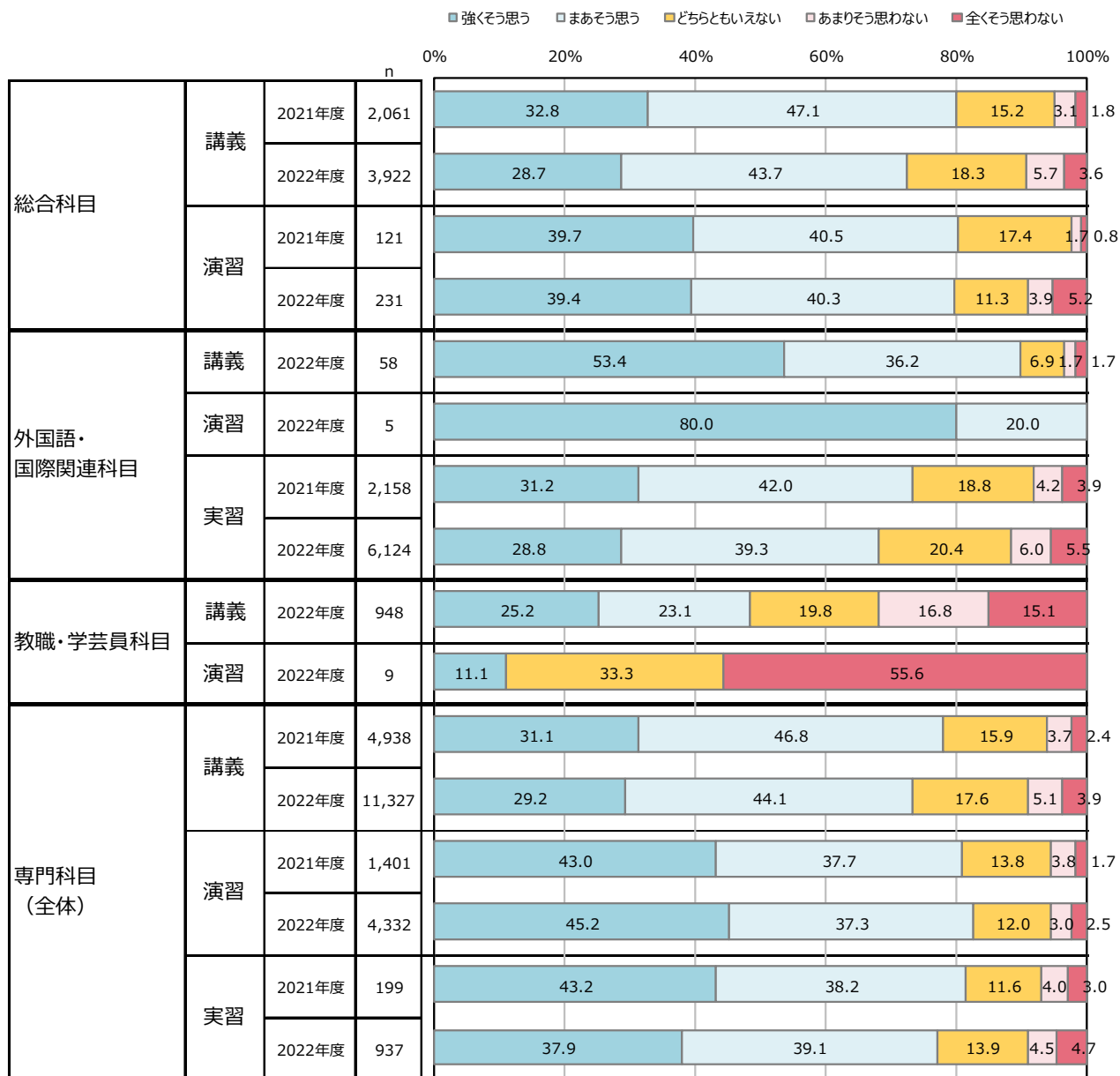
■ 強く思う      ■ まあそう思う      ■ どちらともいえない  
■ あまりそう思わない      ■ 全くそう思わない      ■ 質問や問い合わせをしなかった

n      0%      20%      40%      60%      80%      100%

専攻	科目	年度	n	割合 (%)					
				強く思う	まあそう思う	どちらともいえない	全くそう思わない	あまりそう思わない	質問や問い合わせをしなかった
専攻1 (経済学部)	講義	2020年度	2,903	25.8	34.5	15.1	4.1	5.0	15.6
		2021年度	1,598	27.6	28.2	7.1	1.3	1.1	34.7
		2022年度	3,606	27.1	24.1	7.3	1.6	0.9	39.0
	演習	2020年度	588	58.0	27.9	5.6	1.5	1.4	5.6
		2021年度	432	56.7	25.0	4.2	0.9	1.9	11.3
		2022年度	1,435	59.5	24.8	3.4	2.8	1.0	8.4
専攻2 (人文学部)	講義	2020年度	2,376	34.4	36.0	10.9	3.0	2.3	13.4
		2021年度	1,908	42.0	27.9	4.2	1.4	0.7	23.8
		2022年度	3,867	30.8	25.9	6.2	1.3	0.7	35.1
	演習	2020年度	780	54.4	33.6	4.7	2.2	1.8	3.3
		2021年度	614	63.0	24.8	2.1	0.3	1.2	9.6
		2022年度	1,837	60.6	25.8	2.3	0.9	0.4	10.0
	実習	2020年度	225	38.2	39.1	9.8	1.3	2.2	9.3
		2021年度	194	44.3	28.4	5.7	3.1	1.0	17.5
		2022年度	828	45.3	29.6	5.0	1.4	1.0	17.8
専攻3 (社会学部)	講義	2020年度	2,050	36.1	38.8	10.1	3.0	3.3	8.7
		2021年度	1,432	29.3	34.1	5.2	1.4	1.0	29.0
		2022年度	3,655	26.0	23.7	5.6	1.4	1.0	42.2
	演習	2020年度	378	58.7	34.7	4.0	0.5	0.3	1.9
		2021年度	355	51.8	34.9	3.1	0.6	0.3	9.3
		2022年度	1,012	60.0	27.8	2.2	1.0	0.6	8.5
専攻4 (国際教養学部)	講義	2022年度	199	43.2	38.2	6.0	4.0	1.0	7.5
	演習	2022年度	48	68.8	22.9	8.3			
	実習	2022年度	109	68.8	18.3	0.9	0.9	10.1	

※0%は値ラベルの表示を省略

## II-6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

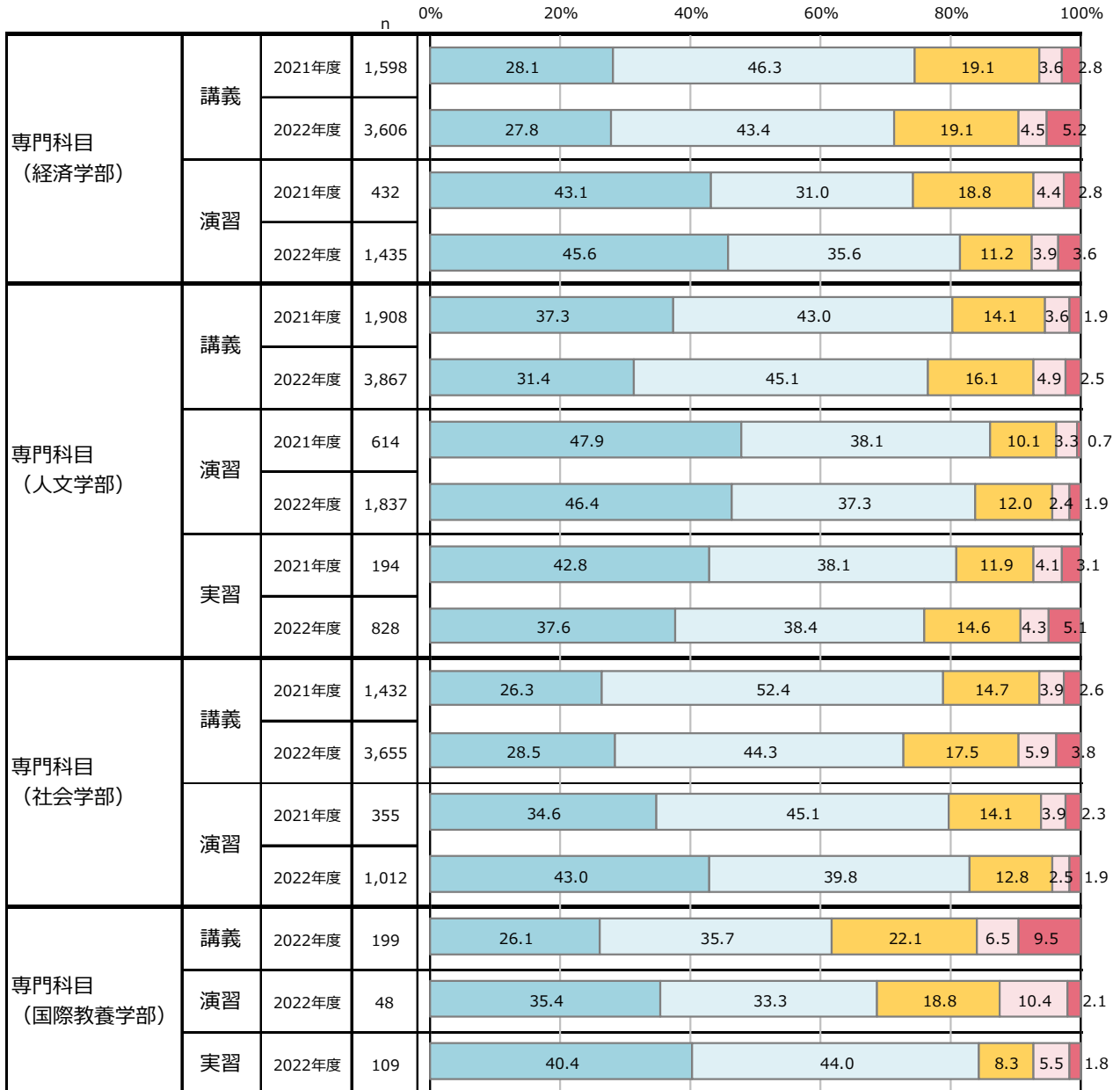


※0%は値ラベルの表示を省略

※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更



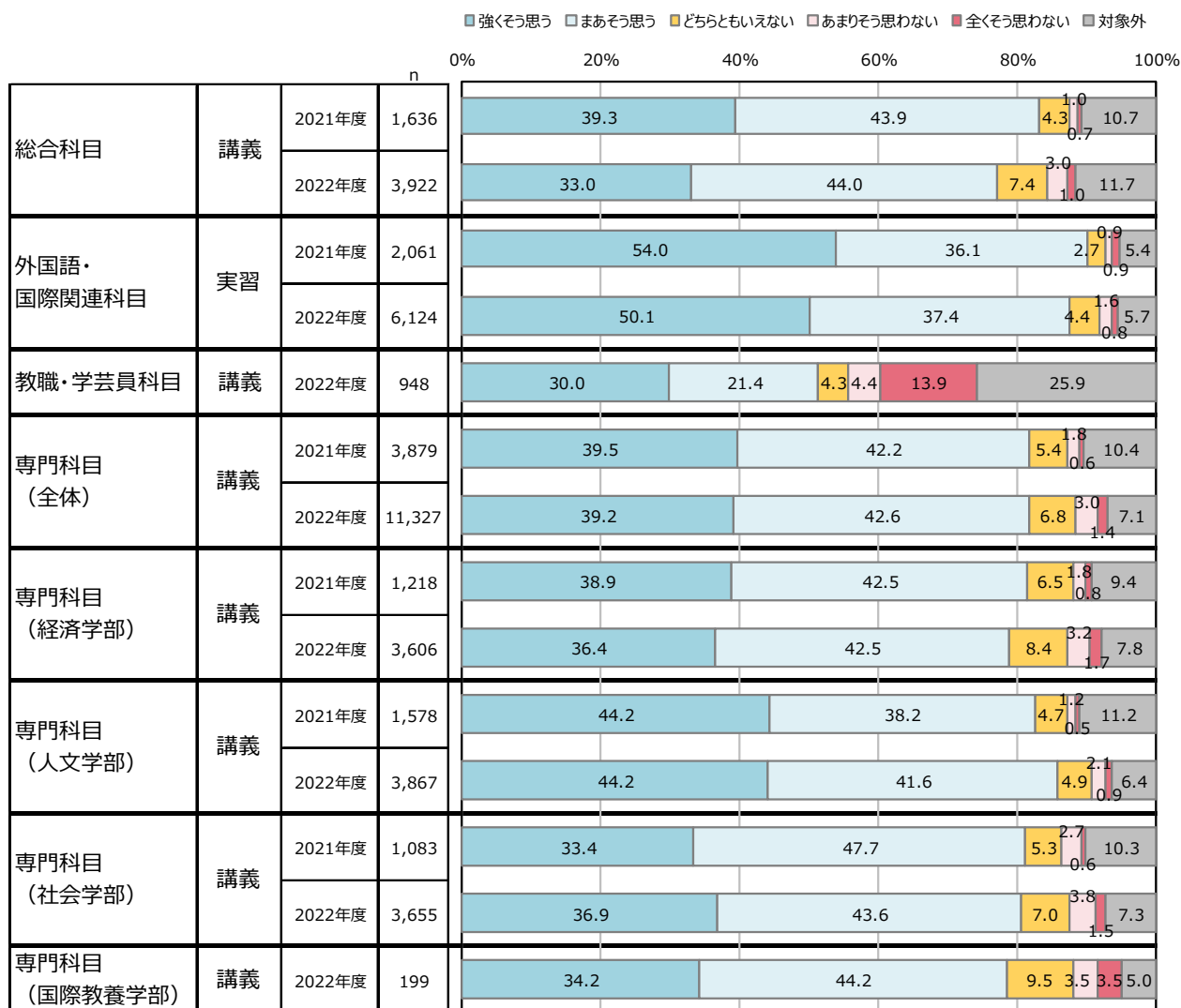
■ 強く思う □ まあそう思う ■ どちらともいえない □ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



※0%は値ラベルの表示を省略

### Ⅲ-1. 教科書・配付資料などは効果的に使われていた

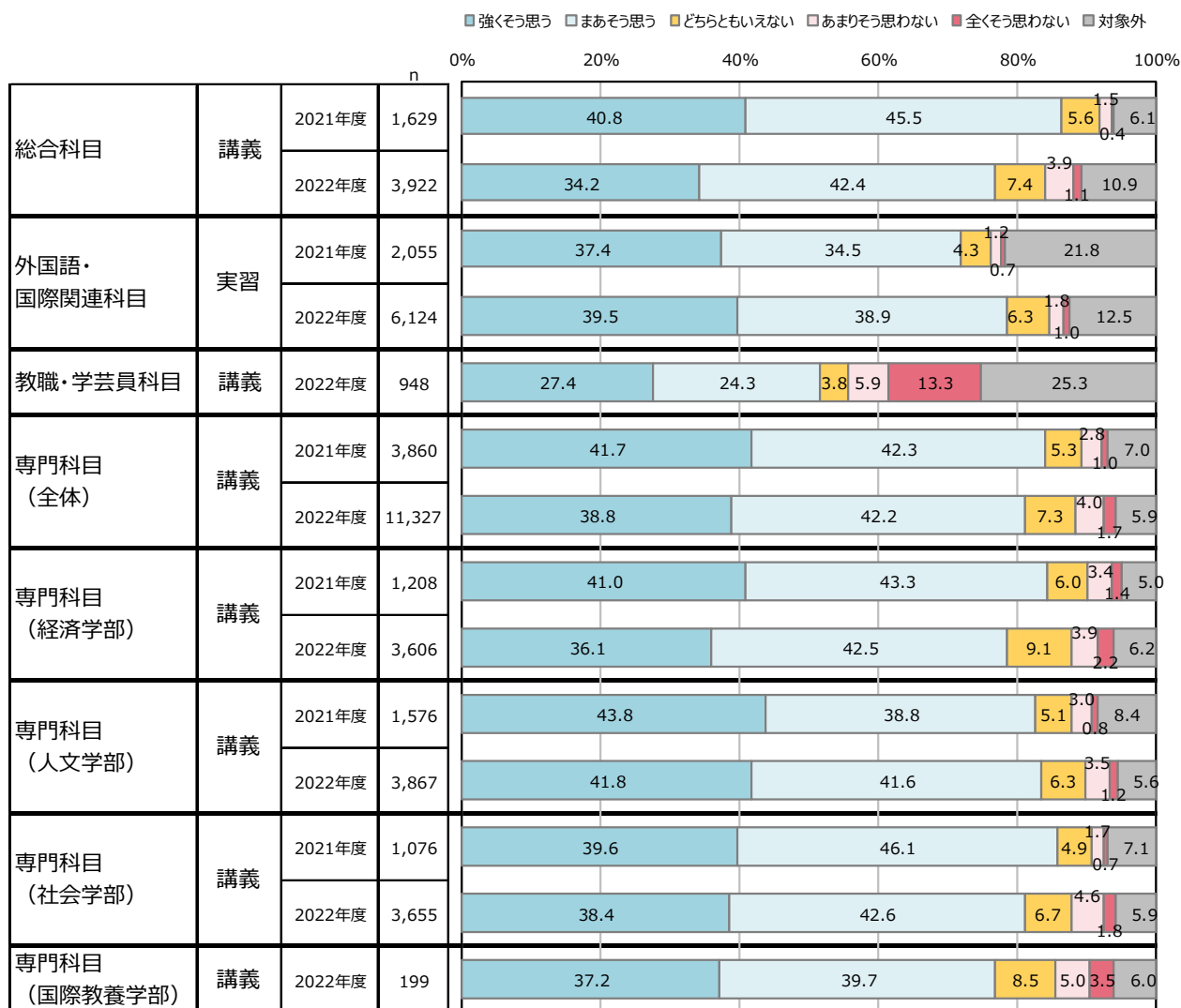
※「講義」または「実習(外国語・国際関連科目)」のみ集計対象



※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

### Ⅲ-2. 配付資料などの文字は読みやすく書かれていた

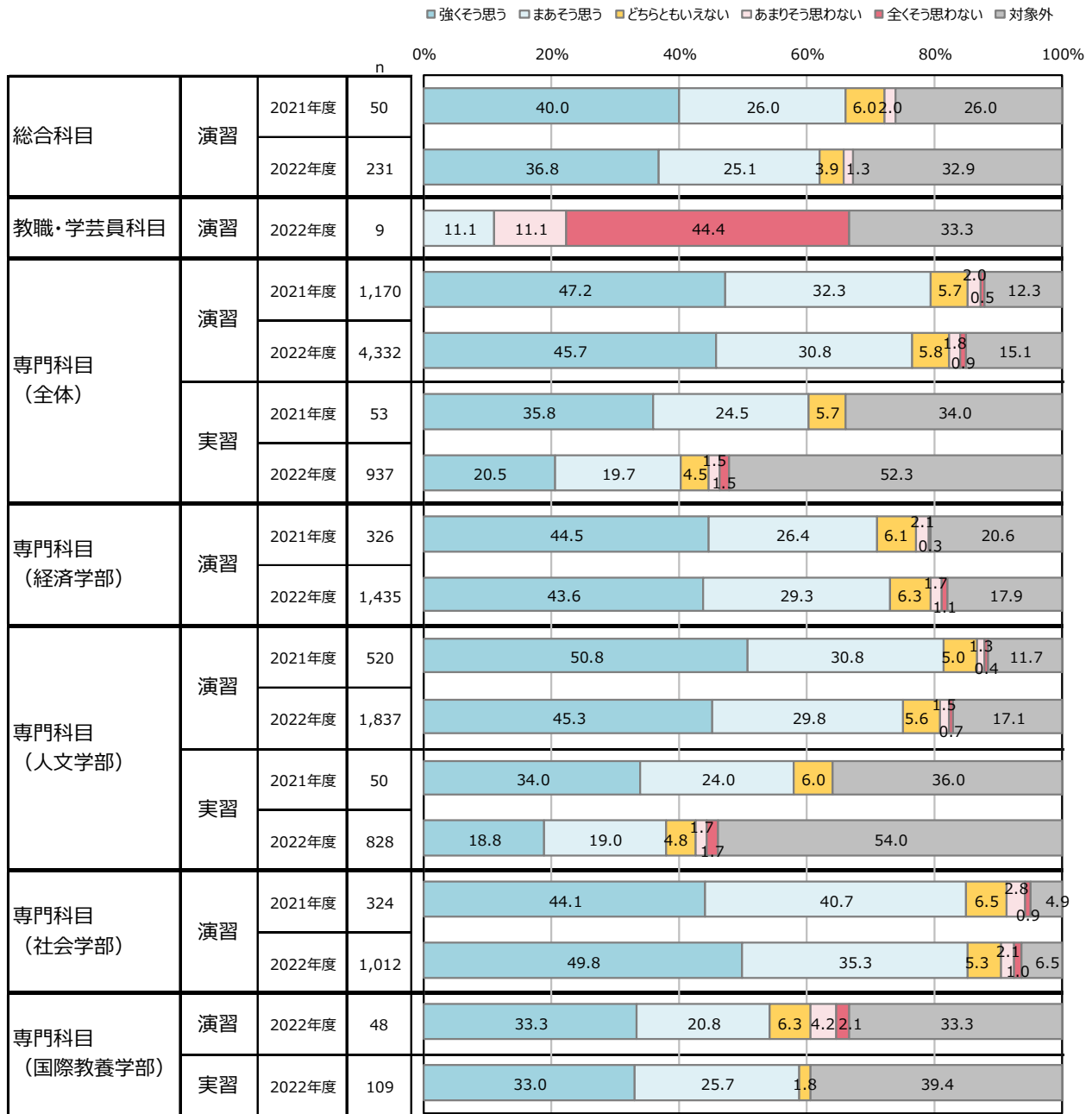
※「講義」または「実習(外国語・国際関連科目)」のみ集計対象



※2022年度から「外国語科目」は「外国語・国際関連科目」に名称変更

### Ⅲ-3. 教員は報告や討論の仕方について指導してくれた

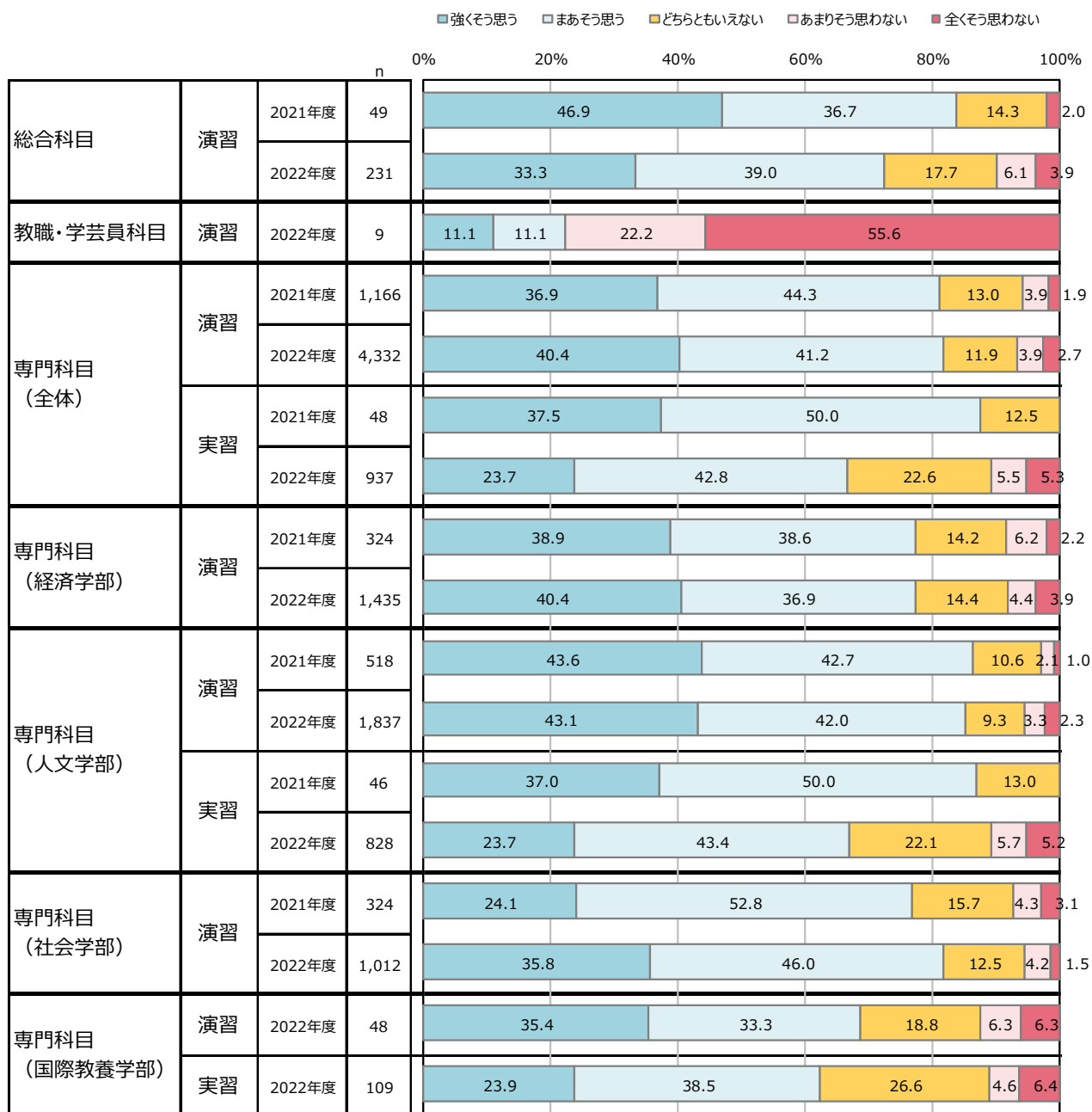
※「演習」または「実習」のみ集計対象



※0%は値ラベルの表示を省略

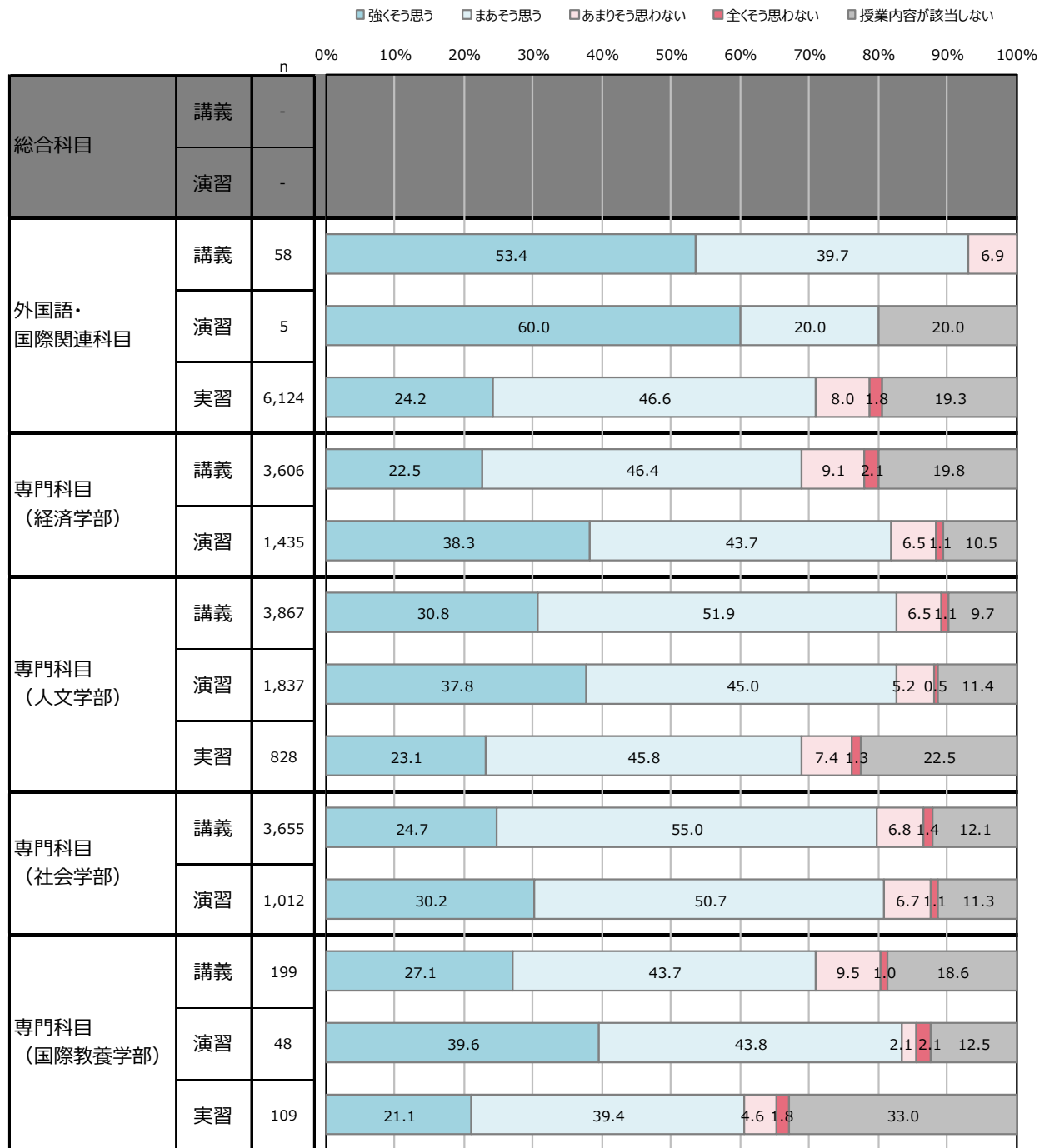
### Ⅲ-4. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽しかった

※「演習」または「実習」のみ集計対象



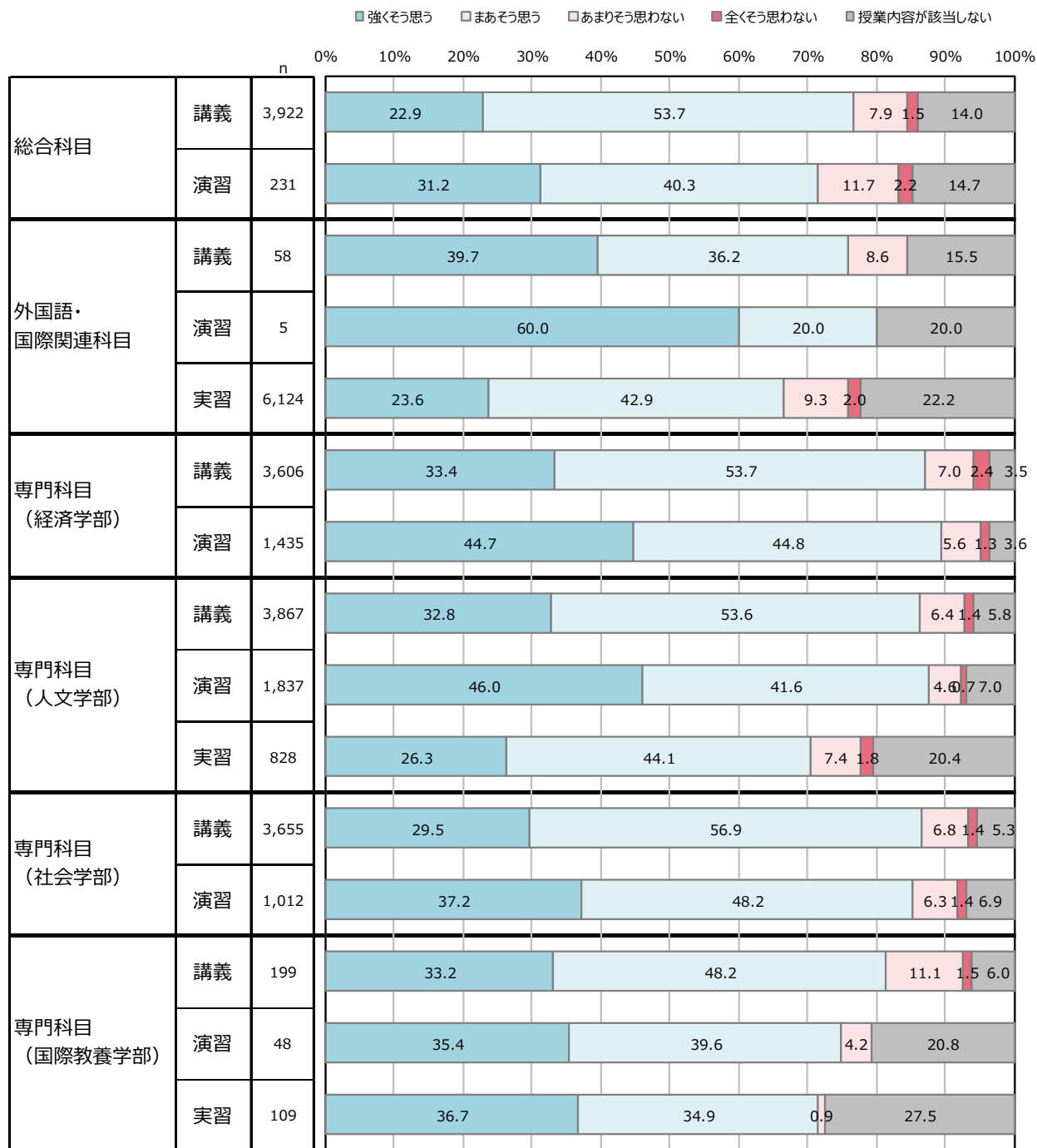
※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-1. 幅広い教養が身についた



※0%は値ラベルの表示を省略

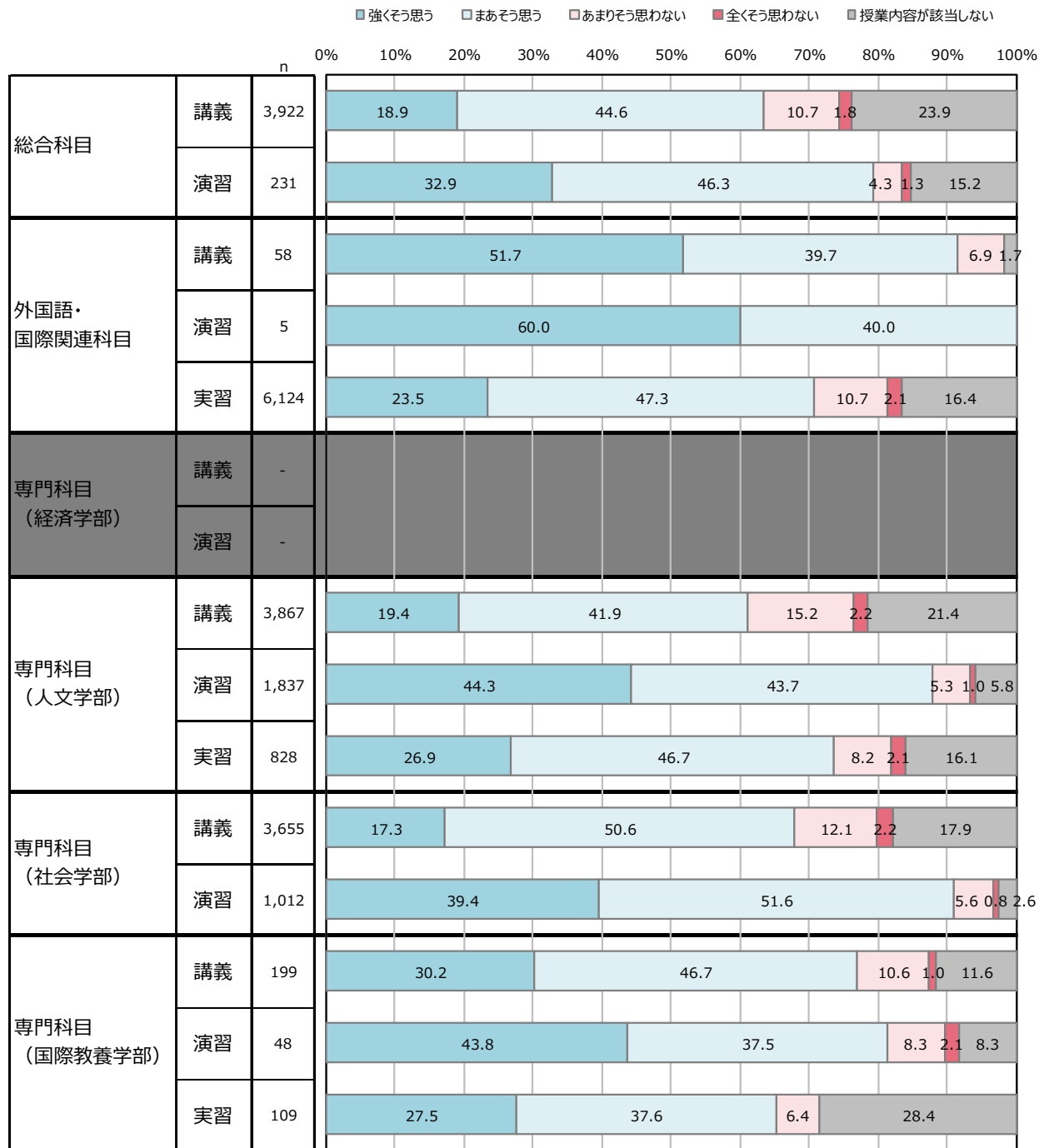
## IV-2. 専門的知識が身についた



※0%は値ラベルの表示を省略

※人文学部のみ「専門的・学際的な知識が身についた」と聴取。

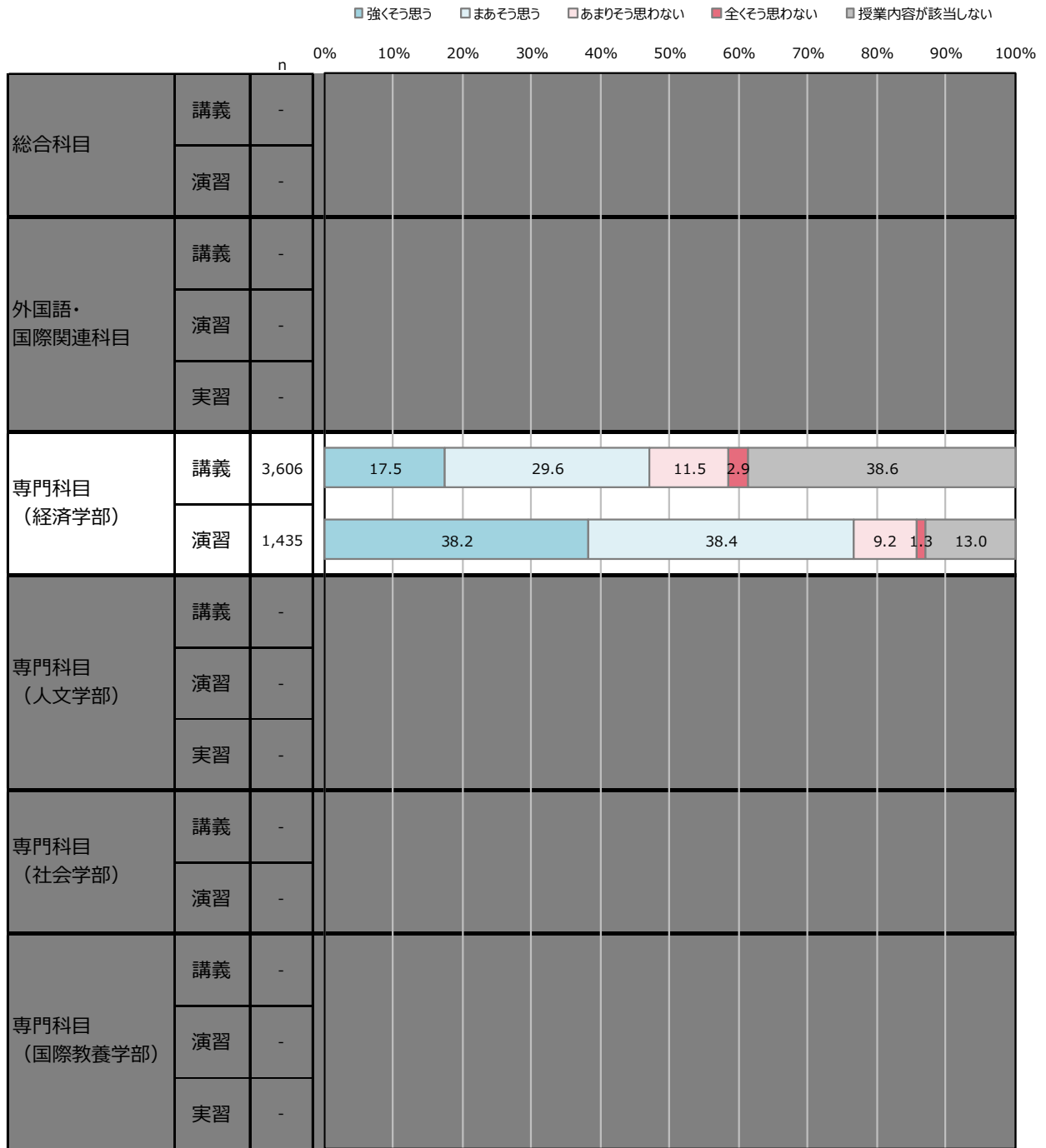
### IV-3. 主体的に学ぶ力が身についた



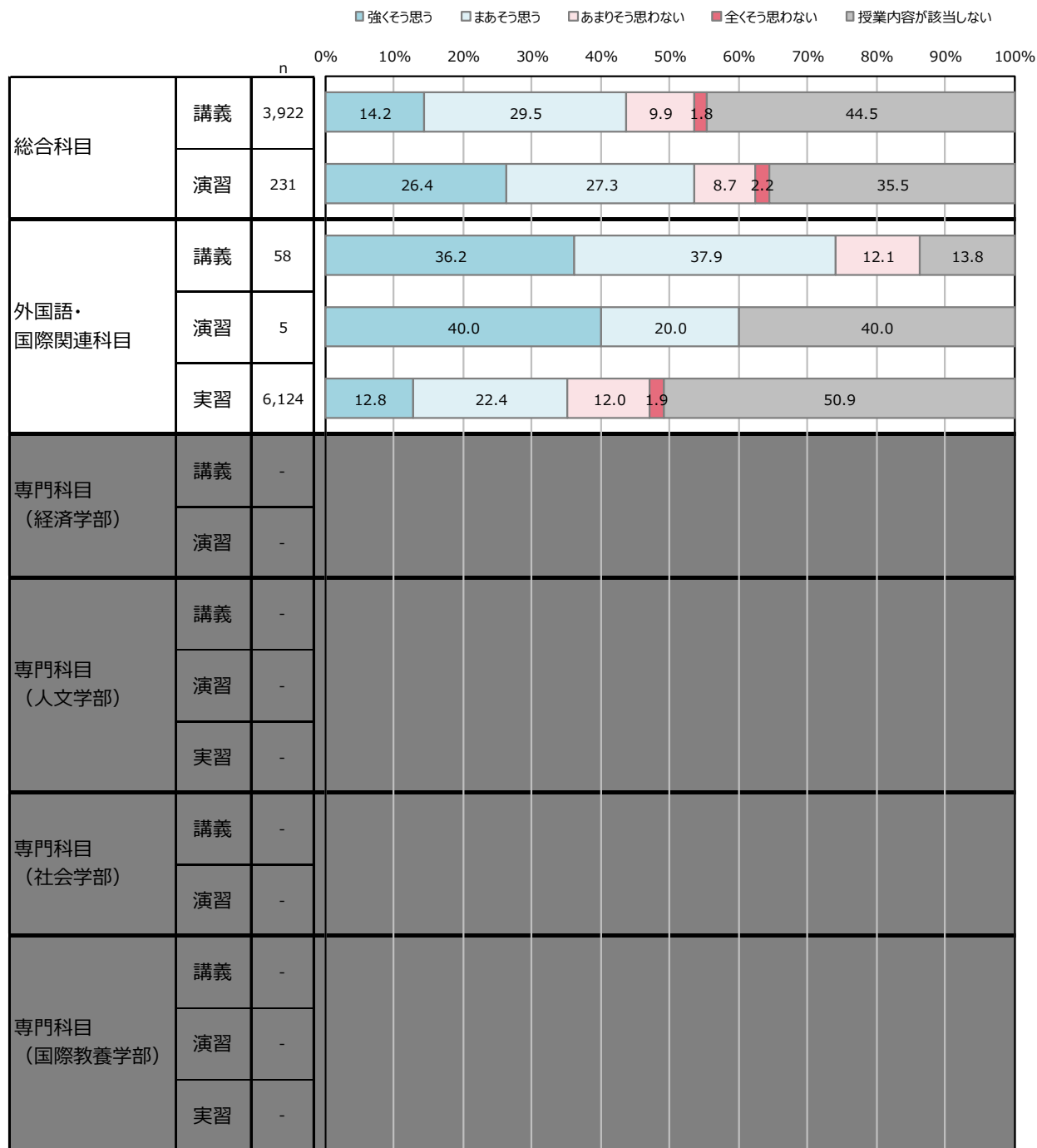
※0%は値ラベルの表示を省略



#### IV-4. 主体的な課題設定力が身についた

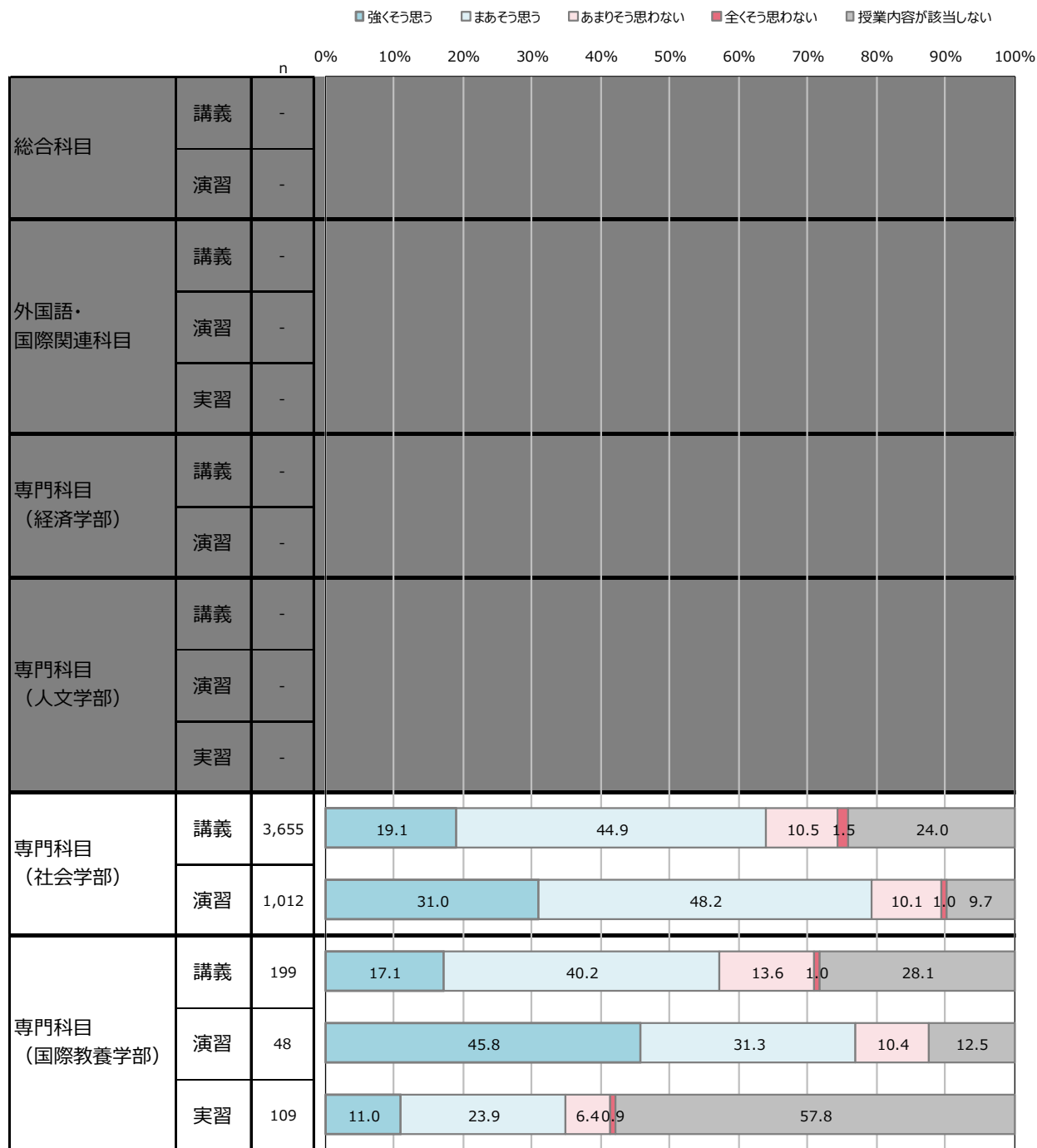


#### IV-5. 批判的に学ぶ力が身についた



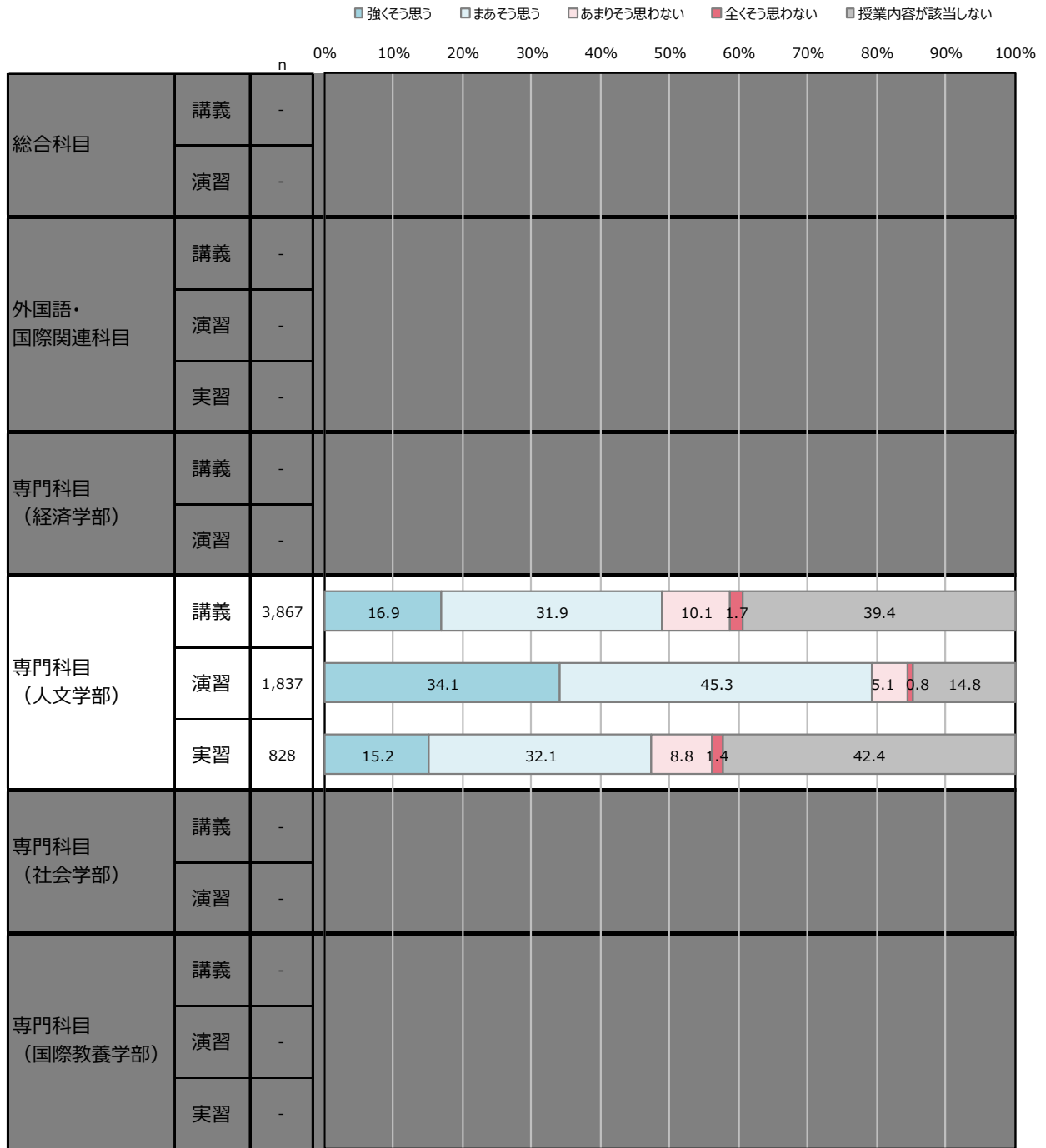
※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-6. 批判的に分析する力が身についた

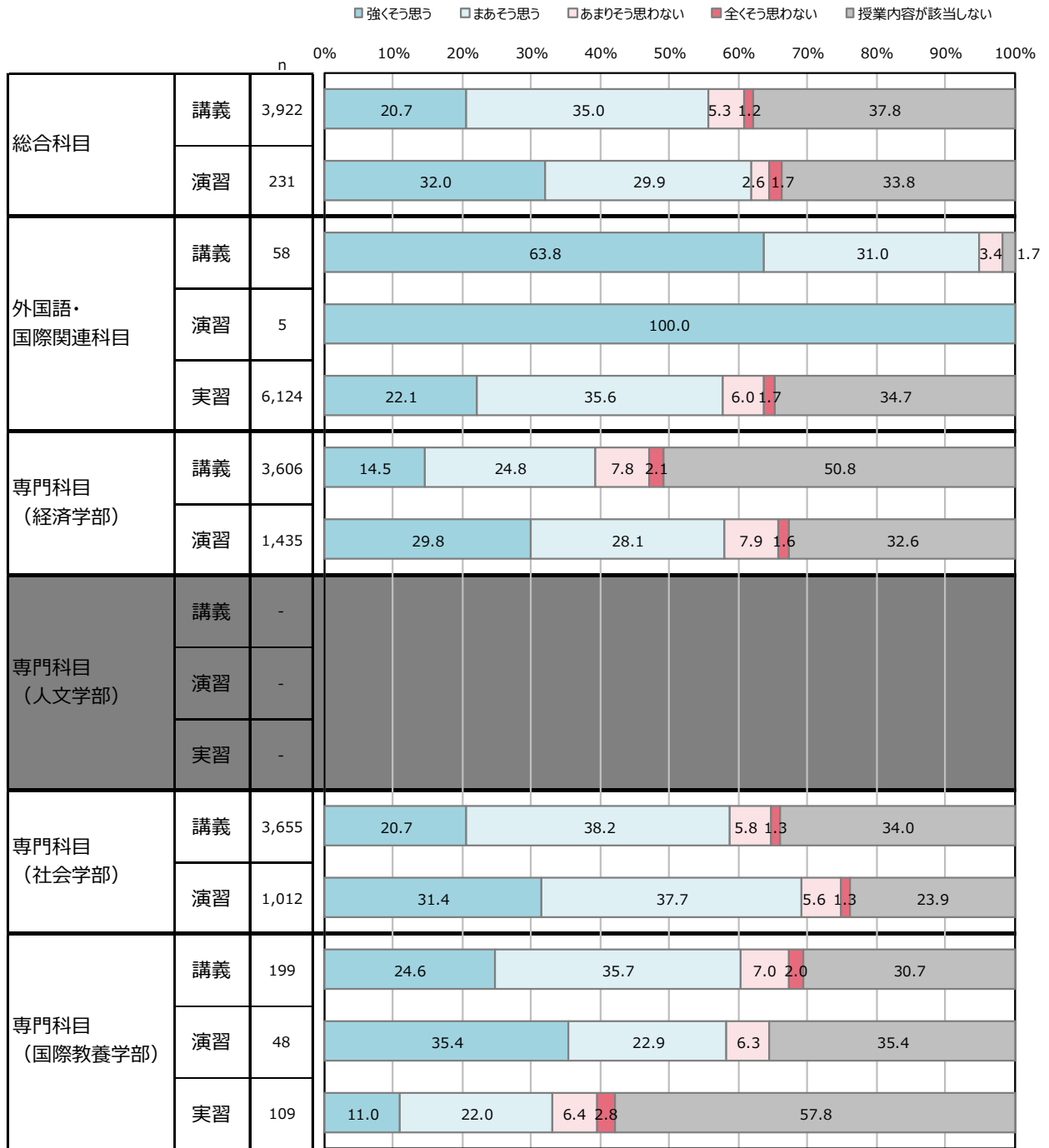


※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-7. 論理的に表現・批評する力が身についた

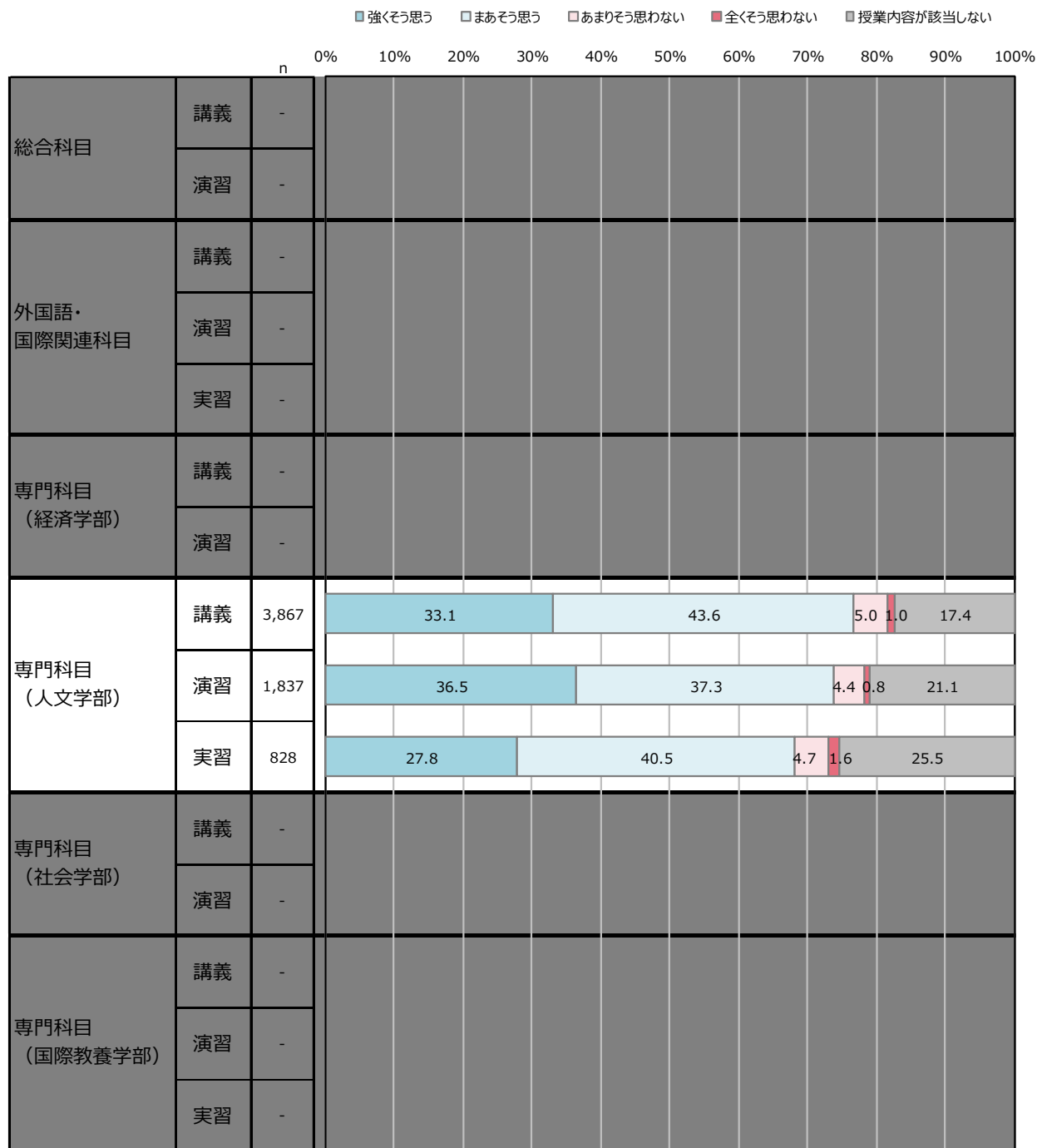


#### IV-8. 多様性を理解する力が身についた

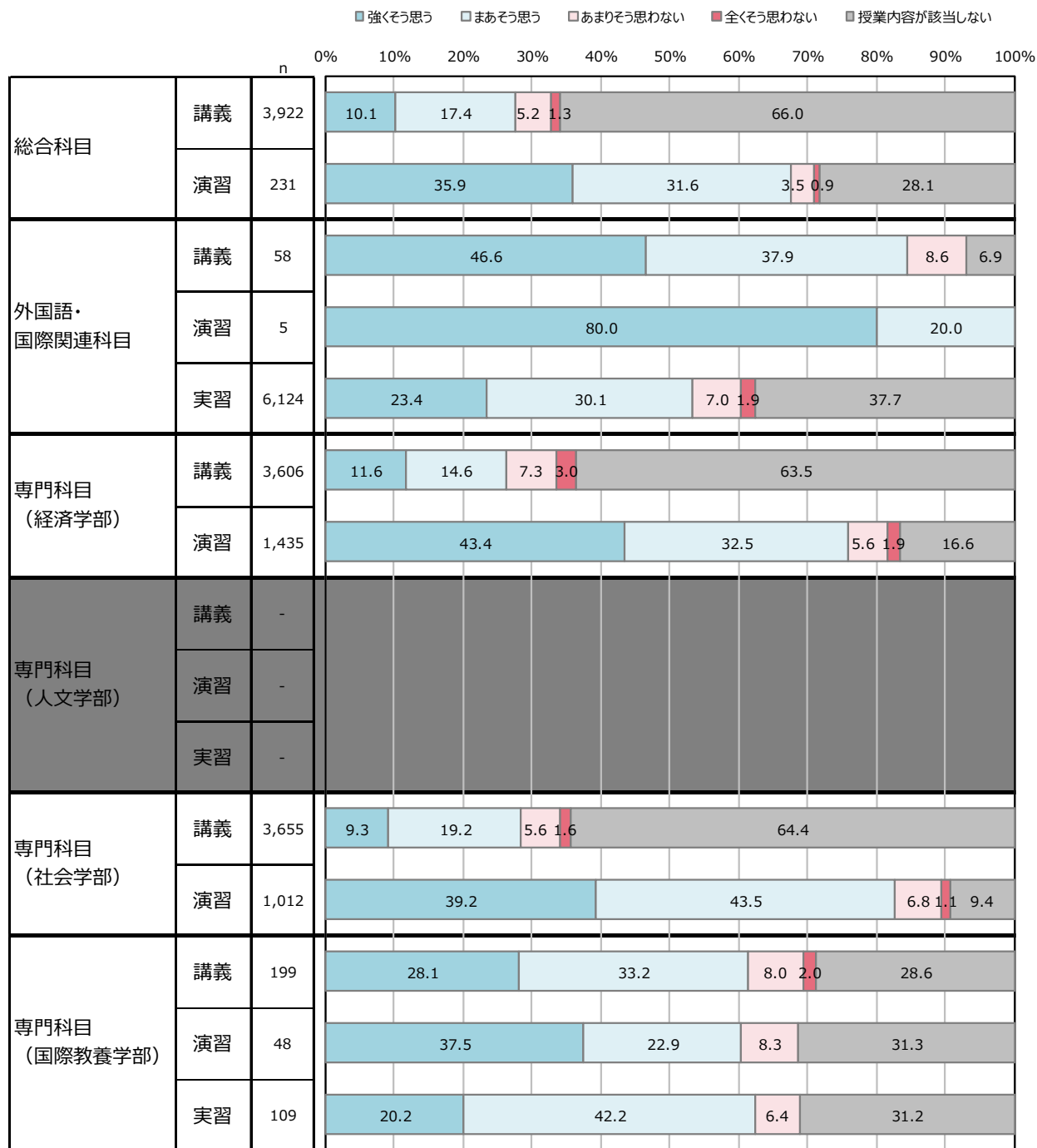


※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-9. 多様な文化を理解する力が身についた

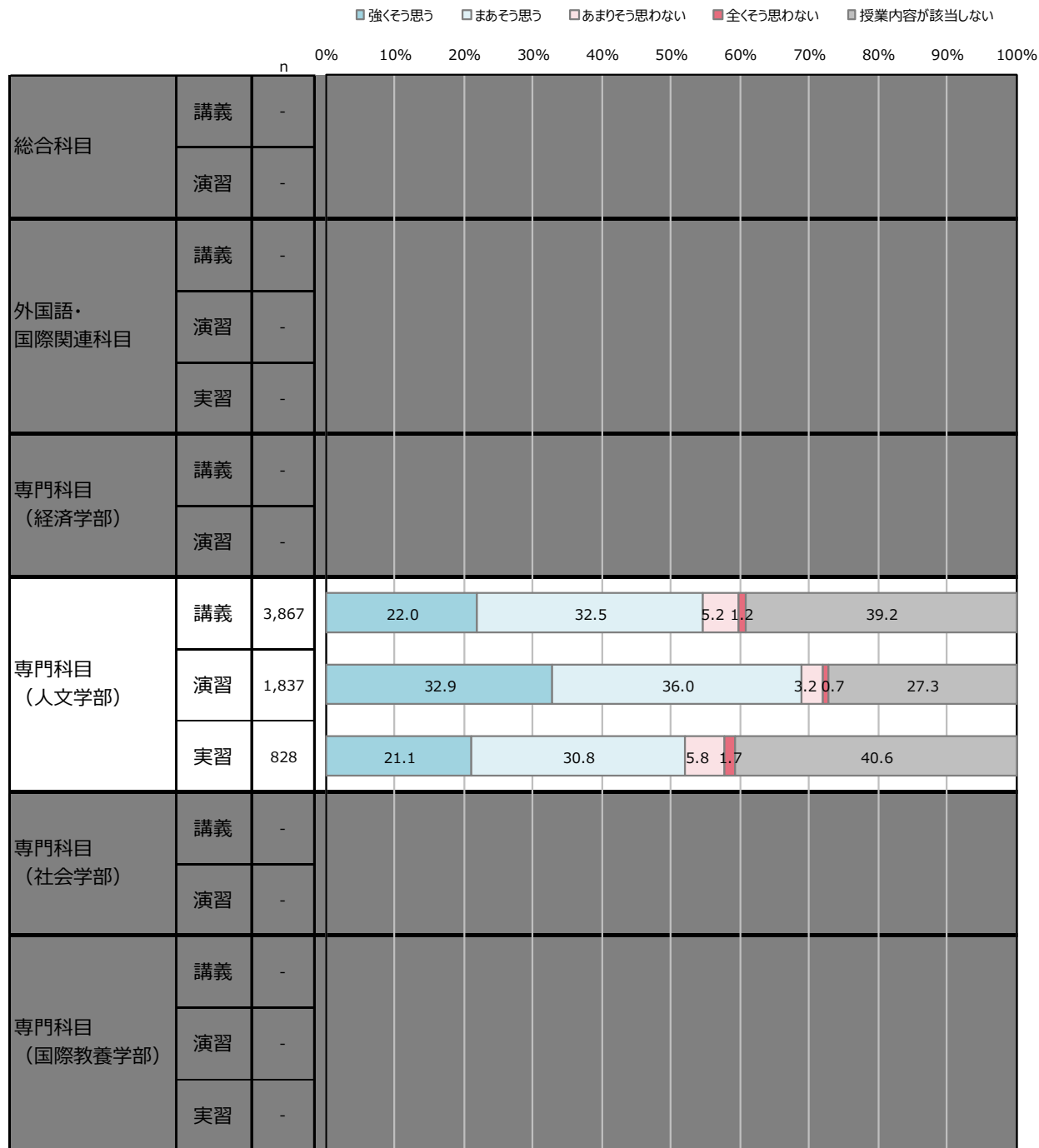


#### IV-10. 他者と協働する力が身についた



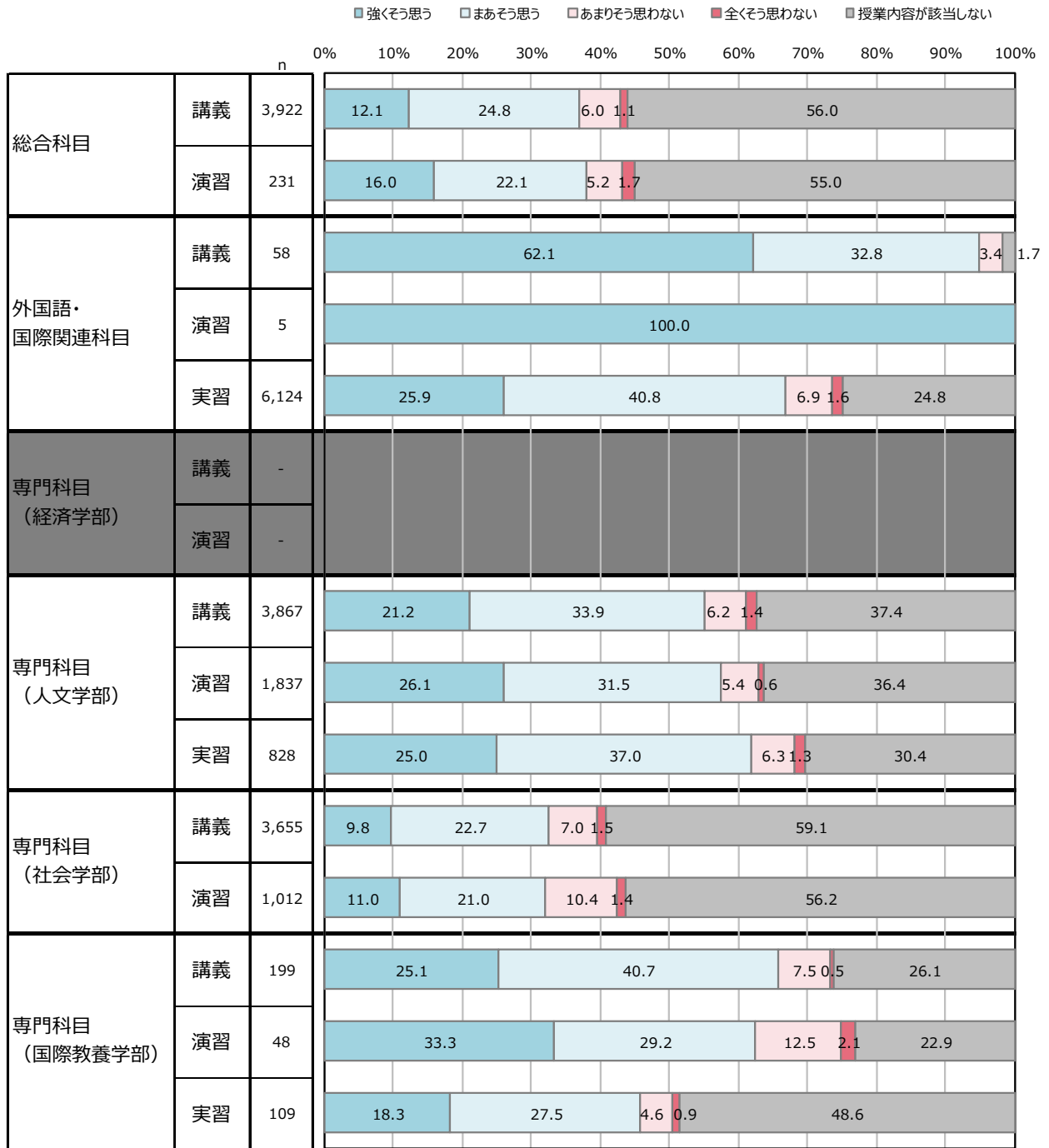
※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-11. 他者を受け入れる力が身についた



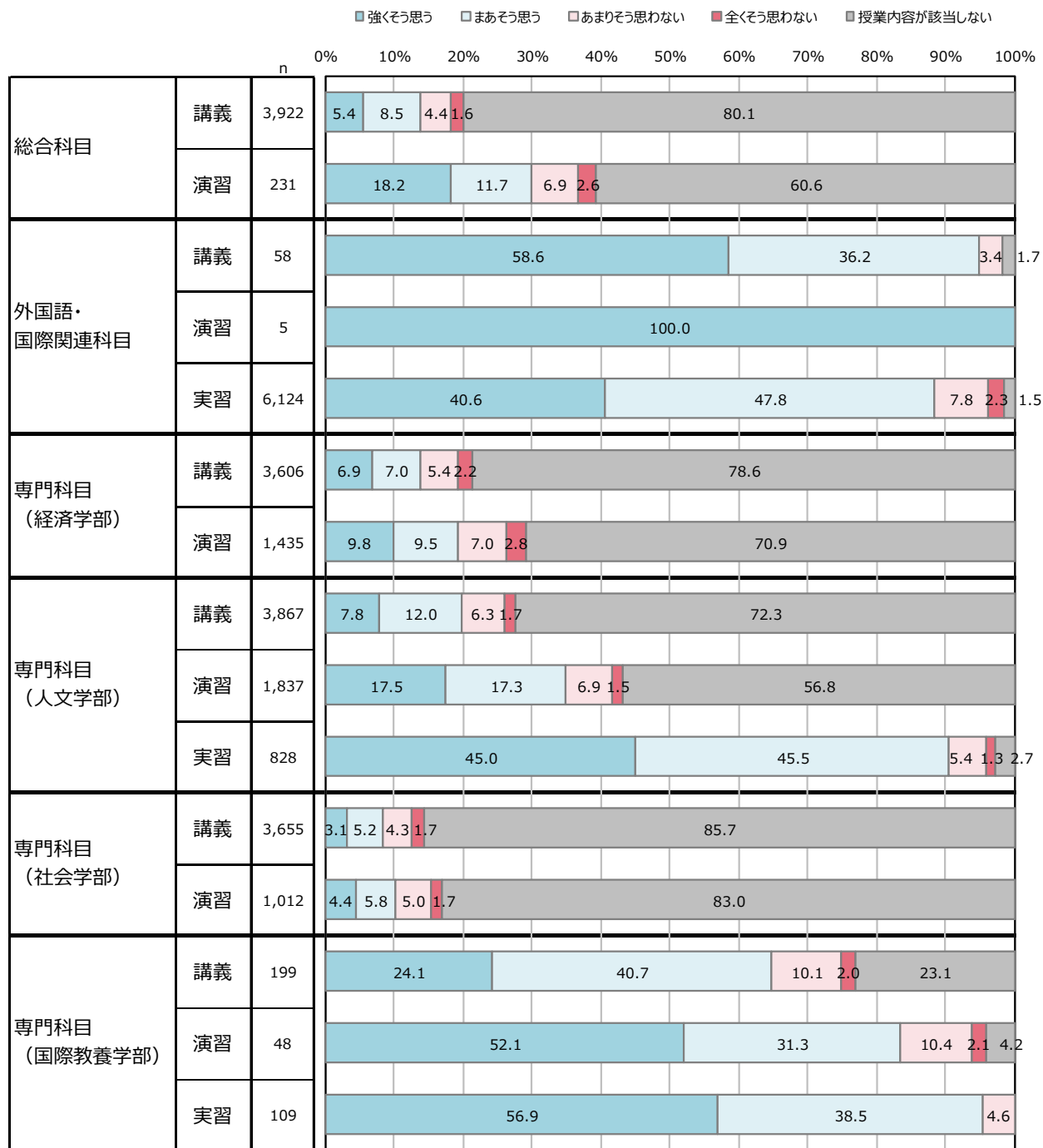


#### IV-12. グローバルに思考する力が身についた



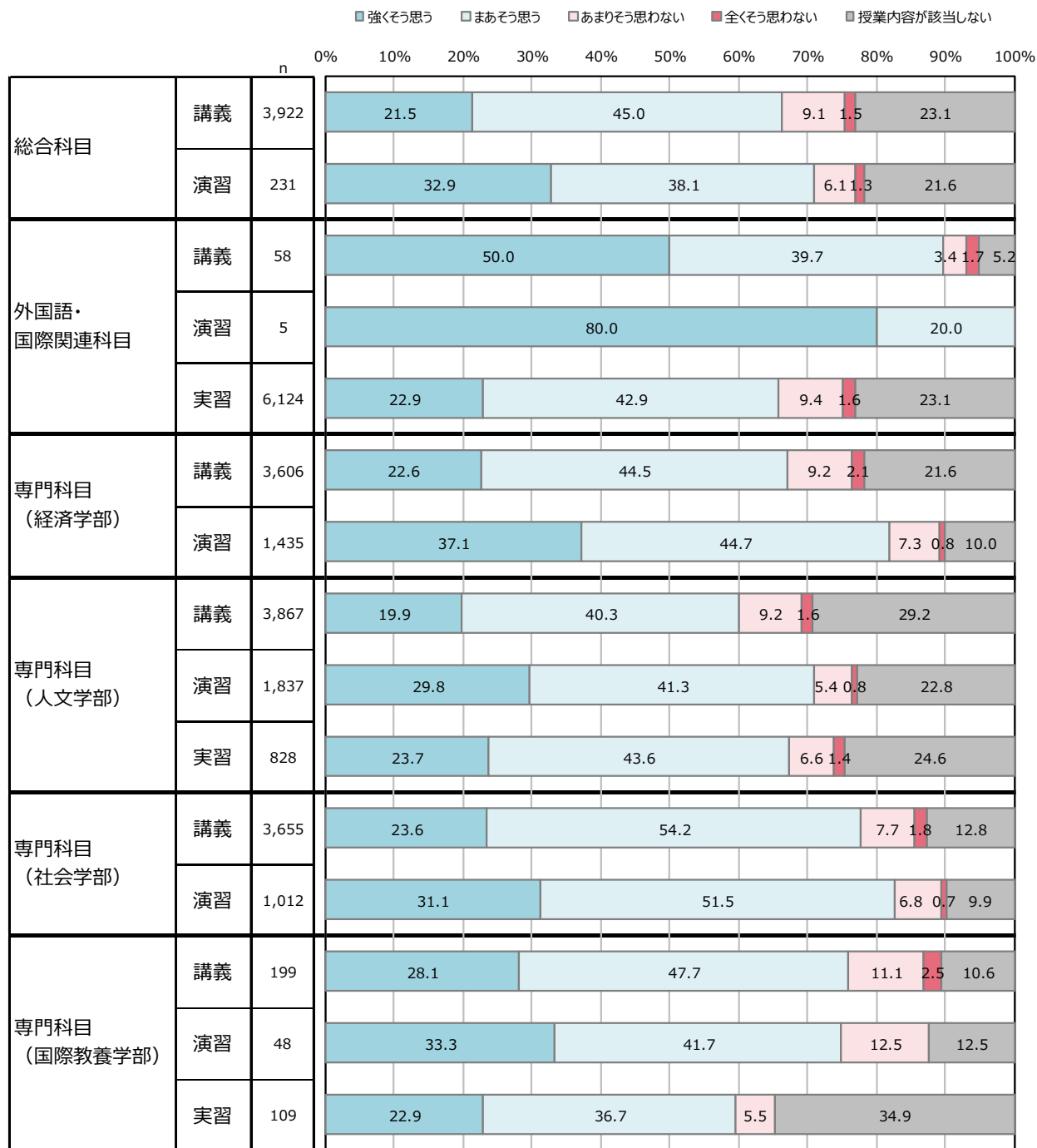
※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-13. 外国語を運用する力が身についた



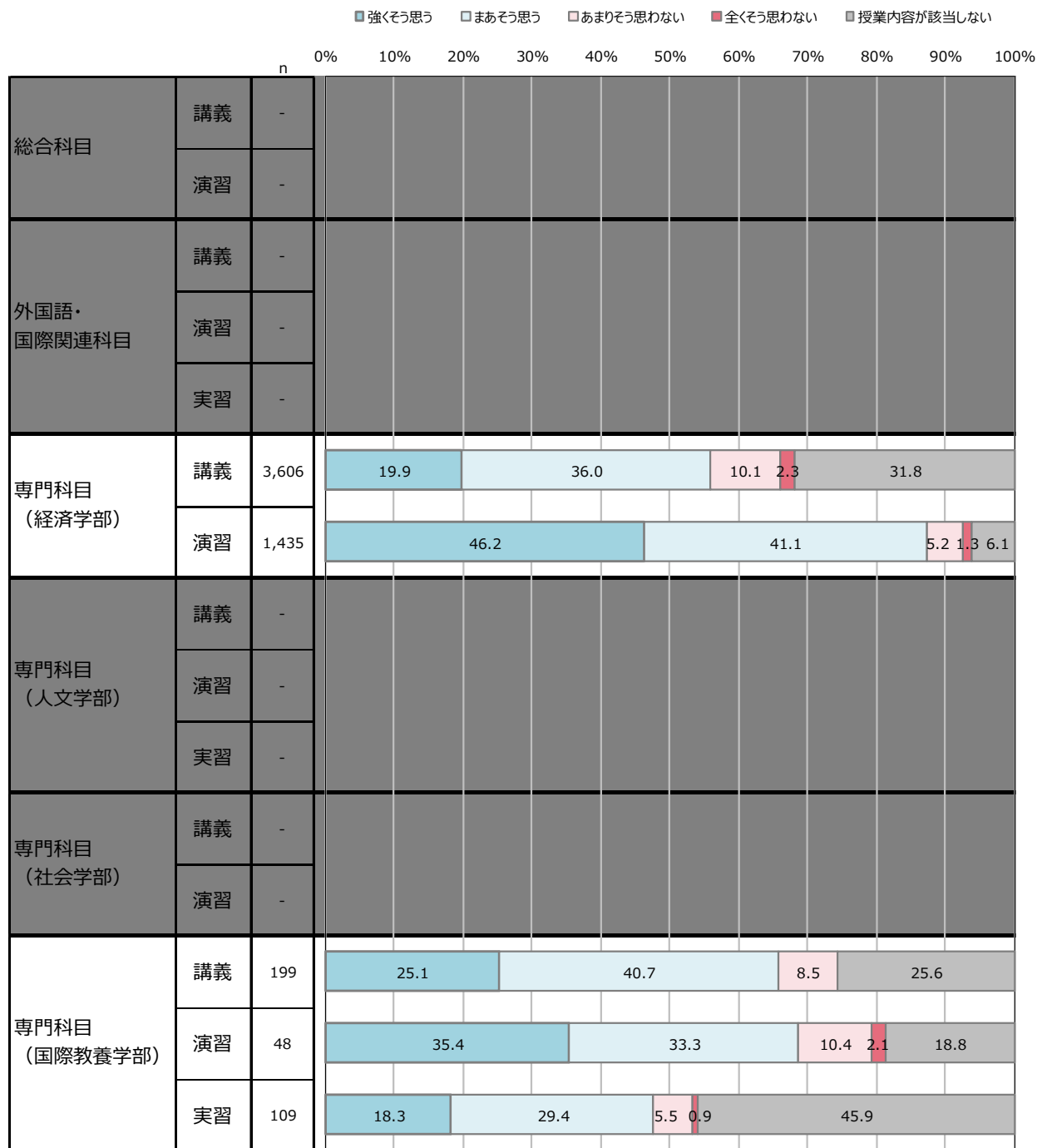
※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-14. 学びを社会のなかで活用する力が身についた



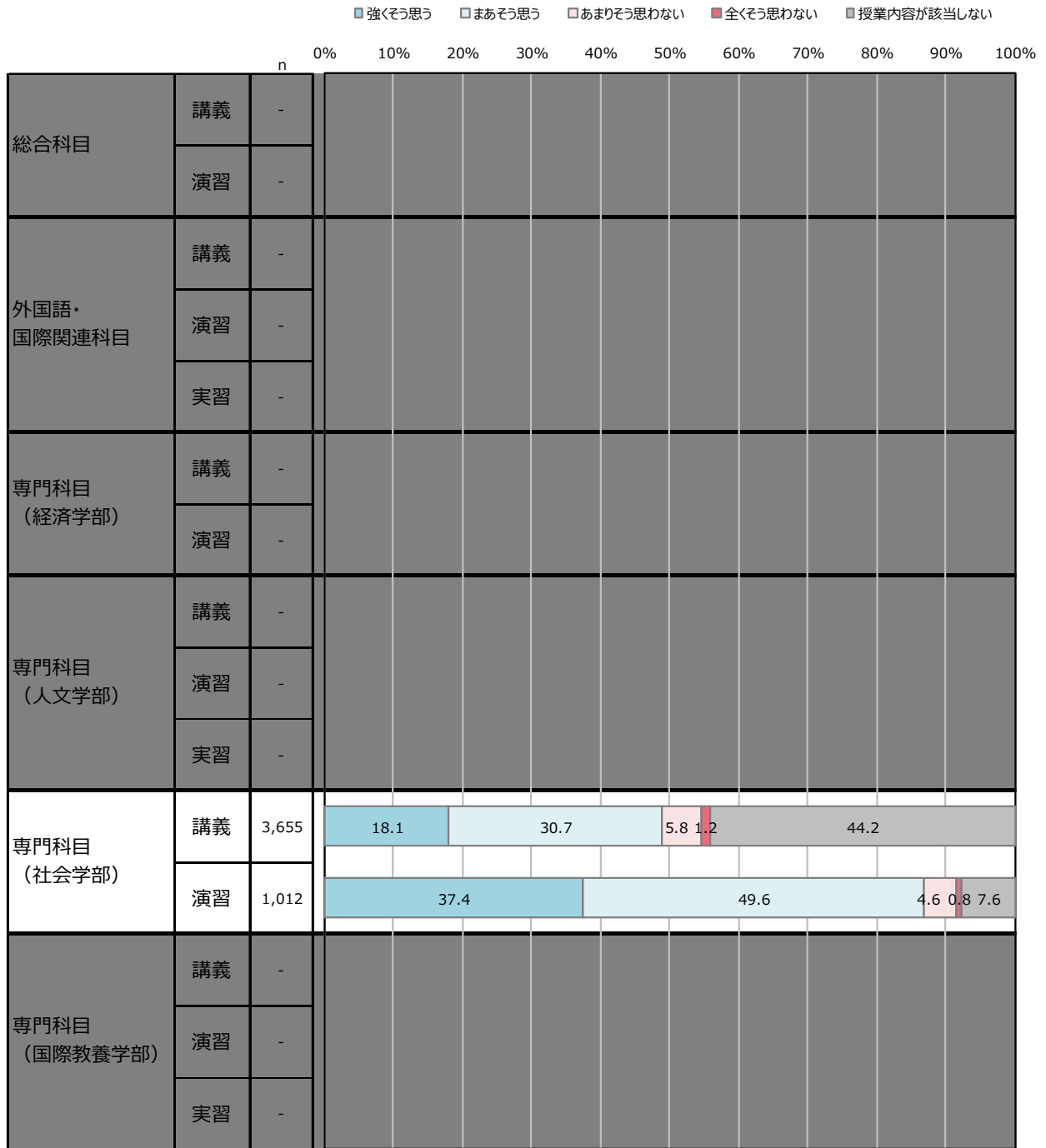
※0%は値ラベルの表示を省略

#### IV-15. 情報の調査収集・処理能力が身についた

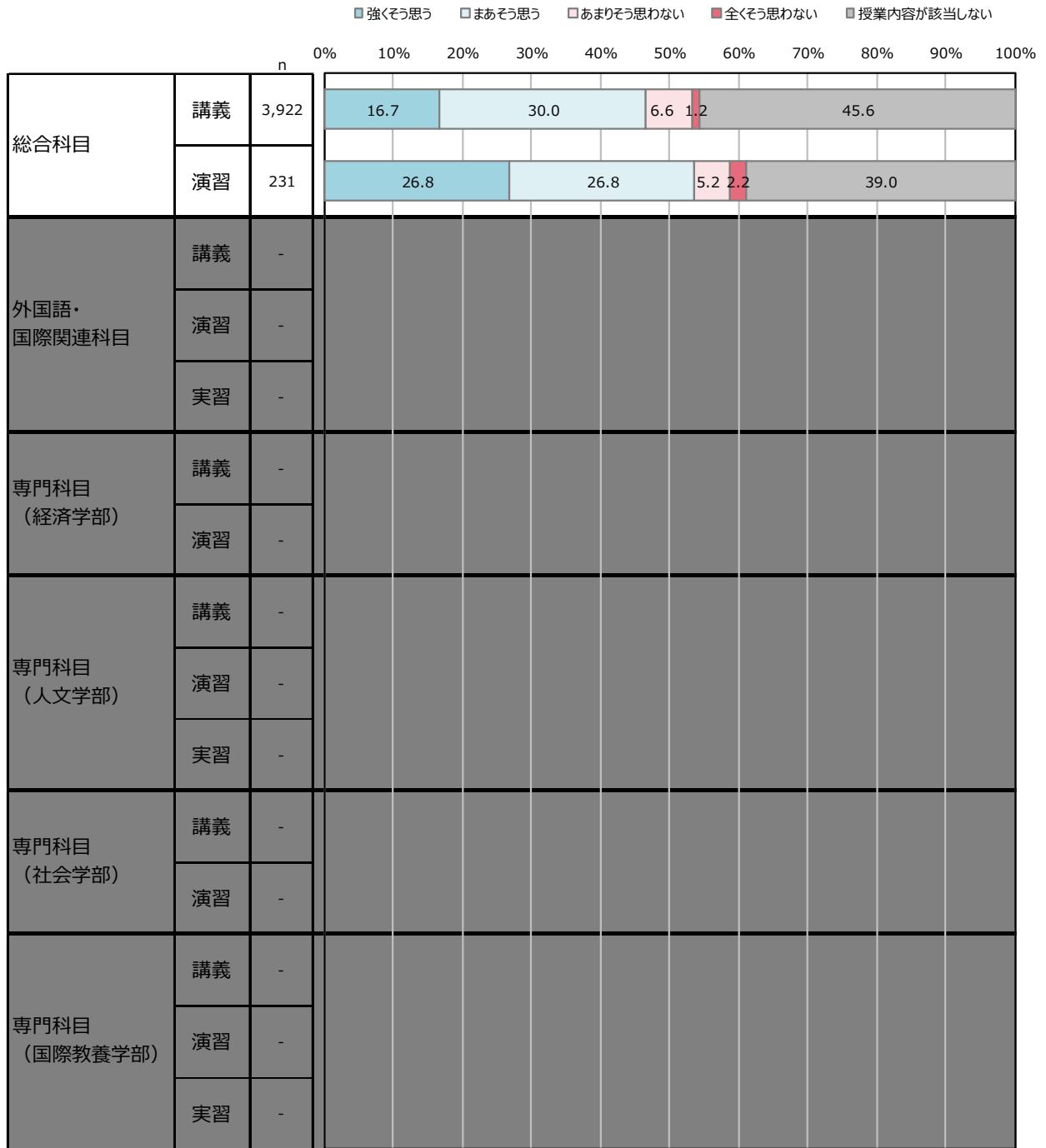


※0%は値ラベルの表示を省略

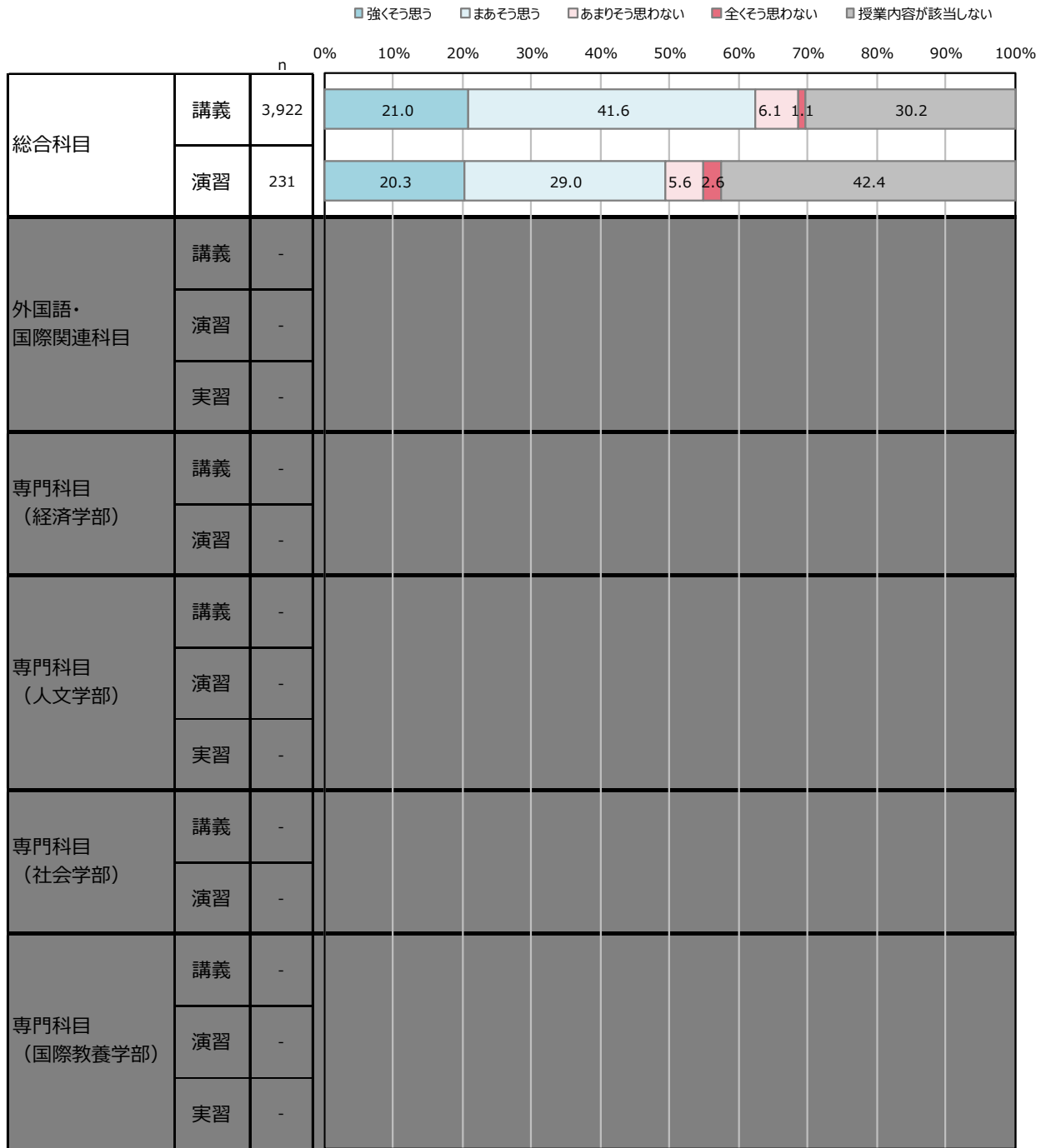
#### IV-16. 調査・制作リテラシーが身についた



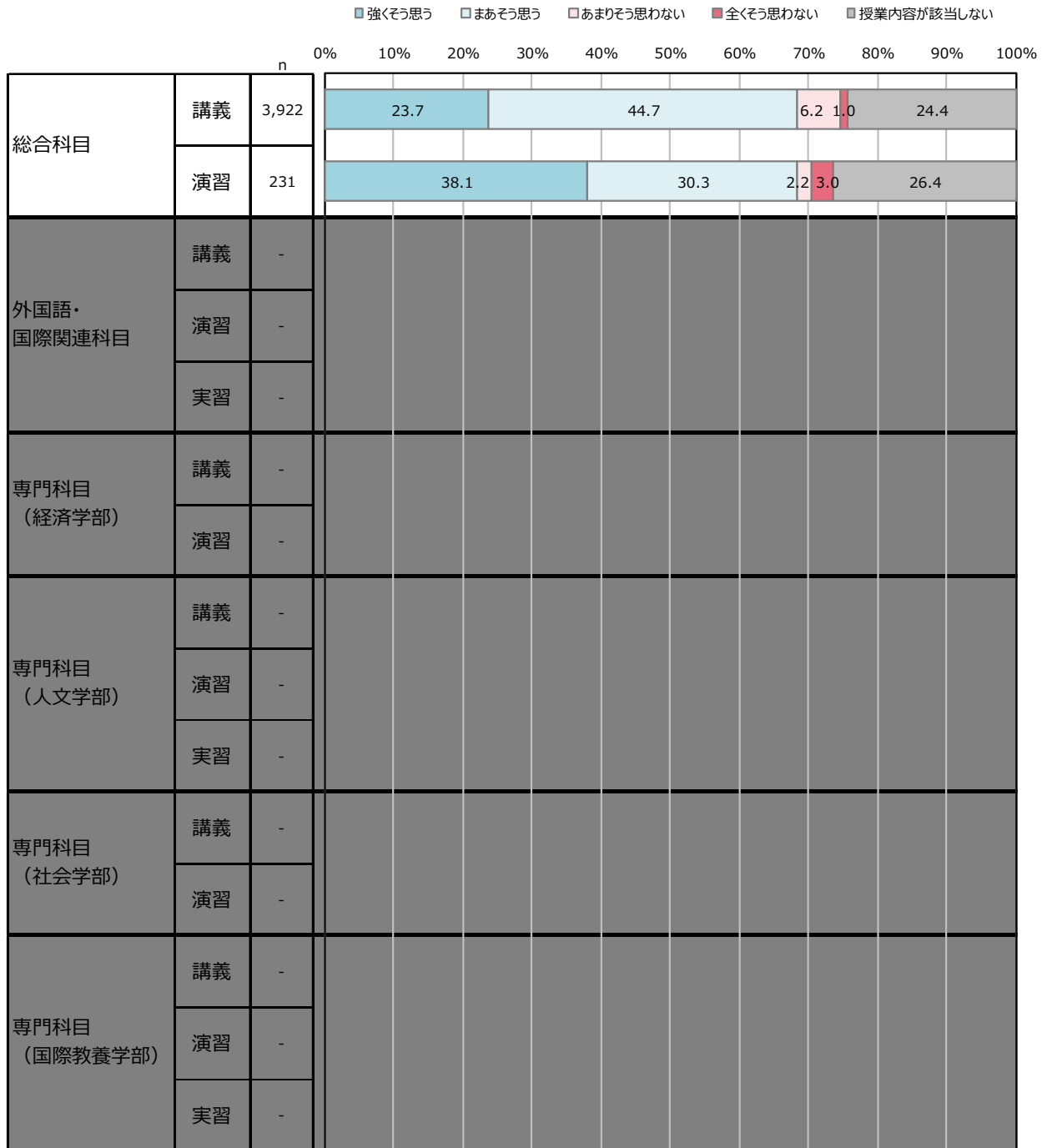
#### IV-17. 情報化社会で学ぶ力が身についた



IV-18. 人類の歩みを広い視野で捉える力が身についた

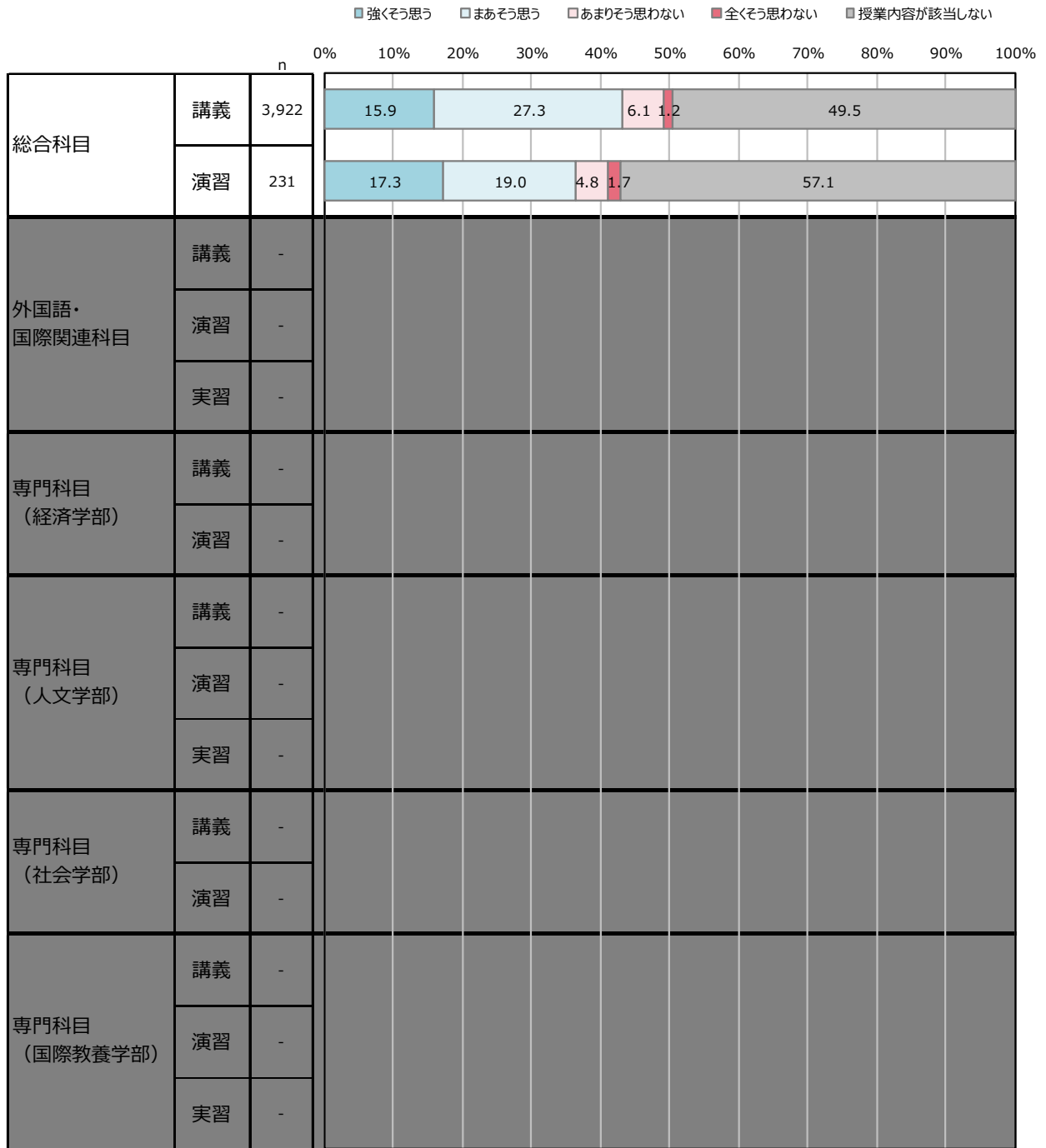


#### IV-19. 多様な視点で現代社会を捉える力が身についた

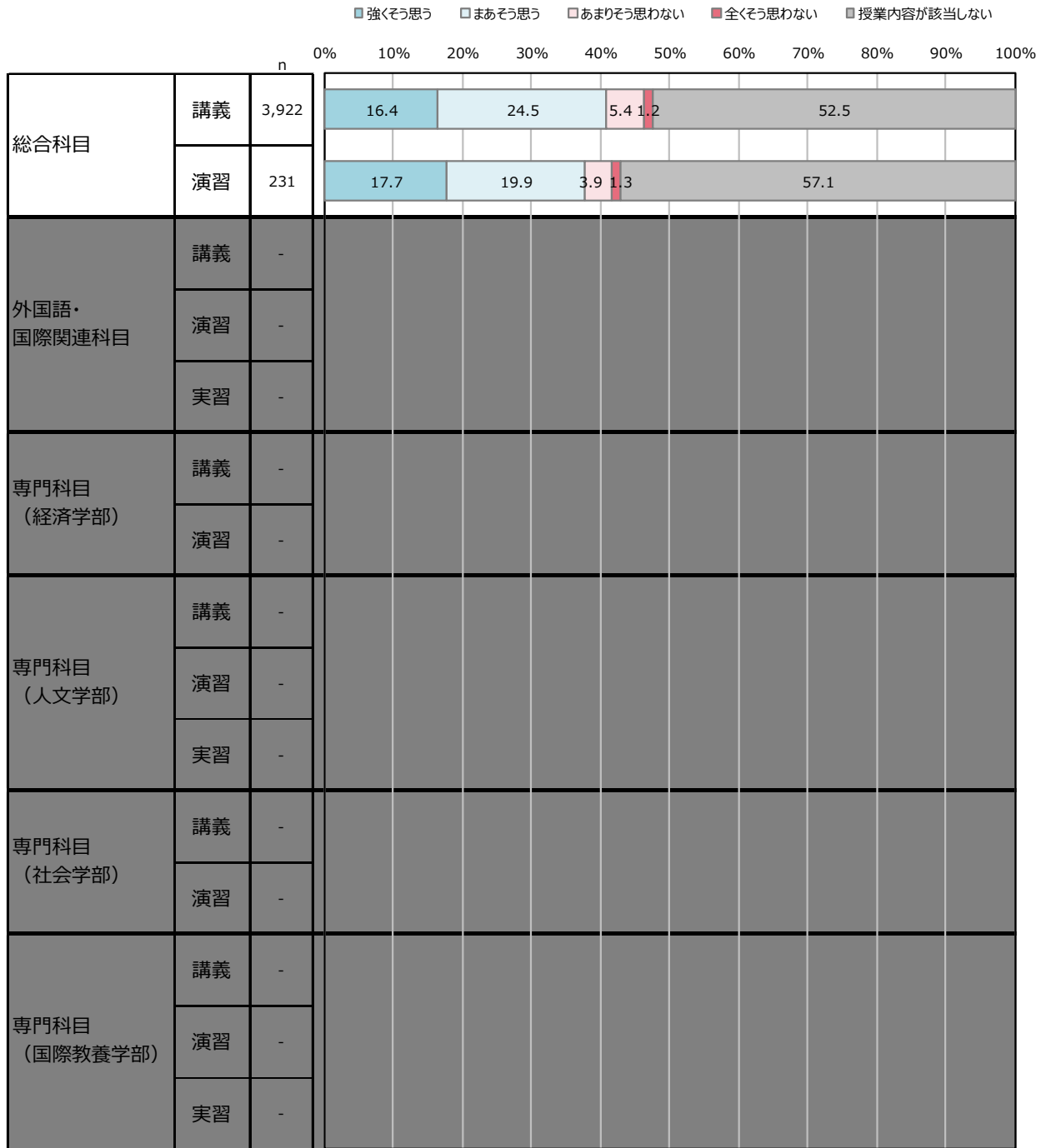




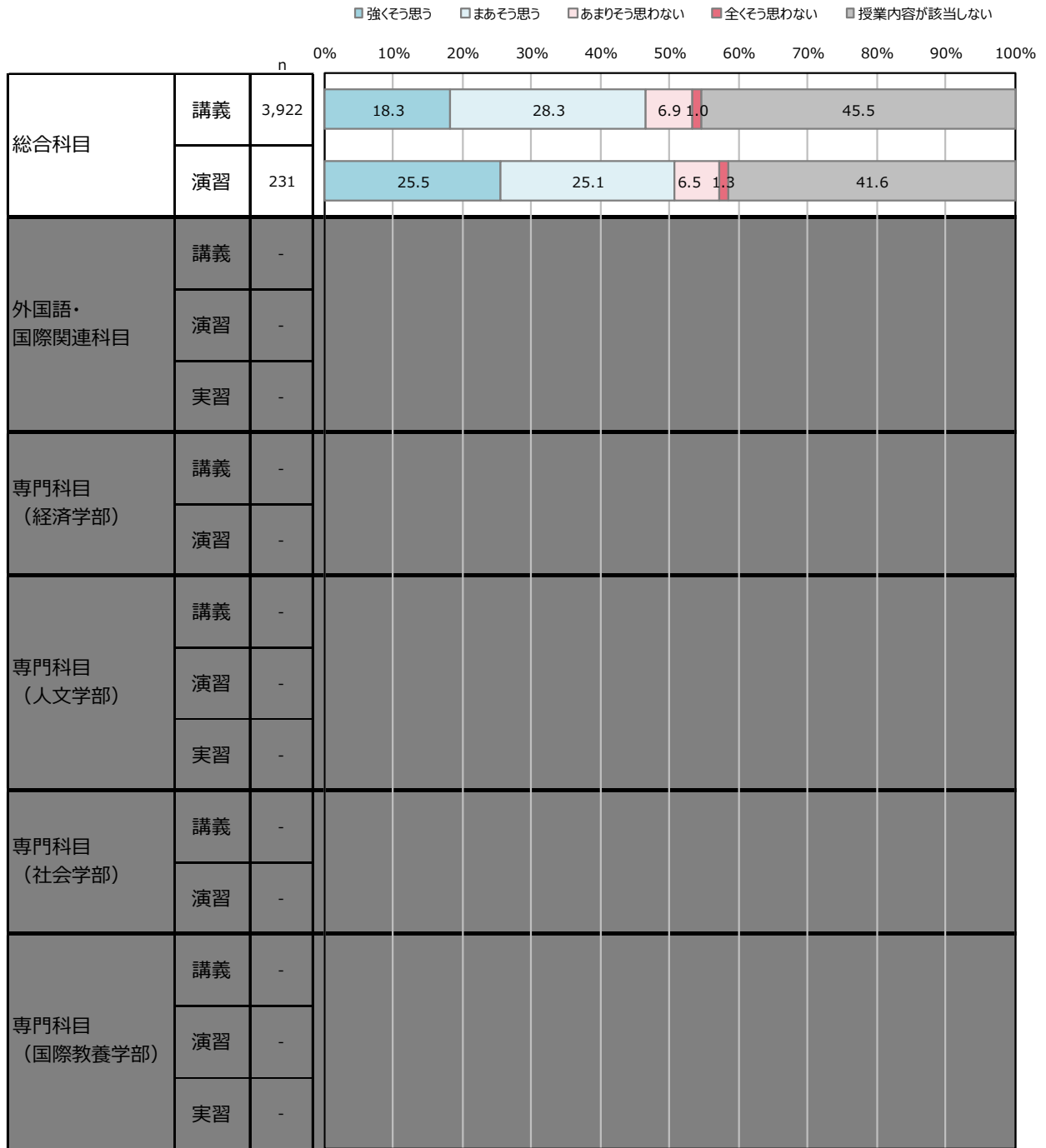
IV-20. 自然と人間の共生を考える力が身についた



#### IV-21. 心と体をトータルに捉える力が身についた



#### IV-22. 自分の人生を構想する力が身についた



## 1-6. 学生が選ぶベストティーチャー賞

本年度、全学部で実施した「学生による授業評価アンケート」の結果をもとに、学生の授業満足度が高い教員を選出し顕彰を行った。

### 総合満足度

#### 評価対象

1. 講義科目のみ
2. 講義科目のクラス規模別の回答率を算出し、平均回答率の90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が10名以上の授業

#### 顕彰方法

各授業の履修者数等に応じて、下記の5クラスに分けて集計する。クラス別に設問:「総合的にみて、この授業は満足できた」及び「この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい」のトップボックス(強くそう思う)の構成比を1:1で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

- ◆小規模クラス1(10~29名)
- ◆小規模クラス2(30~59名)
- ◆中規模クラス(60名~99名)
- ◆大規模クラス(100名以上)
- ◆6時限オンデマンドクラス

### 自調自考賞

#### 評価対象

1. 演習科目のみ
2. 演習科目の回答率を算出し、平均回答率の90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が10名以上の授業

#### 顕彰方法

設問:「自ら調べ自ら考えることが楽しくなった」及び「総合的にみて、この授業は満足できた」のトップボックス(強くそう思う)の構成比を1:1で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

2022年度の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者は26名が選出され、受賞者には学長より賞状と副賞が授与された。

2015年度までは、3クラス・計12名のベストティーチャーを選出していたが、このベストティーチャー賞の受賞を励みにしたいという教員が多いことや、本学の「少人数教育」のメリットを生かした授業を少しでも多く顕彰したいという思いから、2016年度よりクラスを1つ追加した。2018年度には、「ゼミの武蔵」を代表するような授業を顕彰したいと演習科目を対象に「自調自考賞」を設けた。さらに、2021年度にオンデマンド授業が恒常的に導入されたことに伴い、「6限オンデマンドクラス」を追加し、5クラス・計25名を選出することになった。

今後も様々な基準を設けてそれぞれの分野で活躍されている教員を表彰したいと考えている。一方で、回答率が低いことで評価対象とならない授業が多い点が課題として挙げられるため、今後の検討課題としたい。

2022 年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者

【総合満足度】

《小規模授業の部1(10～29名)》

※敬称略、五十音順

担当者	科目名
諫山 三武	コンピューティング基礎/メディア情報処理基礎
石飛 一吉	人文地理学概説
ジュアン・ドウ	Statistics 1 and Mathematics 1(a)
村上 芳博	証券アナリスト(証券分析演習1)
桃崎 有一郎	日本中世史1

《小規模授業の部2(30～59名)》

担当者	科目名
諫山 三武	コンピューティング基礎/メディア情報処理基礎
酒井 徹	生徒指導の理論と方法
阪本 真一	各国金融論(アメリカ)
エディー・ハーン	Transnational Issues 1
桃崎 有一郎	日本古代史1

《中規模授業の部(60～119名)》

担当者	科目名
池田 美千子	日本史概説
石田 惣平	経営分析論
上向 貫志	スポーツイメージ文化論
玉置 佑介	ケアの社会学

《大規模授業の部(100名以上)》

担当者	科目名
アンジェロ・イシ	グローバリゼーションとメディア/グローバル時代のメディア社会学
大内 裕和	教職入門
橋本 道雄	地球と宇宙のフロンティア/地球環境シミュレーション
船木 恵子	経済学説史/経済学説史1

《6 時限オンデマンドクラス》

担当者	科目名
伊藤 誠悟	経営戦略論1/経営戦略論I
中西 祐子	教育社会学
橋本 道雄	自然と生活のなかの物理
山口 みどり	イギリス文化論1

【自調自考賞】

担当者	科目名
自見 まき子	日本語の教授法演習1
鈴木 正明	専門ゼミナル第2部
鈴木 唯	専門ゼミナル第1部
南田 勝也	メディア社会学卒業研究ゼミ